

Kodak Professional

DCS ProSLR/c

デジタルカメラ

ユーザーズ ガイド



コダック プロフェッショナル DCS Pro SLR/c デジタル カメラ



ユーザーズ ガイド

P/N 6B8991



Eastman Kodak Company
343 State Street
Rochester, New York, 14650

© Eastman Kodak Company, 2004

コダックおよびコダック プロフェッショナルは、イーストマン コダック社の商標です。

目次

1 はじめに

お客様登録.....	1-1
安全上のご注意.....	1-2
安全性について	1-2
取り扱いについて	1-2
ご使用前の確認事項.....	1-3
電波障害	1-6
VCCI.....	1-6

2 各部の名称と機能

各部の名称.....	2-1
カメラ前面.....	2-1
カメラ背面.....	2-2
カメラ上面.....	2-2
カメラ底面.....	2-3
カメラ左側面	2-3
カメラ右側面	2-4
カードスロット部.....	2-4
コントロールダイヤル.....	2-5
D ダイヤル (ドライブダイヤル).....	2-5
S ダイヤル / モードレバー.....	2-5
電源を入れる	2-6
ファインダーとフォーカススクリーン	2-6
ボタンの名称と機能.....	2-7
5-Way スイッチ	2-7
OK ボタン	2-8
キャンセルボタン	2-8
メニューボタン	2-8
ナビボタン.....	2-8
ホットキー.....	2-9
ステータスボタン	2-9
デリートボタン	2-9
タグ / 録音ボタン	2-9
液晶モニター	2-10
上部表示パネル	2-10

画像表示パネル.....	2-10
画像表示パネルを表示する.....	2-11
ボタンを無効にする.....	2-12
画像表示パネルを消す.....	2-12
背面表示パネル.....	2-13
メニュー画面.....	2-14
メニュー画面の操作.....	2-14
ステータスボタンによるメニュー操作.....	2-15
ホットキーによるメニュー操作.....	2-16
レンズ.....	2-17
レンズを取り付ける.....	2-17
レンズを取り外す.....	2-18
視度調整.....	2-19
プレビューボタン.....	2-20
被写界深度.....	2-20
ホットシュー.....	2-21
シンクロ端子.....	2-21
拡張端子.....	2-21
ファインダーキャップ.....	2-22
ストラップ.....	2-23
ネックストラップを取り付ける.....	2-23
ハンドストラップを取り付ける.....	2-23

3 カメラに電源を入れる

パワー モジュールを使用してカメラに電源を入れる.....	3-2
バッテリーを使用してカメラに電源を入れる.....	3-2
バッテリーの充電.....	3-2
バッテリーの挿入 / 取り外し.....	3-4
バッテリー状態のチェック.....	3-4
バッテリーの節約.....	3-5
予備のバッテリー電源を使用する場合.....	3-5
CR 2032 コイン型リチウム電池.....	3-6
バッテリーの廃棄.....	3-6

4 基本操作

ベーシック モード.....	4-1
ベーシック モードの設定.....	4-2
メニュー選択.....	4-2
デジタル表示パネル.....	4-3
デジタル表示パネルを使用してメニュー オプションを反転表示する.....	4-3
ISO の設定.....	4-4
ホワイトバランスの設定.....	4-5

Raw 出力解像度の設定	4-6
JPEG 出力解像度の設定	4-6
カードのフォーマット	4-7
画面コントラストの変更	4-8
オーバー露光表示をオンまたはオフにする	4-9
ファームウェア	4-10
ファームウェア バージョンのチェック	4-10
ファームウェアの更新	4-11
時刻 / 日付の設定	4-13
ユーザー モードの設定	4-13
ホットキーボタンを使用してメニュー オプションを反転表示する	4-14
画像の構図、ピント合わせ、撮影	4-15

5 カメラのセットアップ

ユーザー モードの切り替え	5-1
省電力の設定	5-2
カメラ	5-2
画像表示パネル	5-2
カスタム設定	5-3
カスタム設定表	5-3
ファームウェア	5-5
ファームウェア バージョンのチェック	5-5
コンピュータにファームウェアをダウンロードする	5-6
ファームウェア機能	5-6
ファームウェアの更新	5-6
フォルダおよびファイルの命名	5-8
ホットキーの設定	5-9
ジョブトラッカーの使用	5-10
ジョブトラッカーファイルのカードへの保存	5-10
ジョブトラッカーファイルをカードから読み込む	5-11
ジョブトラッカーファイルをカメラのメモリから読み込む	5-12
言語の選択	5-12
設定のリセット	5-13
時刻 / 日付の設定	5-13
縦位置シャッターボタン	5-14
長時間露光モード	5-15
インターバル撮影	5-16
インターバル撮影の設定	5-17
ISO	5-19
画像表示パネルでの ISO 設定	5-19
カメラのダイヤルによる ISO 設定	5-19
ドライブモード	5-20

D- ダイアルのドライブ領域.....	5-20
1 コマ撮影	5-20
連続撮影	5-21
セルフタイマー.....	5-22
セルフタイマーの取り消し.....	5-22
ミラー ロックアップ.....	5-23
リモート コントローラ	5-24
リモート コントローラの設定.....	5-24
カメラをリモート コントロール モードに設定する	5-25
リモート コントロール モードの取り消し.....	5-25
リモート コントローラでミラー ロックアップを使用する	5-26
リモート コントローラ電池の交換.....	5-26
電子音の設定	5-27

6 カード、フォルダ、ファイルの設定

メモリ カード	6-1
カードの挿入.....	6-2
カードの取り出し.....	6-2
画像フォーマット	6-3
カードに書き込まれる画像フォーマットの選択.....	6-3
JPEG 画像フォーマットの選択.....	6-5
カードのフォーマット	6-6
削除したファイルのリカバリー	6-7
書き込み速度の決定.....	6-8
書き込み速度を最も正確に測定する方法.....	6-8
撮影した画像のフォルダ	6-9
撮影フォルダの選択.....	6-9
新規フォルダの作成.....	6-10
画像ファイル	6-11
クロップ アスペクト比の設定.....	6-11
Raw 出力解像度の設定.....	6-12
JPEG 出力解像度の設定.....	6-12
JPEG 画質の設定	6-13
オート露出補正.....	6-14
露出の調整の設定	6-14
ルックの設定	6-15
ノイズ除去の設定	6-15
シャープネス	6-16

7 露出の制御

ホワイト バランス	7-1
プリセット ホワイト バランス.....	7-2

クリック WB.....	7-3
現在の画像をクリック WB に使用	7-3
[保存済み WB 設定] メニューの表示	7-3
保存済み WB 設定の使用	7-4
カメラへの設定の保存.....	7-5
カードからの設定の読み込み	7-6
設定の削除	7-6
露出	7-7
露出測光モード	7-7
測光モードの選択.....	7-7
露出モード.....	7-7
プログラム自動露出モード.....	7-8
絞り優先自動露出モード	7-11
シャッタースピード優先 AE モード.....	7-12
マニュアル露出モード.....	7-13
バルブ設定	7-15
AE ロック	7-16
露出補正	7-17
露出補正の取り消し	7-17
オートブラケティング	7-18
オートブラケティングの取り消し	7-19
オートブラケティングを露出補正と共に使用する	7-19
8 ピント合わせ	
オートフォーカス	8-1
オートフォーカスのモード	8-1
オートフォーカス設定	8-1
オートフォーカスが上手く機能しない場合	8-2
オートフォーカス モードの選択	8-2
オートフォーカス ゾーンを選択	8-2
シングル AF モードでの撮影.....	8-3
コンティニュアス AF モードでの撮影.....	8-3
フォーカスのロック	8-4
マニュアルフォーカス	8-4
9 撮影ワークフロー	
カメラがコンピュータに接続されていない場合の撮影ワークフロー	9-1
装置と媒体の準備	9-2
テスト画像の撮影および評価	9-3
撮影	9-3
時々の確認.....	9-4
画像の転送.....	9-4

画像の編集.....	9-4
コダック プロフェッショナル DCS Photo Desk	9-5
コダック プロフェッショナル ERI File Format Module.....	9-5
カメラがコンピュータに接続されている場合の撮影ワークフロー.....	9-6
コンピュータおよび電源への接続.....	9-6
撮影ソフトウェアの起動.....	9-6
装置と媒体の準備	9-6
テスト画像の撮影および評価.....	9-6
撮影	9-6
時々の確認.....	9-6
画像の編集.....	9-6

10 フラッシュ撮影

互換性のあるフラッシュユニット.....	10-1
アクセサリ シューフラッシュの取り付け	10-2
スタジオフラッシュの接続	10-2
使用できる機能.....	10-3
E-TTL 自動フラッシュ	10-3
ハイスピード同期モード.....	10-4
フラッシュ露出ロック	10-4
フラッシュ露出補正.....	10-4
フラッシュ露出ブラケットティング	10-4
フラッシュ結果のプレビュー.....	10-5
1つ以上のフラッシュユニットのあるワイヤレスフラッシュ	10-5

11 カメラ上の画像の操作

画像の表示.....	11-1
画像表示モードの選択	11-1
画像表示モードメニューの表示時間の変更	11-2
1 コマ画像モード.....	11-2
ヒストグラムモード.....	11-3
ヒストグラムの解釈	11-3
ズーム表示モード	11-4
ズーム対象領域の有効化または無効化	11-4
ズーム	11-4
パン	11-4
照度計	11-5
複数画像モード.....	11-5
ステータスバー.....	11-5
表示フォルダの選択.....	11-6
画像のブラウズ.....	11-7
Nav+ ボタンを使用した画像のブラウズ	11-7

ロケーションバー.....	11-7
画像の選択.....	11-7
オーバー露光表示.....	11-8
画面コントラストおよび輝度の変更.....	11-8
オートレビュー.....	11-9
スライドショー.....	11-9
スライドショーの開始 / 停止	11-10
画像の削除.....	11-11
画像にタグを付ける.....	11-12
音声ファイルの記録.....	11-13
12 外部ビデオ表示	
接続.....	12-1
外部ビデオの有効化.....	12-2
13 コンピュータへの接続	
IEEE 1394 接続の利点	13-1
カードリーダーの利点	13-1
コンピュータのカメラへの接続	13-2
終了 — コンピュータからの切断	13-3
カードリーダーの使用	13-3
14 カメラの手入れ	
取り扱い.....	14-1
クリーニング.....	14-2
イメージャー	14-3
イメージャーの汚れの調べ方	14-3
テストイメージでの調査	14-3
クリーニング手順.....	14-4
保管	14-5
上部表示パネルと画像表示パネル.....	14-5
15 シリアル データ収集とグローバル ポジショニング システム (GPS)	
シリアルデータ収集.....	15-1
シリアル ポートに装置を接続する	15-1
データ入力モード.....	15-2
データ入力ステータス.....	15-4
データ出力モード.....	15-4
ボーレートの設定	15-5
グローバル ポジショニング システム (GPS).....	15-5
GPS 機能を使用するための要件	15-5
GPS 機能の使用	15-6

目次



付録 A: 仕様

バーストの深さ	A-4
---------------	-----

付録 B: レンズの互換性

SIGMA レンズ	B-1
CANON レンズ	B-3

付録 C: トラブルシューティング

問題、原因、対処	C-1
----------------	-----

付録 D: 保証について

コダック プロフェッショナル DCS Pro SLR/c デジタルカメラ	D-1
保証の制限	D-2
日本国外での保証	D-3
お客様相談センター / 修理窓口	D-3
ウェブサイト	D-4

用語集

索引



1 はじめに

このたびはコダック プロフェッショナル **DCS Pro SLR/c** デジタルカメラ (**DCS Pro SLR/c**) をお買い上げいただき、ありがとうございます。このデジタルカメラシステムは、**35 mm** 判フルサイズの **CMOS** センサーを搭載しており、高解像度、高品質なデジタル画像を撮影することができます。ご使用前に、このユーザーズガイドをよくお読みになり、十分ご理解いただき、末永くご愛用くださいますようお願いいたします。

お客様登録

お客様登録カードにご記入いただき、必ずご返送ください。

安全上のご注意

安全性について

- 当社が推奨していないアクセサリは使用しないでください。発熱や破損の原因となります。

取り扱いについて

- カメラをパソコンに接続するときに、リピーターを使用しないでください。カメラが故障したり、性能が著しく低下することがあります。
- **IEEE1394** ケーブルをカメラまたはパソコンに接続するときに、プラグを差し込む向きを確認して差し込んでください。方向が間違っていると、カメラやパソコンを損傷することがあります。
- メモリーカードは壊れやすいので、お取り扱いには十分ご注意ください。メモリーカードを落とした場合、カードが破損してすべてのデータが失われる場合があります。
- 背面表示パネルでメモリーカードアイコンが点滅しているとき、カードスロットのカードビジーランプが点滅しているときは、カメラがメモリーカードからデータを読み出しているか、メモリーカードにデータを書き込んでいます。このとき、カメラからメモリーカードを取り出したり、バッテリー、またはパワーモジュールを取り外して電源を切らないでください。メモリーカード内のデータがすべて失われる可能性があります。
- パワーモジュールを使用してカメラに電源を供給する場合、指定された電源電圧以外で使用しないでください。パワーモジュールやカメラの故障の原因となります。
- 専用のパワーモジュール以外を使用してカメラに電源を供給しないでください。
- パワーモジュールは屋内でのみ使用してください。
- 付属のパワーモジュールは、コダック プロフェッショナル **DCS Pro SLR/c** デジタルカメラ以外には使用しないでください。
- 撮影中は、画像表示パネルで画像が正しく撮影されているか確認してください。
- フォーカス スクリーンを交換しないでください。フォーカススクリーンの交換が必要な場合は、ご購入された販売店、またはお客様相談センターにご相談ください。

ご使用前の確認事項

- カメラをお使いになる前に、ユーザーズガイドをお読みいただき、記載事項にしたがって正しく使用してください。
- カメラを不安定な場所に置いたり、落としたりしないでください。カメラの故障の原因となるばかりでなく、破損部でけがをする可能性があります。
- 埃の多い場所でカメラを使用しないでください。カメラに埃がたまり、故障の原因となります。
- カメラを水につけたり、水をかけたりしないでください。また塩水に触れる可能性がある場所で使用したり、水その他の液体に浸さないでください。付属の AC アダプター兼バッテリーチャージャーを水につけたり、水をかけたりしないでください。
- カメラ内部に異物を入れないでください。高圧部分に接触した場合に、ショートしたり、火災や感電の原因となります。
- 当社が推奨していないアクセサリを使用しないでください。カメラ故障の原因となります。
- コンセントや延長コードに電氣的に大きな負荷をかけないでください。火災や感電の原因となります。
- コード類は、踏まれたり、ものに挟まれたり、下敷きにならないところで使用してください。特にカメラに接続されたコードが無理やり外れた場合、カメラのコネクタ部の故障の原因となります。
- 雷のときには、カメラから AC アダプター兼バッテリーチャージャーを取り外し、カメラとパソコンの接続を外してください。
- メモリーカードは精密機器なので、取り扱いには十分注意してください。メモリーカードの使用説明書にしたがって、正しく使用してください。
- 相対湿度が **15 ~ 76%** で、結露が発生していない状態でカメラを使用してください。結露が発生した場合、メモリーカードからのデータの読み込み時間、またはメモリーカードの書き込み時間が長くなります。結露は、カメラを気温の低いところから、暖かく湿気のある場所に移したときに発生します。この場合、しばらく待ってから操作してください。(メモリーカードの動作湿度はカメラ以上に制限されている場合があります。お手持ちのメモリーカードに付属の仕様書を参照してください。)メモリーカードに付属の仕様書を参照してください。
- 直射日光のあたる場所や火のそばなど、高温になる場所には

放置しないでください。

—ご自身でカメラを修理、改造したり、分解しないでください。感電したり、カメラの動作に異常をきたすことがあります。この場合、保証が無効になることがあります。

—以下の場合、カメラを修理する必要があります。

- 液体をカメラにこぼしたり、カメラ内部に異物が入ってしまった場合
- カメラが強い雨にさらされたり、水で濡れてしまった場合（カメラはある程度の湿気に耐えるように設計されていますが、防水仕様ではありません。）
- ユーザーズガイドにしたがってカメラを操作しても正常に動作しない場合
- カメラを落とすなどして、ボディが破損した場合
- カメラが性能上明確な変化を示した場合

—当社が推奨していないアクセサリを使用しないでください。カメラ故障の原因となります。

—コンセントや延長コードに電氣的に大きな負荷をかけないでください。火災や感電の原因となります。

—コード類は、踏まれたり、ものに挟まれたり、下敷きにならないところで使用してください。特にカメラに接続されたコードが無理やり外れた場合、カメラのコネクタ部の故障の原因となります。

—雷のときには、カメラから AC アダプター兼バッテリーチャージャーを取り外し、カメラとパソコンの接続を外してください。

—メモリーカードは精密機器なので、取り扱いには十分注意してください。メモリーカードの使用説明書にしたがって、正しく使用してください。

—相対湿度が **15 ～ 76%** で、結露が発生していない状態でカメラを使用してください。結露が発生した場合、メモリーカードからのデータの読み込み時間、またはメモリーカードの書き込み時間が長くなります。結露は、カメラを気温の低いところから、暖かく湿気のある場所に移したときに発生します。この場合、しばらく待ってから操作してください。（メモリーカードの動作湿度はカメラ以上に制限されている場合があります。お手持ちのメモリーカードに付属の仕様書を参照してください。）メモリーカードに付属の仕様書を参照してください。）

—直射日光のあたる場所や火のそばなど、高温になる場所には

放置しないでください。

—ご自身でカメラを修理、改造したり、分解しないでください。感電したり、カメラの動作に異常をきたすことがあります。この場合、保証が無効になることがあります。

—以下の場合、カメラを修理する必要があります。

- 液体をカメラにこぼしたり、カメラ内部に異物が入ってしまった場合
- カメラが強い雨にさらされたり、水で濡れてしまった場合（カメラはある程度の湿気に耐えるように設計されていますが、防水仕様ではありません。）
- ユーザーズガイドにしたがってカメラを操作しても正常に動作しない場合
- カメラを落とすなどして、ボディが破損した場合
- カメラが性能上明確な変化を示した場合

電波障害

この装置は、FCC ルールの **Part 15** 記載の仕様に基づくクラス **B** デジタル装置に関する制限に準拠していることがテストおよび確認済みです。これらの規制は、住宅地域で使用されたときに適切な受信障害防止策を提供することを目的としています。本装置は、無線周波エネルギーを発生、使用し、放射することがあります。取扱説明書に従って設置および使用されない場合、受信障害を引き起こすことがあります。しかし、特定の設置条件では障害が発生しないという保証はありません。本装置のスイッチをオンオフすることにより、本装置がラジオやテレビジョン受信機に受信障害を引き起こしていることが確認された場合は、次の方法の1つまたはいくつかをお試しになるようお勧めします。

- 受信アンテナの向きを変えるか設置場所を変更してください。
- カメラと受信機の間隔をあけてください。
- カメラの電源を、受信機の接続されているコンセントとは別のコンセントに差し込んでください。
- 販売店または経験を積んだラジオまたはテレビ技術者に相談してください。

VCCI

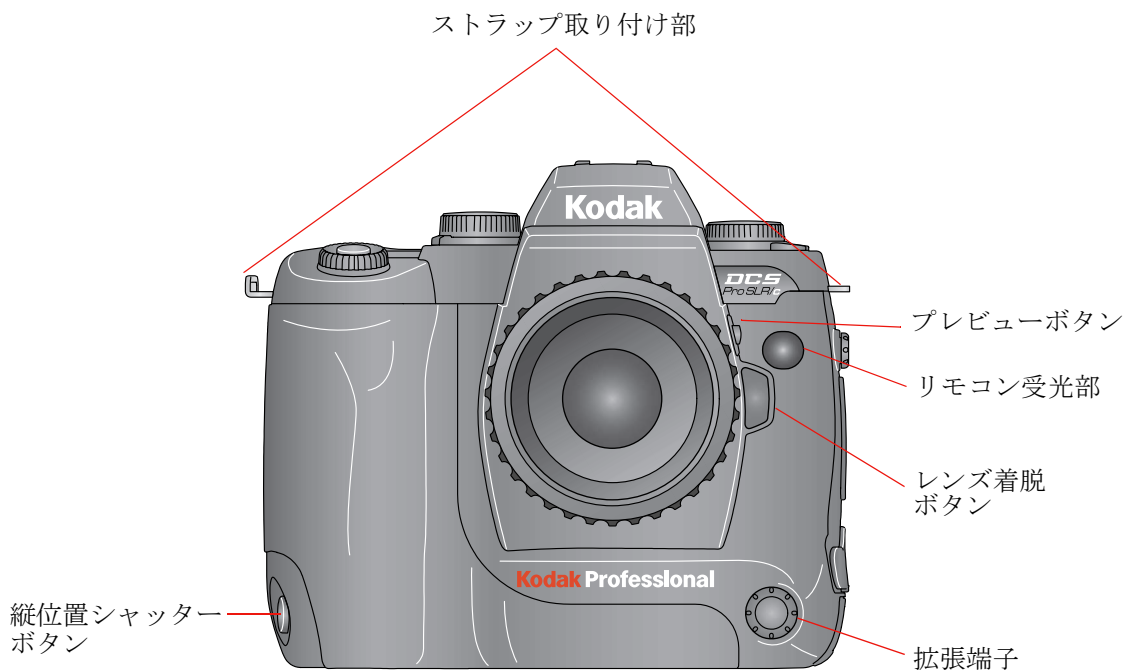
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス **A** 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス **B** 情報技術装置です。この装置を家庭環境でラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、電波障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しく設置および使用して著作権についてあなたがカメラ（本機）で撮影したものは、個人として楽しむなどほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

2 各部の名称と機能

各部の名称

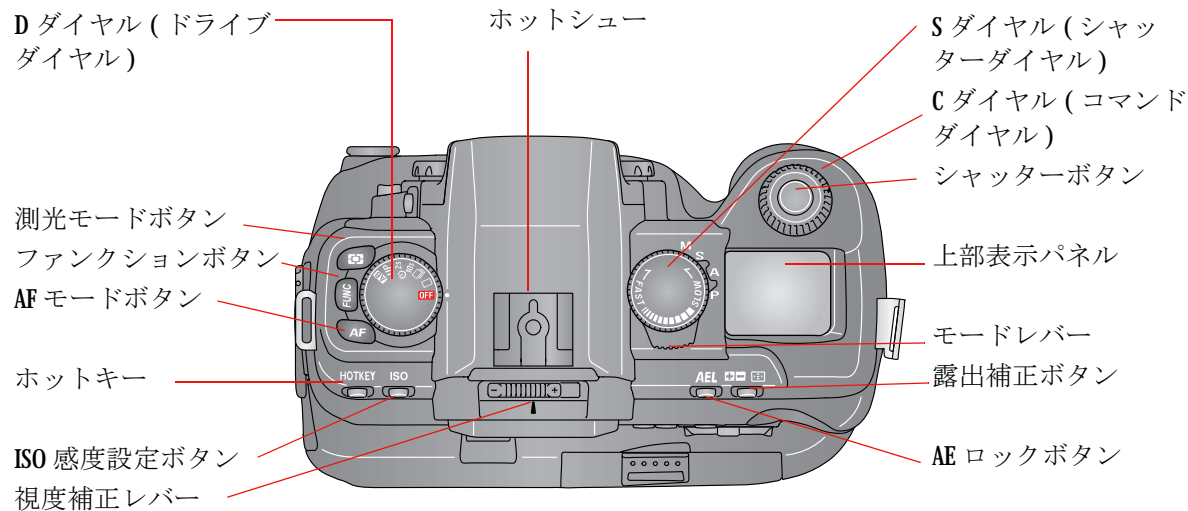
カメラ前面



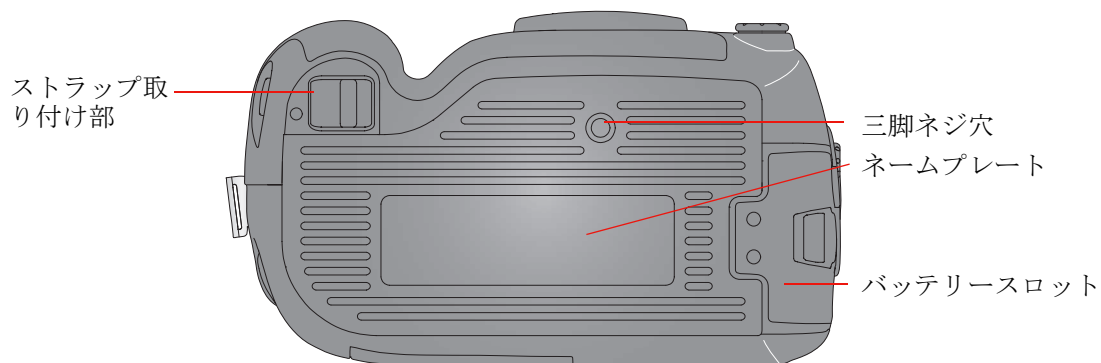
カメラ背面



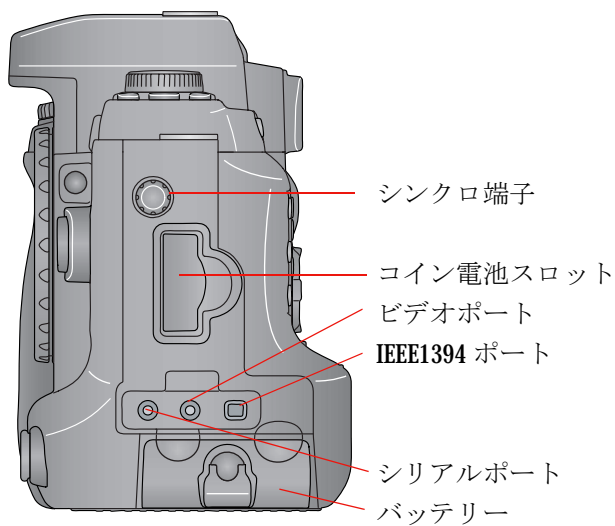
カメラ上面



カメラ底面

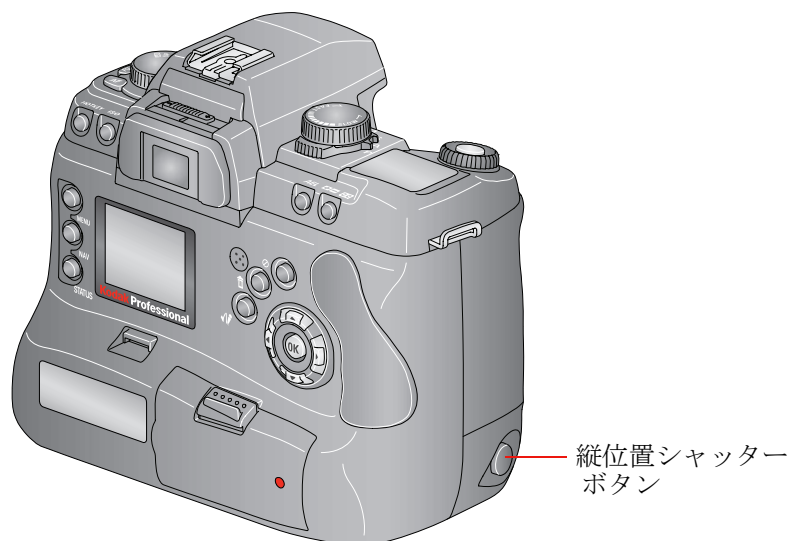


カメラ左側面

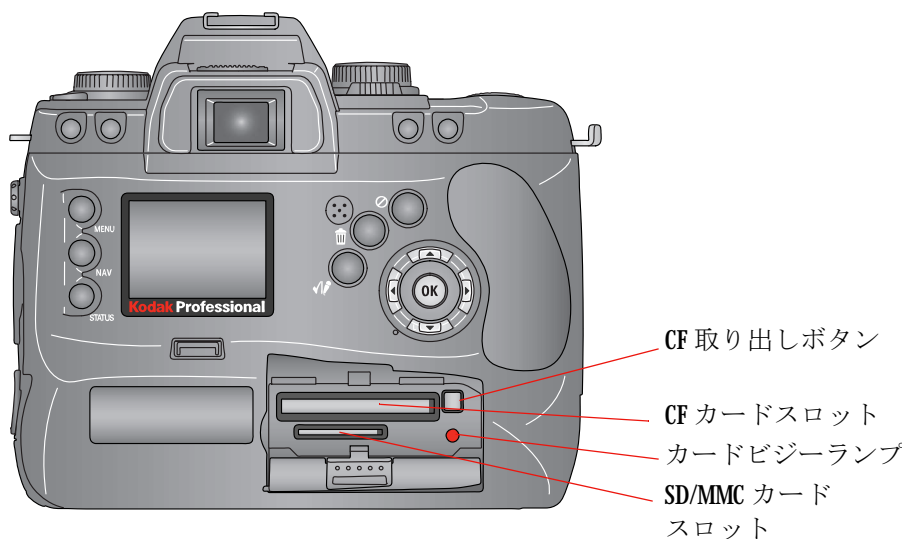


各部の名称と機能

カメラ右側面

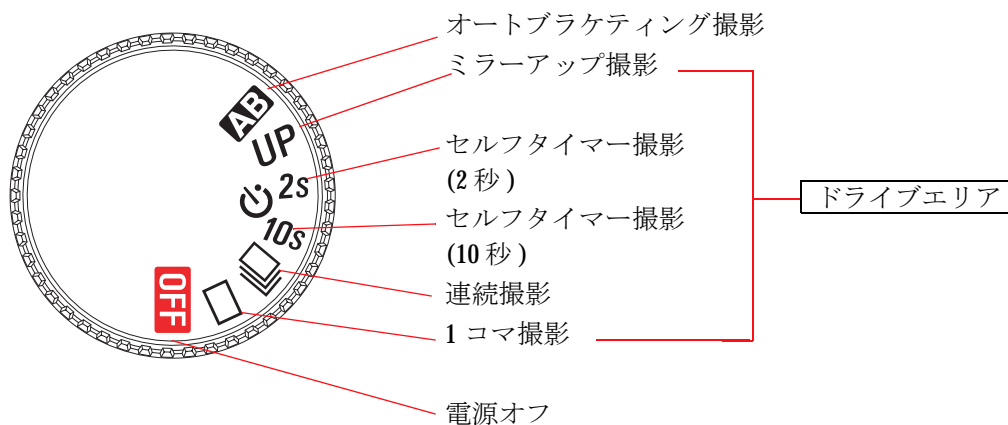


カードスロット部

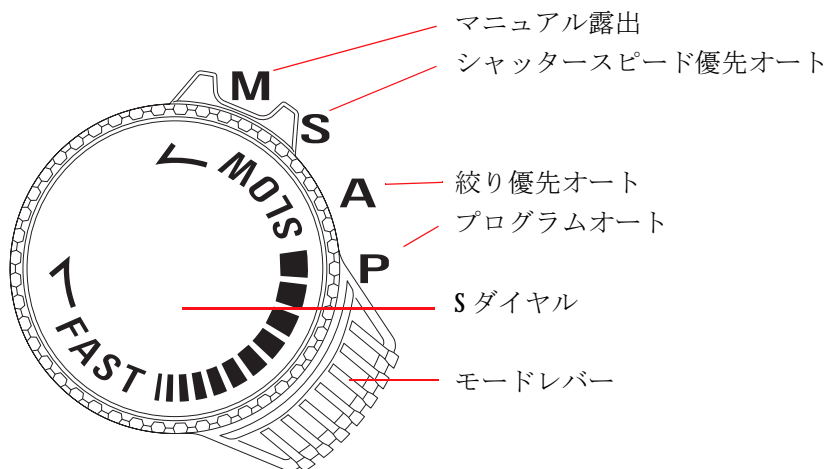


コントロールダイヤル

D ダイアル (ドライブダイヤル)





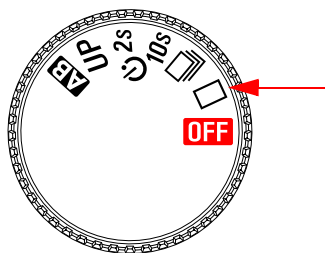
S ダイアル / モードレバー



電源を入れる

バッテリーまたはパワーモジュールをカメラのバッテリースロットに入れて、カメラに電源を供給します
(3-1 ページ参照)。

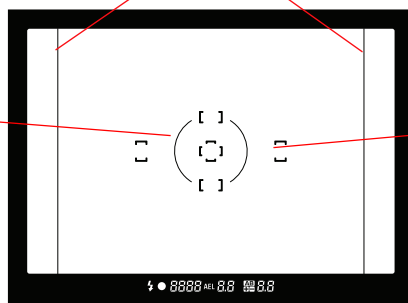
- D ダイアルを回して  (1 コマ撮影) に合わせると、電源が入ります。D ダイアルを回して  OFF に合わせると、カメラの電源が切れます。



ファインダーとフォーカススクリーン

8 x 10 フォーマット用クロップ線

中央部分測光範囲表示



オートフォーカスフレー

フラッシュ表示



露出メーター表示

オートブラケティング表

合焦表示

絞り値表示

シャッタースピード表示

AE ロック表示

備考：フォーカススクリーンを交換しないでください。交換の必要がある場合は、ご購入された販売店、またはお客様相談センターまでお問い合わせください。

ボタンの名称と機能



5-Way スイッチ

5-Way スイッチは、OK ボタンとそれを囲む 4 方向のキーで構成されています。OK ボタンに関しては [2-8 ページ](#) を参照してください。

画像表示パネルを表示しているときは、メニューの選択や表示する画像を切り替えるのに使用します。(下図を参照)

5-Way スイッチの左右ボタンの機能

- 画像表示モードで表示画像を切り替えます。
- ズーム表示モードでズームボックスが有効なとき、ズームボックスを左右に移動させます。
- アドバンスモードのメニュー表示でタブを切り替えます。
- メニューが表示されている場合に、右を押すと選択された項目が有効になり、左を押すと無効になります。

5-Way スイッチの上下ボタンの機能

- 画像表示モードを切り替えます。
- ズーム表示モードでズームボックスが有効なとき、ズームボックスを上下に移動させます。
- メニュー表示で選択する項目を切り替えます。

OK ボタン

- 画像表示パネルが消えているときに、画像表示パネルを表示します。画像表示モードが表示されます。
- メニュー表示で選択された項目を実行します。
- ズーム表示モードでズームボックスを有効にします。
- ズーム表示モードでズームボックスが有効なとき、ズームの拡大率を変更します。
- 確認のメッセージが表示されたとき、変更を適用して確認画面を終了します。

キャンセルボタン

- 画像表示モードで画像表示パネルを消します。
- メニュー表示で変更を適用せずにメニューを終了します。
- ズーム表示モードでズームボックスが有効なとき、ズームボックスを無効にします。
- 確認のメッセージが表示されたとき、変更を適用せずに確認画面を終了します。

メニューボタン

- 画像表示パネルが消えているとき、画像表示パネルを表示します。最後に選択したメニューが選択された状態で表示されます。
- 画像表示パネルが画像表示モードのときにメニュー表示に切り替えます。最後に選択したメニューが選択されます。
- 画像表示パネルにメニューが表示されているときに、画像表示モードに切り替えます。

ナビボタン

画像表示モードで表示するフォルダを切り替えます。

- 画像表示パネルが消えているとき、画像表示パネルを表示します。最後に選択した画像表示モードが表示されます。
- 画像表示パネルが表示しているとき、最後に選択した画像表示モードに切り替わり、選択可能なフォルダを表示します。
- 画像表示モードでフォルダを切り替えます。ナビボタンを押したまま、**5-Way** スイッチの上または下を押します。
- 画像表示モードで表示画像を **10** 枚先、あるいは後の画像に切り替えます。ナビボタンを押したまま **5-Way** スイッチの左右を押します。

ホットキー

ホットキーにはよく使う機能を割り当て、ショートカットキーとして使用します。

備考：ステータスボタンは、背面表示パネルに表示されるアイコンに関連する機能へのショートカットキーとして使用できます。ホットキーには、ステータスボタンからショートカットできない機能も割り当てることができません。

- 画像表示パネルが消えているとき、画像表示パネルを表示します。ホットキーの一番目に割り当てられているメニューが表示されます。
- 画像表示パネルを表示しているとき、ホットキーに割り当てられたメニューが選択されます。
- ホットキーに割り当てたメニューを表示し、それを切り替えます。ホットキーを押したまま、**5-Way** スイッチの左または右を押します。

ステータスボタン

ステータスボタンは背面表示パネルに表示されるアイコンに関連するメニューを表示させるショートカットキーとして使用します。

- 背面表示パネルで最後に選択したアイコンが反転表示され、画像表示パネルにそのアイコンに関連したメニューが表示されます。
- 背面表示パネルのアイコンに関連したメニューを画像表示パネルに表示させます。ステータスボタンを押した状態で、**5-Way** スイッチでアイコンを選択します。
- 画像表示パネルが消えているとき、画像表示パネルを表示します。背面表示パネルで最後に選択したアイコンに関連したメニューが選択されて表示されます。

デリートボタン

画像表示モードで画像を削除するときに使用します。一括して画像を削除することもできます。

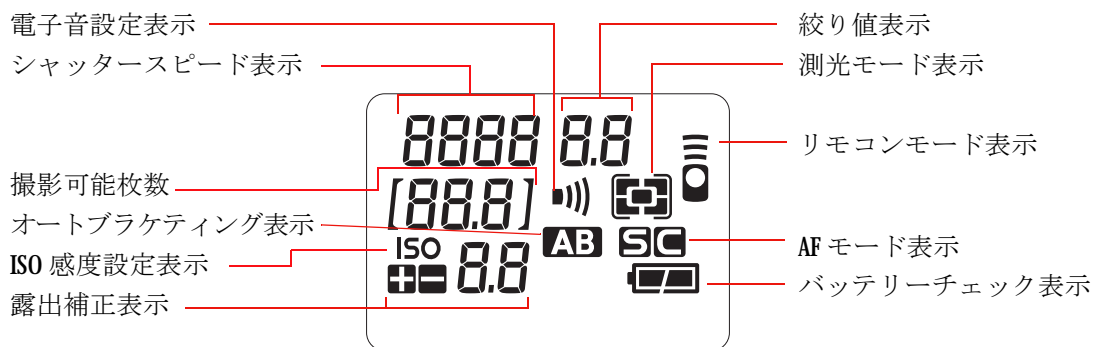
タグ / 録音ボタン

画像表示モードで画像にタグをつけたり、音声を録音するときに使用します。

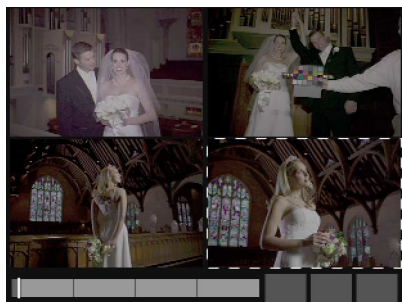
- タグ / 録音ボタンを押すと（1秒以内）、表示されている画像にタグをつけます。
- タグ / 録音ボタンを1秒以上押し続けると、背面表示パネルにマイクアイコンが表示され、押し続けている間音声録音が可能になります。

液晶モニター

上部表示パネル



画像表示パネル



画像表示パネルでは撮影した画像を確認したり、メニューを操作して各種瀬で値を行います。

- カメラで撮影した画像を表示させ、確認することができます。

備考： 画像表示パネルには極端に明るいピクセル、または暗い（点灯しない）ピクセルが存在することがあります。これは液晶パネルの特性で、故障ではありません。この場合でも、露出、色、カメラの制御、画像の品質等にはまったく影響なく、カメラの機能と性能をすべて使用することができます。



- 撮影に関する設定やカメラの設定を行います。

備考： 左図の表示画面は、アドバンスモード時のものです。ベーシックモードでは、一部のメニューのみが表示されます。

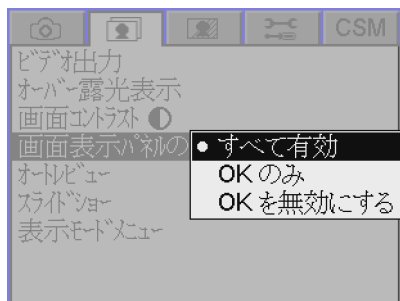
画像表示パネルを表示する

画像表示パネルを表示するには、OK ボタン (OK)、メニューボタン (MENU)、ナビボタン (NAV)、ステータスボタン (STATUS)、ホットキー (HOTKEY) のいずれかを押します。ただし押すボタンによって、画像表示パネルを表示するときの状態が異なります。

ボタンの種類	画像表示パネルの状態	ショートカット機能
OK ボタン (OK)	最後に選択した画像表示モードが表示されます。	
ナビボタン (NAV)	最後に選択した画像表示モードが表示されます。	
メニューボタン (MENU)	最後に選択したメニューが選択されて表示されます。	
ステータスボタン (STATUS)	背面表示パネルで選択されているアイコンに関連するメニューが選択されています。	
ホットキー (HOTKEY)	ホットキーの一番目に割り当てられているメニューが選択されています。	

ボタンを無効にする

誤ってボタンを押して画像表示パネルを表示させてしまわないように、ボタンを押しても画像表示パネルが表示しないように設定できます。



1. メニューボタン (MENU) を押したまま、5-Way スイッチの左右ボタンを使用して [表示] タブを選択します。
2. メニューボタン (MENU) を放します。
3. 5-Way スイッチの上下を押して、[Display Activation] メニューを選択します。
4. 5-Way スイッチの右を押して、目的の項目を選択します。

[Enable All] - カメラの左側のボタン (メニューボタン、ナビボタン、ホットキー、ステータスボタン)、または OK ボタンを押して画像表示パネルを表示することができます。

[OK only] - カメラの左側のボタン (メニューボタン、ナビボタン、ホットキー、ステータスボタン) を押しても、画像表示パネルは表示しません。

[Disable OK] - OK ボタンを押しても画像表示パネルは表示しません。

5. OK ボタンを押して決定します

画像表示パネルを消す

画像表示パネルを消すには、キャンセルボタンを押します。メニュー表示でメニュー項目が選択されているとき、または画面表示モードでズームボックスが有効なときなどは、キャンセルボタンを複数回押す必要があります。

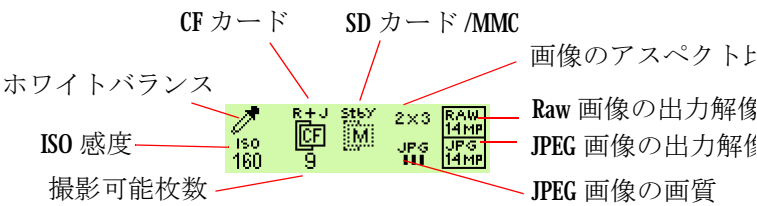
背面表示パネル

背面表示パネルには、以下の情報が表示されます。

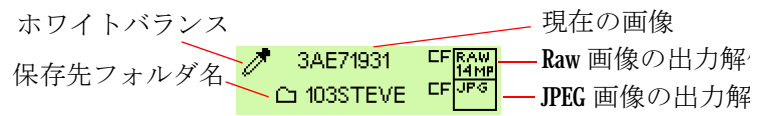
ステータス情報	撮影に関する設定情報 - 画像表示パネルのメニューへのショートカットアイコンとしても機能します。
	表示画像に関する情報が表示されます。
ヘルプメッセージ	選択されているメニュー項目の情報が表示されます。
	操作に関する情報が表示されます。

撮影に関する設定情報：画像表示パネルが消えているとき、またはシャッターボタンを半押ししているときに、カメラの撮影設定が表示されます。ステータスボタン（STATUS）を使用して、画像表示パネルのメニューへのショートカットとしても機能します。

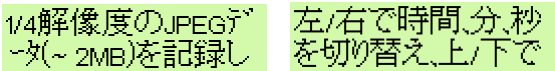
備考： 下図に表示画面はアドバンスモード時のものです。ベリシックモードでは、一部の情報のみが表示されます。



表示画像に関する情報：画像表示パネルで撮影した画像を表示しているとき、選択した画像の情報が表示されます。



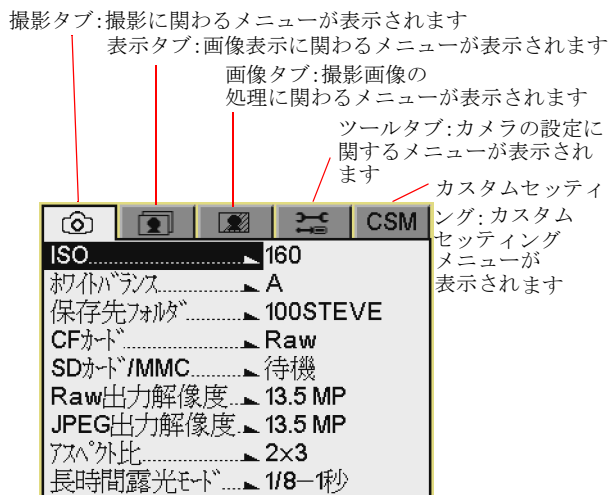
ヘルプメッセージ：メニュー操作、設定に関するヘルプメッセージが表示されます。



メニュー画面

画像表示パネルのメニューで様々な撮影の設定を行うことができます。

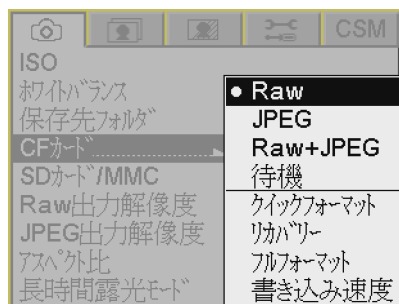
アドバンスモードでは画面上部に5つのタブが表示され、メニューが機能によってそれぞれのタブに整理されて配置されています。(ベーシックモードではタブはなく、メニューは1ページのみとなります。)



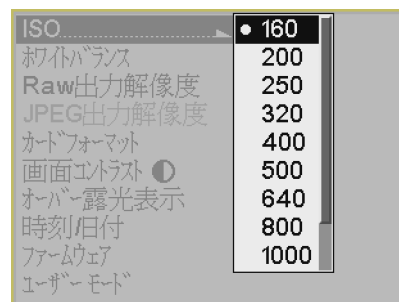
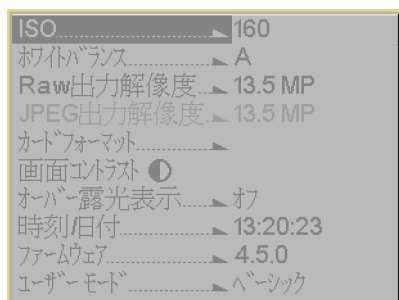
メニュー画面の操作



1. (アドバンスモードのみ) メニューボタン (MENU) を押したまま、5-Way スイッチの右または左を押してタブを選択します。
2. (アドバンスモードのみ) 目的のタブを選択したら、メニューボタン (MENU) を放します。そのタブに属するメニューが表示されます。



ステータスボタンによる メニュー操作



3. 5-Way スイッチの上下を押してメニューを選択します。
4. 5-Way スイッチの右を押すと、ポップアップメニューが表示されます。5-Way スイッチの上下ボタンで項目を選択します。メニューによってはさらにポップアップメニューが表示されることもあります。
5. 目的の項目を選択したら、OK ボタンを押して決定します。

ステータスボタン (STATUS) を使用して、背面表示パネルに表示されるアイコンに関連するメニューを選択することができます。

1. ステータスボタン (STATUS) を押すと、背面表示パネルで選択されたアイコンが選択され、画像表示パネルに関連するメニューが表示されます。ステータスボタン (STATUS) を押している間、メニュー画面は有効になりません。
2. ステータスボタン (STATUS) を押したまま、5-Way スイッチで背面表示パネルのアイコンを切り替えます。選択されたアイコンに関連するメニューが画像表示パネルでも選択されます。

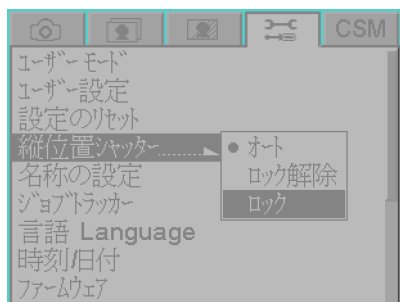
3. 目的のメニューが表示されたら、ステータスボタン (STATUS) を放します。目的の項目が選択されて、画像表示パネルのメニュー画面が有効になります。

ホットキーによるメニュー操作

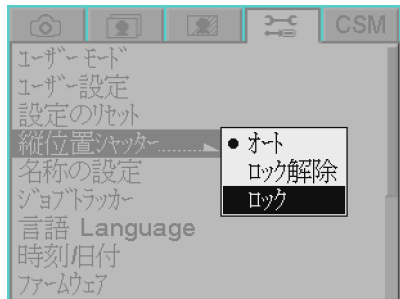
ホットキー（HOTKEY）は頻繁に使うメニューを割り当てることができ、それぞれのメニューへのショートカットキーとして使用することができます。ホットキー（HOTKEY）には自由にメニューを割り当てることができます。

以下の手順で、ホットキー（HOTKEY）に割り当てられたメニューを表示させます。

1. ホットキー（HOTKEY）を押すと、1 番面に割り当てられたメニューが表示されます。



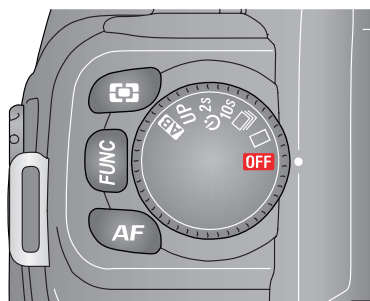
2. ホットキー（HOTKEY）を押したまま、5-Way スイッチの右または左を押して、割り当てられている他のメニューに切り替えます。ホットキー（HOTKEY）を押している間はメニューは無効のままです。
3. 目的のメニューが表示されたら、ホットキー（HOTKEY）を放して、メニューを有効にします。



レンズ

このカメラでは、キヤノン EF レンズ、またはキヤノン EF マウントに対応したシグマのレンズを使用することができます (B-1 ページを参照)。

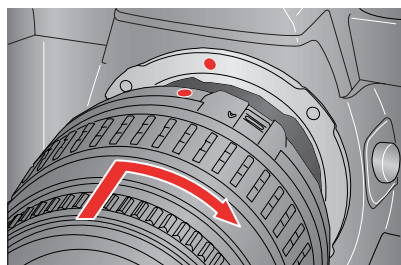
レンズを取り付ける



1. D ダイアルを回し **OFF** に合わせます。



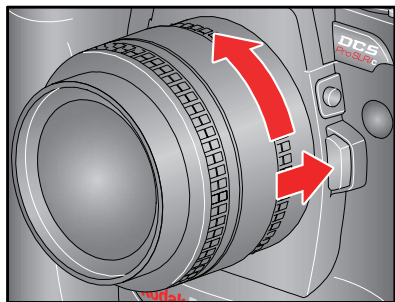
2. レンズのリヤキャップと、カメラのボディキャップを取り外します。



3. カメラのマウントにある赤い丸とレンズの着脱指標を合わせてレンズをはめ込み、レンズを時計回りに回します。カチッと音がして固定されます。

備考： レンズを取り付けるときに、レンズ着脱ボタンを押さないでください。レンズのロックが不完全になることがあります。

レンズを取り外す



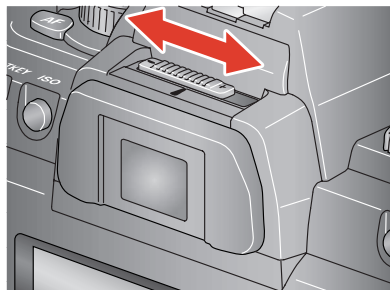
- レンズ着脱ボタンを押したまま、レンズを反時計回りに回します。

備考： レンズマウント面には、電気情報接点、レンズとカメラの連動装置があります。キズや汚れがつくと誤動作や故障の原因となります。リヤキャップを外したまま、レンズのマウントを下に置かないでください。

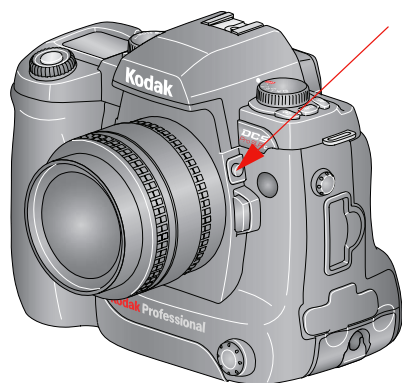
視度調整

視度調整により、ファインダー内の像をよりはっきりと見れるようになります。視度を調整できる範囲は、 $-3 \sim +1$ dpt です。

- ファインダーをのぞきながら、ファインダー中央のオートフォーカスフレームがはっきり見えるように、視度補正レバーを左右にスライドさせてください。



プレビューボタン



プレビューボタンにより被写界深度を確認できます。被写界深度とは被写体に対してピントの合う前後の範囲のことです。

- プレビューボタンを押して、ファインダーから被写界深度を確認することができます

プレビューボタンを押すと、露出モードがプログラムオート (P) またはシャッタースピード優先オート (S) のときは制御される絞りまで絞られます。露出モードが絞り優先オート (A) またはマニュアル露出のときは設定してある絞りまで絞り込まれます。ファインダーをのぞくことで、そのときの絞りのおおよその被写界深度を確認することができます。

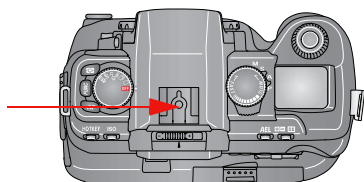
被写界深度

ある点にピントを合わせると、その前後にもピントが合う範囲が存在します。被写界深度とはそのピントの合う範囲のことを指します。被写界深度は、撮影距離、レンズの焦点距離、絞りによって変化し、ピントを合わせているときは被写界深度を考慮する必要があります。被写界深度はピントを合わせた点の手前に浅く、奥に深くなります。

レンズの絞りを絞る (f 値を大きくする) と、被写界深度が深くなり、ピントが合う範囲が前後に広がります。逆に絞りを開くと (f 値を小さくする) と、被写界深度が浅くなり、ピントが合う範囲が狭くなります。

また撮影距離が近くなるほど、焦点距離が長くなるほど被写界深度が浅くなり、撮影距離が遠くなるほど、焦点距離が短くなるほど被写界深度が深くなります。

ホットシュー

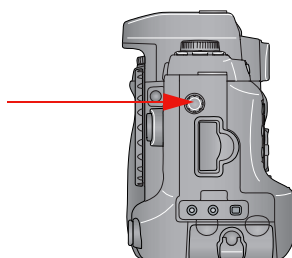


ホットシューには対応のスピードライトを直接取り付けることができます。対応のスピードライトは、[10-1 ページ](#)を参照してください。

⚠ 注意：

対応のスピードライト以外を使用しないでください。高電圧や接続アダプターによりカメラが損傷する可能性があります。

シンクロ端子



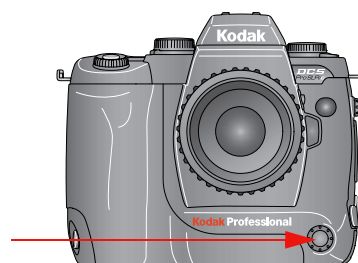
⚠ 注意：

シンクロ端子に 250V 異常の電圧がかかるストロボは使用できません。250V を超えるシンクロ電圧のものは使用できません。

⚠ 警告：

シンクロ端子に電源コードなどを接続しないでください。感電したり、カメラが損傷する可能性があります。

拡張端子



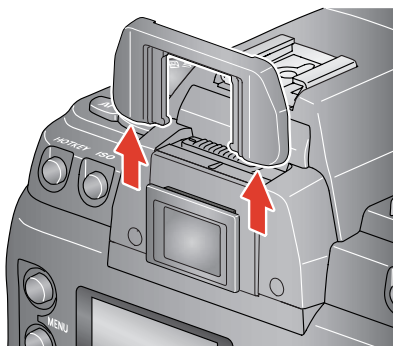
拡張端子には別売りのレリーズケーブルなどを接続して使用することができます。

ファインダーキャップ

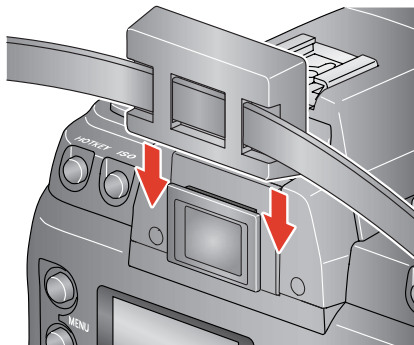
セルフタイマーやリモコンによる撮影を行うとき、ファインダーキャップを使用してファインダーに光が入らないようにします。

備考：ファインダーキャップをネックストラップに取り付けます (2-23 ページを参照)。ストラップを使用して逆光を防ぐこともできます。

1. ファインダーからアイピースカップを取り外します。



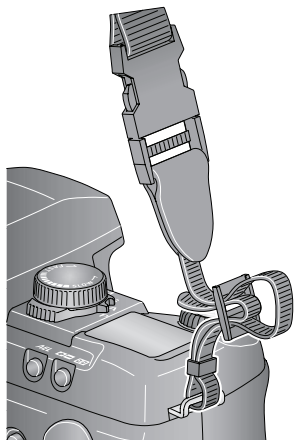
2. ファインダーにファインダーキャップを取り付けます。



ストラップ

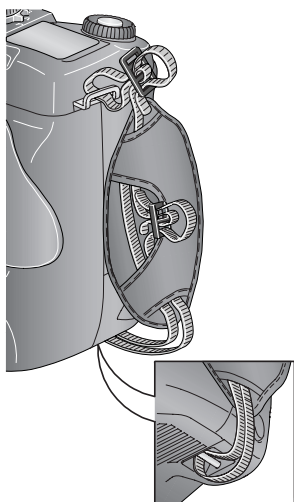
カメラにはネックストラップとハンドストラップが付属しています。

ネックストラップを取り付ける



- ファインダーキャップ (2-22 ページを参照) をスライドさせ、ネックストラップの端をストラップ取り付け部に通します。ストラップを強く引いてバックルに固定します。

ハンドストラップを取り付ける



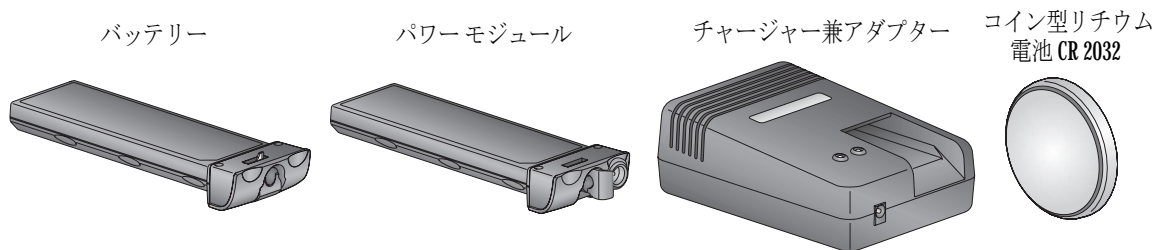
- ストラップをハンドストラップパッドに取り付けます。
- ストラップに 3 つ穴のバックルを固定し、カメラ上部の取り付け部にストラップを通します。
- ストラップのもう一方の端をカメラ底部のストラップ取り付け部に通します。
- 図のように、カメラ上部の取り付け部を通したストラップをバックルに通します。
- ストラップの両端をパッドの中央に持ってきます。
- 上側のバックルをストラップ取り付け部に固定します。
- 上側のストラップの端をパッドの中にしまいます。
- 図のように、カメラ底部の取り付け部に掛けたストラップをパッド中央で 2 つ穴のバックルに通します。
- カメラ底部に通したストラップの端を、パッドの中にしまいます。

3 カメラに電源を入れる

このカメラには次の付属品が含まれています。

- コダック プロフェッショナル **DCS Pro** バッテリー (バッテリー)
- コダック プロフェッショナル **DCS Pro DC** パワー モジュール (パワー モジュール)
- コダック プロフェッショナル **DCS Pro** チャージャー /AC アダプター (チャージャー兼アダプター)
- コイン型リチウム電池 **CR 2032** (ほとんどの電池販売店でお求めになれます)
- 国際規格電源コードセット

備考： コダック プロフェッショナル **DCS Pro 14n** のバッテリーを使用してカメラを動作させることもできます。



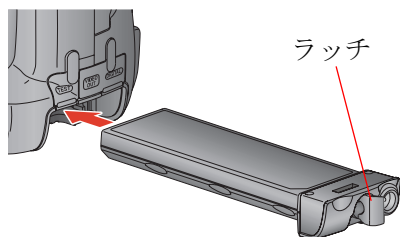
カメラには、パワー モジュールとバッテリーのどちらを使用しても電源を供給できます。室内で撮影する場合は、パワー モジュールを使用することが多いでしょう。屋外での撮影では、バッテリーを使用します。

パワー モジュールのケーブルがチャージャー兼アダプターに接続されている場合、チャージャー兼アダプターは **AC** アダプターとして機能します。パワー モジュールが接続されていないときは、チャージャー兼アダプターを使用してバッテリーを充電してください。

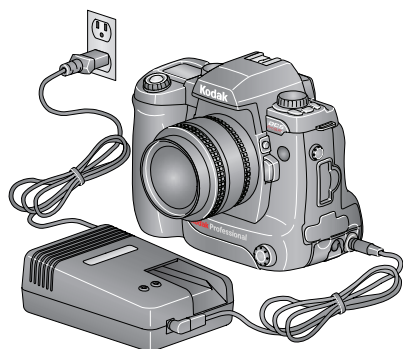
コイン型リチウム電池 **CR 2032** を入れておくと、カメラの電源が入っていない間も日付と時刻が保持されます。

カメラに電源を入れる

パワー モジュールを使用してカメラに電源を入れる



1. カメラのバッテリー スロットにパワー モジュールを入れて、ラッチを時計回りに回します。

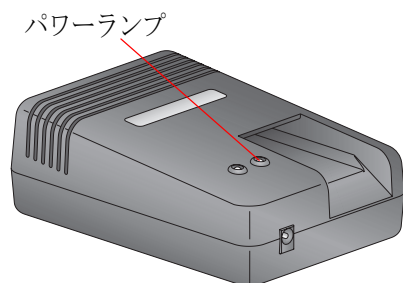


2. パワー モジュールを DC コードでチャージャー兼アダプターに接続します。
3. 適切な国際規格電源コードを使用して、チャージャー兼アダプターをコンセントに差し込みます。
チャージャー兼アダプターに電源が入ると、パワー ランプが緑色に点灯します。

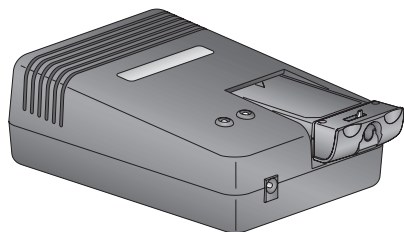
備考： DC コードが接続されているときには、バッテリーを充電することはできません。

バッテリーを使用してカメラに電源を入れる

バッテリーの充電



1. DC コードがチャージャー兼アダプターに接続されている場合は、取り外します。
2. チャージャー兼アダプターをコンセントに差し込みます。
チャージャー兼アダプターに電源が入ると、パワー ランプが緑色に点灯します。



3. チャージャー兼アダプターのバッテリー スロットにバッテリーを挿入します。

充電 LED の色は、充電処理の状態によって変化します。

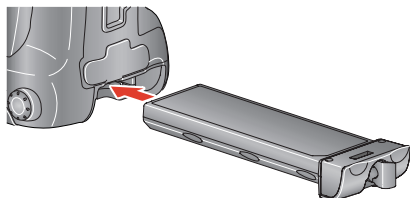
色	動作	充電状態
緑	1 回点滅	0 ～ 50% 完了
緑	2 回点滅	50 ～ 70% 完了
緑	3 回点滅	70% 以上完了
緑	点灯	充電完了
赤	1 秒に約 1 回点滅	充電を保留
赤	速い点滅	エラー状態

4. 充電が完了したらバッテリーを取り出します (緑のランプが点灯します)。
5. 15 ～ 30 分バッテリーを置いて冷まします。再びバッテリーをチャージャーに入れ、充電が完了したことを示す緑のランプが点灯するまで充電してください。

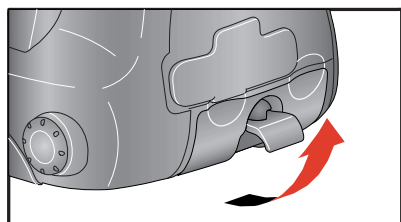
備考： バッテリーを最適の状態に保つには、充電前に定期的にバッテリーの充電を使い切ってください。

カメラに電源を入れる

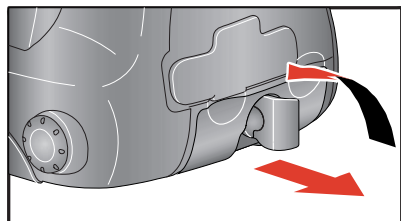
バッテリーの挿入 / 取り外し



- バッテリーをカメラのバッテリー スロットに入れて、ラッチを時計回りに回します。



- バッテリーを取り外すには、ラッチを反時計回りに回転させてバッテリーを抜き出します。



バッテリー状態のチェック

上部表示パネルのバッテリー アイコンを見れば、挿入されているバッテリーの充電状態がわかります。バッテリー アイコンが点滅しているときは、バッテリーの交換が必要です。この場合、シャッターはロックされます。



フル



ロー



交換が必要

バッテリーの節約

カメラには、以下のようなバッテリー節約機能があります。

- 一定時間カメラを操作しないと、低電力モードに切り替わります (5-2 ページを参照)。
- 一定時間カメラを操作しないと、露出計がオフになります (5-3 ページを参照)。
- 一定時間どのデジタル ボタンも操作しないと、画面表示パネルが消灯します (5-2 ページを参照)。

バッテリーの性能を最大限に引き出すには、使用していないときはカメラの電源をオフにするか、バッテリーを取り外します。

バッテリーの節約の詳細については、<http://www.kodak.com/go/DCS> にアクセスしてください。

備考： カメラおよび画像表示パネルの省電力時間、または測光オフ時間 (5-3 ページを参照) は変更できます。

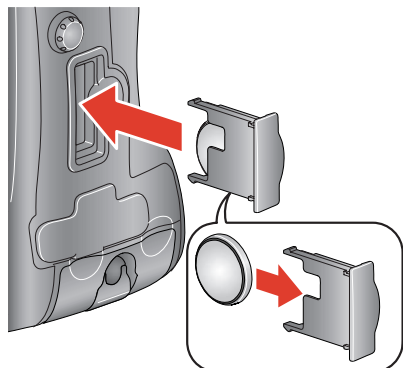
予備のバッテリー電源を使用する場合

- 望遠レンズまたは広角魚眼レンズ使用時、およびオートフォーカスを持続的に使用する場合
- 画像表示パネルを頻繁に使用する場合
- 低温時
- カメラの電源を頻繁にオン / オフする場合
- [半押しタイマー] カスタム設定を [適用しない] にした場合

カメラに電源を入れる

CR 2032 コイン型リチウム電池

内蔵されている **CR 2032** コイン型リチウム電池は、カメラの電源が入っていない間の日付と時刻を保持します。このバッテリーの平均寿命は約 **1～2 年** です。交換用のコイン型リチウム電池はお近くのカメラ販売店でお求めください。



1. コイン型リチウム電池の + マークと電池ボックスの + マークが同じ側を向くようにして、電池を電池ボックスにはめこみます。

コイン型リチウム電池は別の向きにセットすることもできますが、それではカメラ内で機能しません。電池を誤った向きに挿入してもカメラは故障しませんが、日付と時刻は保持されません。

2. 電池ボックスをカメラの電池ボックス スロットにスライドして挿入します。

バッテリーの廃棄

廃棄および再利用については、お住まいの自治体（米国の場合は **Electronics Industry Alliance: www.eiae.org**）に問い合わせてください。

4 基本操作

この章では、ベーシック モードで利用できるファンクションと、画像の構図、ピント合わせ、および撮影の基本操作について説明します。

ベーシック モード

ご使用のカメラでは、2 種類のモードでデジタル ファンクションにアクセスできます。ベーシック モードとアドバンス モードです。ベーシック モードでは、一部の設定のみ変更することができ、他の設定は出荷時のままになります。その他のデジタル ファンクションはすべて出荷時設定に設定されています。カメラに慣れたら、アドバンス モードに変更してデジタル ファンクションのすべてにアクセスしてください。

ベーシック モードのファンクションは次のとおりです。

- ISO
- ホワイト バランス
- Raw 出力解像度
- JPEG 出力解像度
- カードフォーマット
- 画面コントラスト
- オーバー露光表示
- 時刻 / 日付
- ファームウェア
- ユーザー モード

ベーシック モードの設定



1. 画像表示パネルがオフになっている場合は、メニュー ボタンを押して画像表示パネルを画像表示モードでオンにします。

画像表示パネルがオンで画像が表示されている場合は、メニュー ボタンを押してベーシック モードメニューを表示します。

備考：ベーシック モードでは、左図のメニュー画面が表示されます。



2. タブメニューが表示されている場合は、カメラがアドバンス モードになっています。ベーシック モードに切り替えるには、メニュー ボタンを押したまま 5 方向コントロール スイッチの右を押して、ツール タブを選択します。
3. 5 方向コントロール スイッチの上または下を押して、[ユーザー モード] を反転表示します。
4. 5 方向コントロール スイッチの右を押して、ユーザー モードメニューを表示します。
5. 5 方向コントロール スイッチの下を押して [ベーシック] を反転表示します。
6. OK ボタンを押します。

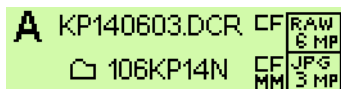
ベーシック モードメニューが表示されます。

メニュー選択



1. 5 方向コントロール スイッチの上下を押して、メニュー オプションを反転表示します。
ポップアップメニューが表示されたら、5 方向コントロール スイッチの右を押してメニューを有効にし、5 方向コントロール スイッチの上下を押して選択します。
2. OK ボタンを押します。

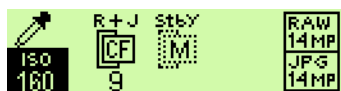
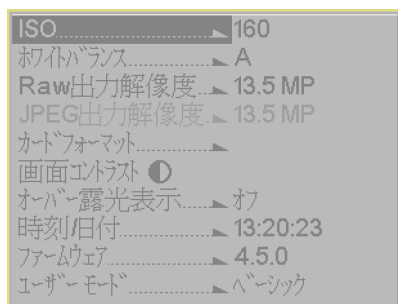
デジタル表示パネル



1/4解像度のJPEGデータ(~2MB)を記録し

左/右で時間、分、秒を切り替え、上/下で

デジタル表示パネルを使用してメニュー オプションを反転表示する



このデジタル表示パネルは、ベーシック メニューの表示時に現れます (アドバンス モードでは、表示される情報が増えます)。

撮影関連ステータス情報: 画像表示パネルがオフになっているか、シャッター ボタンを軽く半押しすると、デジタル表示パネルに撮影関連情報が表示され、画像表示パネルの関連メニュー オプションへのショートカットが提供されます。

表示関連ステータス情報: 画像表示パネルが画像表示モードの場合は、デジタル表示画面に選択した画像の情報が表示されます。

ヘルプ メッセージ: 画像表示パネル上で選択したオプションに関する情報、または 操作に関する情報が表示されます。

デジタル表示パネルとデジタル表示ボタンを使用すると、メニューをショートカットして表示することができます。

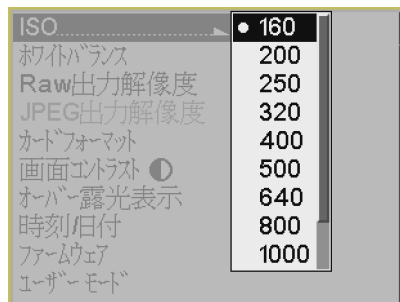
1. デジタル表示ボタンを押すと、デジタル表示パネルで選択されているアイコンが反転表示され、画像表示パネルに関連するメニューが表示されます (メニューは無効な状態で表示されます)。
2. デジタル表示ボタンを押したまま 5 方向コントロール スイッチの右または左を押して、デジタル表示パネルでファンクション間を移動します。これにより、画像表示パネルの関連メニュー オプションが反転表示されます。
3. デジタル表示ボタンを放して、画像表示パネルのメニュー オプションを有効にします。

ISO の設定

ISO は、カメラのイメージャーの光に対する感度を決定します。ISO を上げると感度は高くなり、下げると低くなります。

ISO の範囲は 160 ～ 1600 です。

ISO 設定は、1/3 ずつ変更できます。



1. ベーシックメニューで [ISO] を選択し、該当する設定を反転表示します。
2. OK ボタンを押します。

ショートカット

- この機能にアクセスするには、デジタル表示ボタンおよびデジタル表示パネルを使用することもできます。



備考：カメラのダイヤルを使用して ISO を設定することもできます (5-19 ページを参照)。

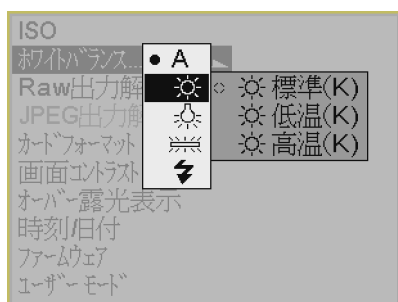
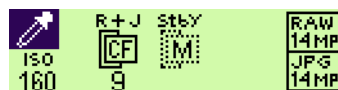
ホワイト バランスの設定

ホワイト バランス設定は、ライティングに合わせて選択し、画像が正確な色を再現するように調整します。ホワイト バランス オプションを指定すると、それ以降に撮影されるイメージにその設定が適用されます。

ホワイト バランス オプションには、オート、デイライト、タングステン、蛍光灯、およびフラッシュがあります。

ショートカット

- デジタル表示パネルのショートカットを使用して、この機能にアクセスすることもできます。

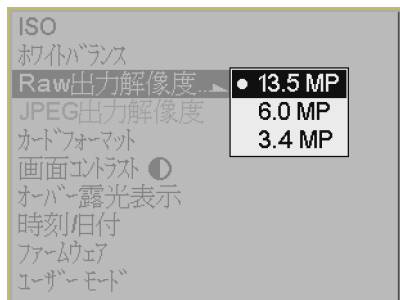


- [撮影] メニューから [ホワイト バランス] を選択して、オプションのいずれかを選択してから設定を選択します。

	オプション	設定
	オート	<ul style="list-style-type: none"> 完全オート
	デイライト	<ul style="list-style-type: none"> 標準のデイライト 暖かいデイライト 冷たいデイライト
	タングステン	<ul style="list-style-type: none"> 標準のタングステン 暖かいタングステン 冷たいタングステン
	蛍光灯	<ul style="list-style-type: none"> 標準の蛍光灯 クール ホワイト
	フラッシュ	<ul style="list-style-type: none"> 標準のフラッシュ 暖かいフラッシュ 冷たいフラッシュ スタジオフラッシュ

選択したホワイト バランス設定の対応する色温度 (K: ケルビン) が、背面表示パネルに表示されます。

Raw 出力解像度の設定



Raw ファイルに使用できる解像度は次の 3 種類です。

13.5 MP—フル解像度 Raw データ (4500 x 3000)

6.0 MP—1/2 解像度 Raw データ (3000 x 2000)

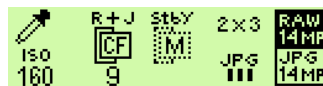
3.4 MP—1/4 解像度 Raw データ (2250 x 1500)

1. [撮影] メニューから [Raw 出力解像度] を選択し、解像度を反転表示します。
2. OK ボタンを押します。

備考：画素数は、アスペクト比に応じて変わります。

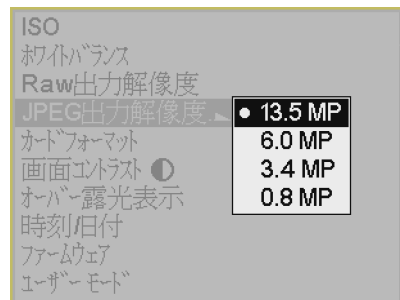
ショートカット

- デジタル表示パネルのショートカットを使用して、この機能にアクセスすることもできます。



備考：高い ISO を選択した場合は、解像度を一部使用できません。

JPEG 出力解像度の設定



JPEG ファイルの解像度には次の 4 種類があります。

13.5 MP—フル解像度 JPEG データ (4500 x 3000)

6.0 MP—1/2 解像度 JPEG データ (3000 x 2000)

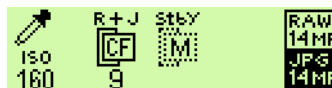
3.4 MP—1/4 解像度 JPEG データ (2250 x 1500)

0.8 MP—0.8 解像度 JPEG データ (1125 x 750)

1. ベーシックメニューから [JPEG 出力解像度] を選択し、解像度を反転表示します。
2. OK ボタンを押します。

ショートカット

- この機能にアクセスするには、デジタル表示ボタンおよびデジタル表示パネルを使用することもできます。



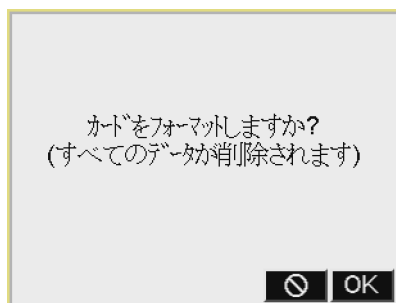
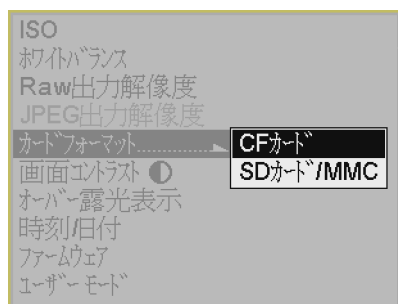
カードのフォーマット

カードが正しくフォーマットされていなかったり、カードのデータが壊れた場合は、カードをフォーマットしてください。カードを数回のセッション (24 または 36 など) で使用した場合は、カードの全容量を使用するために、使用するカメラでカードをフォーマットすることもできます (画像を削除してもカードの全容量を元に戻すことはできません)。

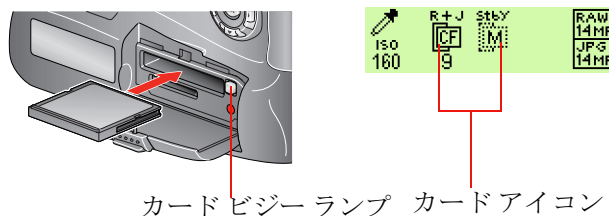
カードは PC DOS フォーマットでフォーマットされます。

備考：アドバンス モードでは、クイックフォーマットとフルフォーマットのどちらも使用できます。ベーシック モードでは、クイックフォーマットを使用することができます。

1. カードを挿入します。
2. ベーシック メニューから [カードフォーマット] を選択して、[CF カード] または [SD カード/MMC] を選択します。



3. OK ボタンを押します。取消ボタンを押すと、カードがフォーマットされずに確認画面が閉じます。フォーマット中はカード ビジー ランプとデジタル表示パネルのカードアイコンが点滅します。カードのフォーマットが終了すると、ランプは消灯します。



ショートカット

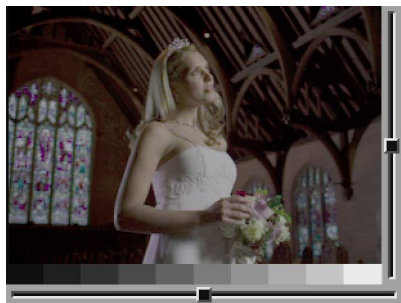
- このファンクションはホットキーのショートカットから也可以使用できます。

画面コントラストの変更

コントラストを変更して、画像表示パネルに表示される画像を明るくしたり暗くしたりすることができます。

備考： コントラストの変更は画像表示パネルの画像表示にのみ影響し、保存された画像には影響しません。

1. ベーシックメニューから [画面コントラスト] を選択します。



2. OK ボタンを押します。
2つのスライダーバーとグレー スケールバーが表示されます。
3. 5方向コントロールスイッチの上下を押して、表示される画像を明るくしたり、暗くしたりします。
4. 5方向コントロールスイッチの左右を押して、表示される画像のコントラストを調整します。
グレー スケールバーを目安にしてコントラストを調整します。

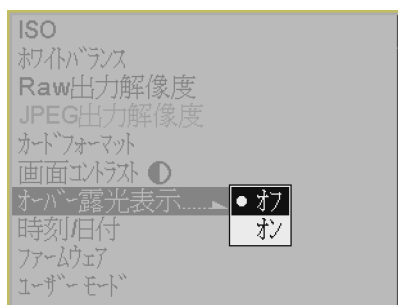
オーバー露光表示をオンまたはオフにする

1 コマ画像表示モードまたは複数画像表示モードでは、画像内のオーバー露光領域を表示することができます。

1. ベーシックメニューから [オーバー露光表示] を選択し、[オン] を反転表示します。
[オーバー露光表示] をオフにするには、[オフ] を反転表示します。

2. OK ボタンを押します。

オーバー露光表示をオンにした場合は、オーバー露光領域が点滅表示されます。



ファームウェア

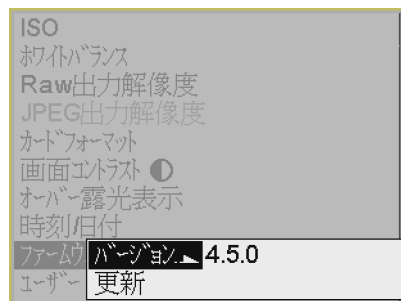
ファームウェアは、カメラ内部で動作してカメラの操作を制御するソフトウェアプログラムです。最新のファームウェアはコダックの **Web** サイトからダウンロードすることができます。カメラのファームウェアを更新することにより、新たな機能を追加したり、動作をより安定させることができます。

備考：コダック プロフェッショナル **DCS** ファームウェアを初めてダウンロードする場合は、電子メールアドレスを入力してカメラを登録する必要があります。登録後は、**DCS** ファームウェアおよびソフトウェアのページで電子メールアドレスを入力するだけで、ファームウェアのダウンロードページにアクセスできます。**Web** での操作、ファイルのダウンロード、および圧縮されたソフトウェアファイルを開く操作に慣れていない場合は、経験のある友人に助けてもらうことができます。

ファームウェア バージョンのチェック

現在カメラで使用しているファームウェアのバージョン情報を表示できます。

1. ベーシックモードのメニューから [ファームウェア] を選択し、[バージョン] を反転表示します。



2. OK ボタンを押します。



ファームウェアの更新

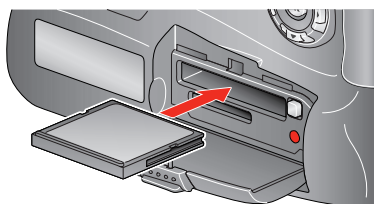
1. コンピュータの Web ブラウザを使用して、www.kodak.com/go/dcs にアクセスします。
2. 電子メールアドレスを入力して、[Continue] ボタンをクリックします。
3. 登録のページが表示される場合は、カメラを登録します。
4. ファームウェア [DCS Pro SLR/c] を選択して、[Download Software] ボタンをクリックします。
5. ファームウェアのダウンロードページの情報をすべて読みます。ここには、互換性のあるコダック プロフェッショナル DCS ホストソフトウェア、バグ修正、新機能、およびその他の関連情報に関するデータを始めとして、ファームウェアの更新に関する重要な情報が記載されています。
6. ご使用のオペレーティングシステム用のダウンロードファイルを選択します。WINDOWS マシンの場合は、「.exe」で終わるファイル名をクリックします。MACINTOSH マシンの場合は、「.hqx」で終わるファイル名をクリックします。
7. 表示される指示に従います。

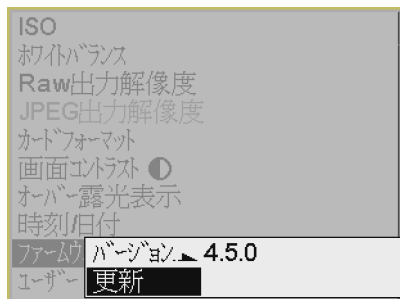
重要： ファイル名と、ファイルが保存された場所に注意してください。ダウンロードが完了した後に、このファイルを見つけてアクセスする必要があります。

8. MACINTOSH: .hqx ファイルがブラウザによって .sit ファイルに変更されます。この .sit ファイルをダブルクリックして展開すると、readme ファイルと proslrc.bin ファイルが含まれるフォルダが作成されます。

WINDOWS: ダウンロードした .exe ファイルをダブルクリックし、コンピュータ上のフォルダにファイルを展開します。展開すると、フォルダ内に readme.pdf ファイルと proslrc.bin ファイルが表示されます。

9. readme ファイルに記載された情報を読みます。
 10. ファームウェア ファイル (proslrc.bin) をメモリ カードのルートディレクトリにコピーします。
- 重要： カメラのファームウェアはメモリカードを使用して更新する必要があります。IEEE 1394 インターフェースを使用してファームウェアを更新することはできません。
11. カードを直接カメラに挿入します。
 12. フル充電されたバッテリーをカメラに取り付けて、カメラの電源をオンにします。





13. ベーシックメニューから [ファームウェア] を選択し、[更新] を反転表示します。



14. OK ボタンを押します。

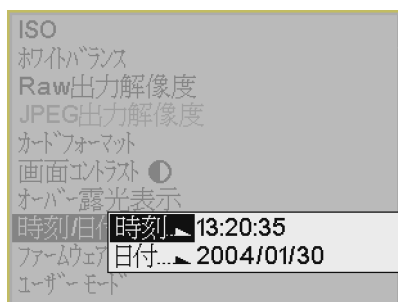
ファームウェアの更新中は、進行状況表示画面が表示されます。更新には約 30 秒かかります。

重要： ファームウェアがカメラのメモリに書き込まれると、カメラが再起動し、新しいファームウェアが読み込まれます。これには最大 15 秒かかる場合があります。その間、カメラは機能していないように見えます。再起動中は、カメラのコントロールを調整したり、カメラの電源をオフにしてオンにしたりしないでください。

15. 画像表示パネルが再びオンになったら、OK ボタンを押して更新メッセージを確認します。
16. 手順 12 ～ 14 を繰り返して、カメラの 2 つ目のファームウェアのコピーを更新します。この 2 つ目の更新が完了したときには、ファームウェアの更新メッセージは表示されません。

時刻 / 日付の設定

時刻と日付のスタンプが各画像ファイルに関連付けられています。コイン型リチウム電池 **CR 2032** により、カメラの電源が入っていないときに時刻と日付を保持することができます。このバッテリーの電気がなくなった場合は、バッテリーを交換して時刻と日付を再設定する必要があります。



1. ベーシック メニューから [時刻 / 日付] を選択します。
2. 5 方向コントロール スイッチの右または左を押して、時間、分、または秒を選択します。5 方向コントロールの上または下を押して値を変更します。
3. 年、月、および日に対して、手順 2 を繰り返します。
4. OK ボタンを押します。

ショートカット

- このファンクションはホットキーのショートカットからも使用できます。

ユーザー モードの設定

[4-2 ページ](#)の手順に従って、ベーシック モードまたはアドバンス モードへの切り替えを行います。

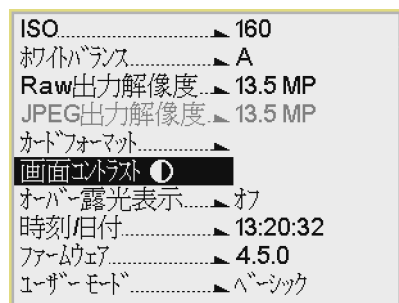
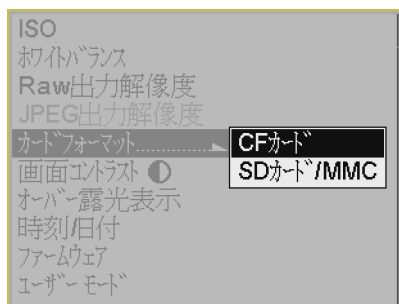
ホットキーボタンを使用してメニューオプションを反転表示する

ホットキー ボタンは、頻繁に使用するデジタル ファンクションへのショートカットとして機能します。

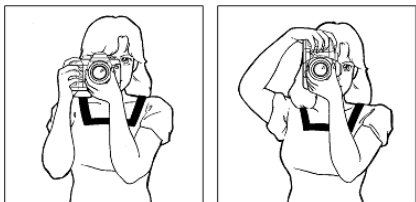
ベーシック モードでは、ホットキー設定を変更できません。アドバンス モードでは、初め 5 種類のメニューがホットキーに割り当てられており、割り当てる機能を変更することもできます。ベーシック モードでホットキーを使用してファンクションにアクセスするには、アドバンス モードでファンクションにホットキーを割り当てておく必要があります (5-9 ページを参照)。

ホットキー ボタンを使用してファンクションにアクセスする手順は次のとおりです。

1. ホットキー ボタンを押して、1 番目に割り当てられているメニューを表示します。
2. ホットキー ボタンを押したまま、5 方向コントロール スイッチの右または左を押して、割り当てられている他のメニューを反転表示することができます。このときメニュー表示は無効のままです。
3. ホットキー ボタンを放してメニュー オプションを有効にします。



画像の構図、ピント合わせ、撮影



1. カメラを正しく持ちます。

- ひじで体を支えたまま左手でカメラを注意深く持ちます。
- カメラのハンドグリップを右手でつかみます。
- 片足を半歩前に出して立ち、上半身を安定させます。

2. 被写体をファインダーの中央に合わせて、シャッター ボタンを軽く半押しします。

被写体にピントが合っていると、ファインダーにフォーカスインジケータ ● が表示されます。

オートフォーカスでピントが合わないと、フォーカスインジケータが点滅します。マニュアルフォーカスを使用してください。

ヒント

- フォーカス エリアの外側にあるものにピントを合わせて撮影するには、フォーカス エリアを選択しなおすか、フォーカス ロック (8-4 ページを参照) を行います。
- オートフォーカスが苦手な被写体については、8-2 ページを参照してください。

3. シャッター ボタンを静かに押し込みます。

備考： アドバンス モード (4-2 ページを参照) では、縦位置 (5-14 ページを参照) で撮影することができます。

備考： 上部表示パネルのフレーム カウンタの位置に、画像番号の下 3 桁が表示されます。

5 カメラのセットアップ

この章では、コダックプロフェッショナルDCS Pro SLR/c デジタルカメラ (DCS Pro SLR/c) をセットアップする手順について説明しています。ほとんどのツールには、画像表示パネルの[ツール]メニューからアクセスします。このメニューを表示するには、アドバンスモードに切り替える必要があります。下記を参照してください。

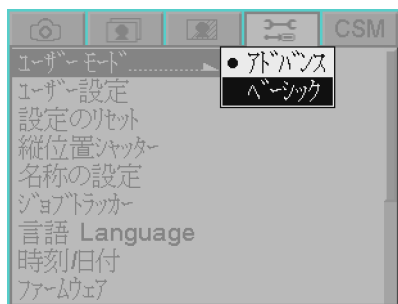
ユーザー モードの切り替え

カメラには次の2つのユーザーモードがあります。

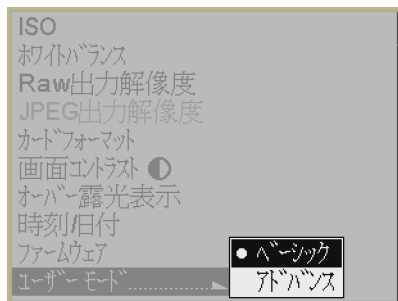
アドバンス モードすべてのデジタルファンクションへのアクセスを提供します。

ベーシック モードいくつかのデジタルファンクションへのアクセスを提供します。

- アドバンスモードからベーシックモードに切り替える場合は、[ツール]タブの[ユーザーモード]から[ベーシック]を選択します。



- カメラがベーシックモードになっている場合は、[ユーザーモード]を選択して、[アドバンス]を選択します。

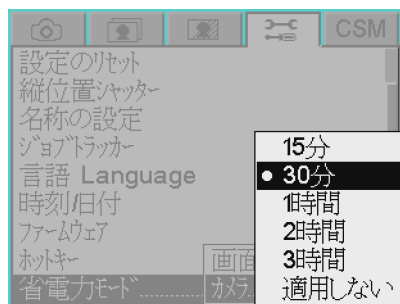


省電力の設定

カメラおよび画像表示パネルについて、別々に省電力時間を設定できます。

カメラ

バッテリー電源の節約のため、一定時間使用されない場合、カメラは低電力モードになります。

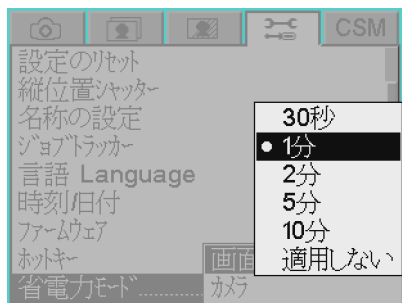


1. [ツール] メニューから [省電力モード] を選択して [カメラ] を選択し、目的のタイムアウトを反転表示します。
2. OK ボタンを押します。

備考：カメラの省電力モード時間を過ぎると、画像表示パネルと上部表示パネルの両方がオフになります。省電力モードの状態を終了するには、D-ダイヤルをオフにしてから、1コマ撮影に合わせます。または、シャッターボタンを軽く半押しします。

備考：電源がオンになっているコンピュータに IEEE 1384 でカメラが接続されている場合、カメラは省電力モードの状態になりません。IEEE 1394 で接続されている限り、カメラは動作状態を保ち、DCS Camera Manager ソフトウェアがコンピュータで実行されているかどうかを確認します。

画像表示パネル

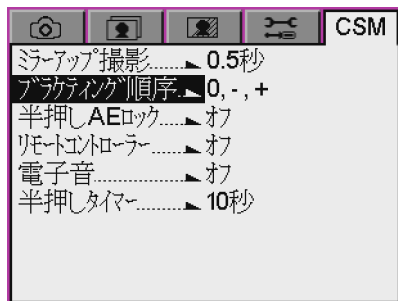


1. [ツール] メニューから [省電力モード] を選択して [画面] を選択し、目的のタイムアウトを反転表示します。
2. OK ボタンを押します。

画像表示パネルの省電力モード時間が過ぎると、画像表示パネルがオフになります。

カスタム設定

カスタム設定メニューを使用すると、カスタム設定を変更できます。以下に、カスタム設定の完全なリストを示します。



1. [CSM] タブから変更する項目を選択します。
2. OK ボタンを押します。

カスタム設定表

カスタム設定	説明	オプション
ミラーアップ 撮影	ミラーロックアップが機能 するまでの待機時間 (5-23 ページを参照)	0.5 秒
		1 秒 (初期値)
		2 秒
		5 秒
ブラケットイング 順序	露光ブラケットイングの際の 一連のコマの順序	0、-、+ (初期値)
		0, +, -
		-, 0, +
半押し AE ロック	シャッター ボタンを半押し にした状態の AE ロック	オフ (初期値)
		オン
リモートコント ローラー	赤外線リモートコントロールへの チャンネルの割り当て	オフ (初期値)
		1
		2
		3

カスタム設定	説明	オプション
電子音	<p>様々なカメラ機能への電子音の割り当て</p> <p>備考：また、電子式機能を使用して、AF ロック電子音のオン/オフを切り替えることもできます。 (5-27 ページを参照)。</p>	AF 完了時
		<ul style="list-style-type: none"> • [オフ] • 1 ビープ (初期値)
		<p>撮影準備</p> <ul style="list-style-type: none"> • オフ (初期値) • 1 ビープ • 2 ビープ • 3 ビープ
半押しタイマー	カメラの露光測光システムがオフになるまでの待機時間	カードフル
		<ul style="list-style-type: none"> • オフ (初期値) • 1 ビープ • 2 ビープ • 3 ビープ
		10 秒 (初期値)
		30 秒
		1 分
		5 分
		適用しない

ファームウェア

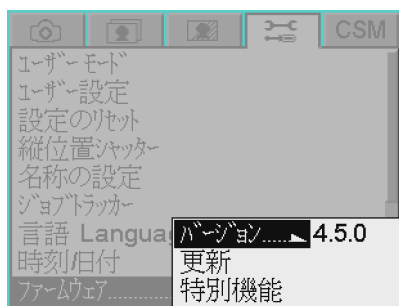
ファームウェアは、カメラ内部で動作してカメラの操作を制御するソフトウェアプログラムです。

以下のことが可能です。

- 現在のファームウェアバージョンについての情報を表示する
- **Kodak Web** サイトから新しいファームウェアバージョンをダウンロードして、カメラのファームウェアを更新する
([5-6 ページ](#)を参照)
- オプションのファームウェア機能を使用する

備考：ファームウェアをダウンロードする前に、カメラの登録が必要です ([1-1 ページ](#)を参照)。

ファームウェア バージョンの チェック



1. [ツール] タブの [ファームウェア] から [バージョン] を選択します。

2. OK ボタンを押します。



コンピュータにファームウェアをダウンロードする

- コンピュータでインターネットに接続して、コダックのウェブサイト <http://www.kodak.co.jp/go/professional> にアクセスします。ダウンロードサイトから最新のファームウェアをダウンロードすることができます。

ファームウェア機能

新しい特別な機能はファームウェアに組み込まれ、キーを使用してのみ利用できます。

ファームウェア機能をカメラで使用するには、説明書と認証番号を含むキットを最初に購入する必要があります (ファームウェア機能を使用する各カメラに1つ必要です)。添付の説明書では、カメラで機能を使用する方法が説明されています。

ファームウェアの更新

1. コンピュータの Web ブラウザを使用して www.kodak.com/go/dcs にアクセスします。
2. 電子メールアドレスを入力して、[Continue] ボタンをクリックします。
3. 登録のページが表示される場合は、カメラを登録します。
4. ファームウェア [DCS Pro SLR/c] を選択して、[Download Software] ボタンをクリックします。
5. ファームウェアのダウンロードページの情報をすべて読みます。ここには、互換性のあるコダック プロフェッショナル DCS ホスト ソフトウェア、バグ修正、新機能、およびその他の関連情報に関するデータを始めとして、ファームウェアの更新に関する重要な情報が記載されています。
6. ご使用のオペレーティングシステム用のダウンロードファイルを選択します。WINDOWS マシンの場合は、「.exe」で終わるファイル名をクリックします。MACINTOSH マシンの場合は、「.hqx」で終わるファイル名をクリックします。
7. 表示される指示に従います。

重要: ファイル名と、ファイルが保存された場所に注意してください。ダウンロードが完了した後に、このファイルを見つけてアクセスする必要があります。

8. MACINTOSH: .hqx ファイルがブラウザによって .sit ファイルに変更されます。この .sit ファイルをダブルクリックして展開すると、readme ファイルと proslrc.bin ファイルが含まれるフォルダが作成されます。

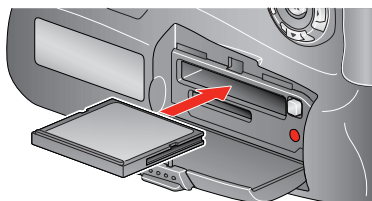
WINDOWS: ダウンロードした .exe ファイルをダブルクリックし、コンピュータ上のフォルダにファイルを展開します。展開すると、フォルダ内に readme.pdf ファイルと proslrc.bin

ファイルが表示されます。

9. **readme** ファイルに記載された情報を読みます。

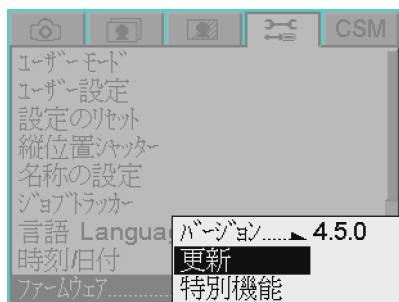
10. ファームウェア ファイル (**proslrc.bin**) をメモリ カードのルート ディレクトリにコピーします。

重要： カメラのファームウェアはメモリ カードを使用して更新する必要があります。**IEEE 1394** インターフェイスを使用してファームウェアを更新することはできません。



11. カードを直接カメラに挿入します。

12. フル充電されたバッテリーをカメラに取り付けて、カメラの電源をオンにします。



13. [ツール] メニューから [ファームウェア] を選択し、[更新] を反転表示します。



14. **OK** ボタンを押します。

ファームウェアの更新中は、進行状況表示画面が表示されます。更新には約 **30 秒** かかります。

重要： ファームウェアがカメラのメモリに書き込まれると、カメラが再起動し、新しいファームウェアが読み込まれます。これには最大 **15 秒** かかる場合があります。その間、カメラは機能していないように見えます。再起動中は、カメラのコントロールを調整したり、カメラの電源をオフにしてオンにしたりしないでください。

15. 画像表示パネルが再びオンになったら、**OK** ボタンを押して更新メッセージを確認します。

16. 手順 12 ~ 14 を繰り返して、カメラの **2 目** のファームウェアのコピーを更新します。この **2 目** の更新が完了したときには、ファームウェアの更新メッセージは表示されません。

フォルダおよびファイルの命名

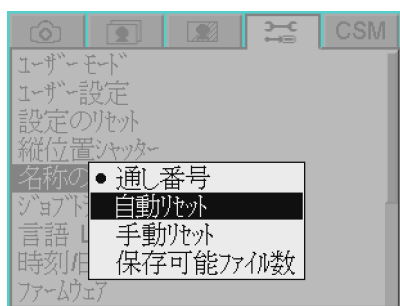
カメラで作成されるファイルおよびフォルダの名称には連続した通し番号が付きます。また、フォルダで許可する変更の最大数を指定することもできます。

【通し番号】— 名称には連続した数字が順番に割り当てられ、新しいカードが挿入されても **0** にリセットされません。

【自動リセット】— 新しいカードが挿入されると、自動的に名前は **0** にリセットされます。

【手動リセット】— 現在使用中のカードでのフォルダまたはファイルの名称を **0** にリセットします。

【保存可能ファイル数】— 指定された保存可能ファイル数に達すると、フォルダに画像を保存できなくなります。



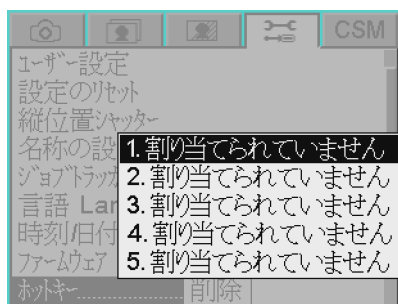
1. [ツール] ニューから [名称の設定] を選択し、[通し番号]、[自動リセット]、[手動リセット]、または [保存可能ファイル数] を反転表示します。
2. [保存可能ファイル数] を選択した場合、100 ～ 1000 を選択します。
3. OK ボタンを押します。

備考： 新しいフォルダを作成して名前を付けることもできます。

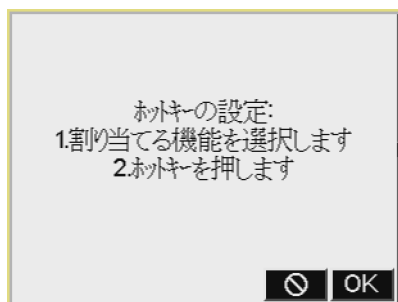
ホットキーの設定

ホットキーは、頻繁に使用されるデジタルファンクションへのショートカットを提供します。カメラには、5つのホットキーの設定が組み込まれています。ワークフローに応じて、ホットキーの設定をクリアしたり、別のデジタルファンクションへのホットキーにリセットすることができます。

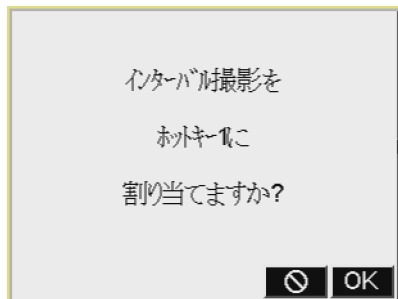
備考： デジタル表示ボタンは、撮影に不可欠な機能へのショートカットとなります。ホットキーには、ステータスボタンからショートカットできない機能も割り当てることができます。



1. [ツール] メニューから [ホットキー] を選択し、[設定] または [削除] を選択して、ホットキーの位置 (1 ~ 5) を選択します。



2. [削除] を選択した場合は、OK ボタンを押します。この場合、ホットキーの位置は割り当てられません。
[設定] を選択した場合は、左の図のような指示が表示されます。OK ボタンを押します。
3. メニューを移動して、割り当てる機能を反転表示します。
4. ホットキー ボタンを押します。



5. OK ボタンを押します。

ジョブトラッカーの使用

コダック プロフェッショナル DCS Photo Desk ソフトウェアでは、個々の画像に IPTC (International Press Telecommunication Council: 国際新聞電気通信評議会) データを入力して付加することができます。その IPTC データをカメラのメモリに読み込み、カメラ内で撮影画像のヘッダーに埋め込むことができます。ジョブトラッカーファイルには拡張子 .IPT が付きます。



1. [ツール] タブの [ジョブトラッカー] から、以下のオプションを選択します。

[通用しない] — ジョブトラッカーのデータは画像のヘッダーに書き込まれません

< **job tracker file** > — このオプションを選択すると、有効なファイルのジョブトラッカーデータが続いて撮影されるイメージのヘッダーに書き込まれます。このファイルは、事前に読み込んでおく必要があります。ファイルが1つも読み込まれていない場合、このオプションはメニューに表示されません。

[読み込み] — 有効なジョブトラッカーファイルを1度に1つだけ読み込めます。このファイルは、メモリカードまたはカメラのメモリから読み込めます。

2. OK ボタンを押します。

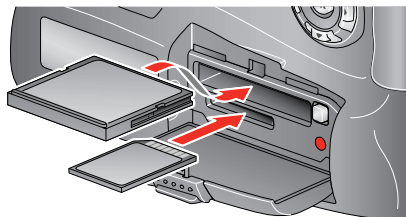
ジョブトラッカーファイルのカードへの保存

ジョブトラッカーファイルは、DCS Photo Desk で作成、保存することができます。作成したジョブトラッカーファイルはカード経由でカメラに読み込まれます。

コンピュータ上での操作

1. カードリーダーに、CF カードを入れます。
2. コダック プロフェッショナル DCS Photo Desk ソフトウェアを使用して、.IPT ファイルをカードに保存します。
または、ファイルをハードドライブに保存してから、カードにコピーすることもできます。

ジョブトラッカーファイルを カードから読み込む



1. カードをカメラに挿入します。



2. [ツール]メニューから[ジョブトラッカー]を選択し、[読み込み]を反転表示します。



3. [カード読み込み]を選択します。

カメラにカードが2枚入っている場合、読み込むジョブトラッカーファイルが保存されているカードを選択します。

4. 読み込むファイルを反転表示します。

5. OKボタンを押します。

ファイルはカメラのメモリに読み込まれて、使用可能となります。

カメラのセットアップ

ジョブトラッカーファイルをカメラのメモリから読み込む



1. [ツール]メニューから[ジョブトラッカー]を選択し、[読み込み]を反転表示します。
2. [メモリから読み込み]を選択して、いずれかのファイルを反転表示します。
3. OKボタンを押します。
選択したジョブトラッカーファイルが使用可能となります。

言語の選択

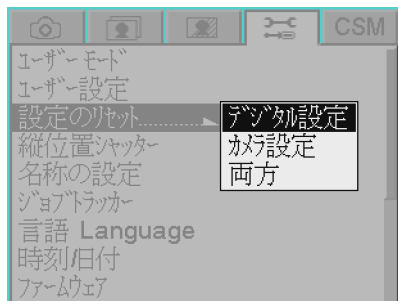
画像表示パネルおよび背面表示パネルに表示される言語（英語、日本語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語、簡体字中国語、ポルトガル語、または韓国語）を選択することができます。



1. [ツール]メニューから[言語]を選択して、いずれかの言語を反転表示します。
2. OKボタンを押します。

設定のリセット

デジタル設定とカメラ設定を、出荷時のデフォルトに戻します。

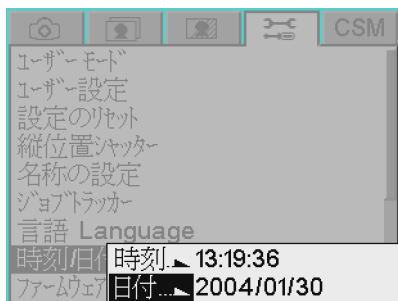


1. [ツール] タブの [設定のリセット] を選択します。出荷時の設定に戻したい部分を、[デジタル設定]、[カメラ設定]、または[両方]から選択します。
2. OK ボタンを押します。
3. OK ボタンを押して変更を受け入れ、確認画面を閉じます。

時刻 / 日付の設定

時刻と日付のスタンプが各画像ファイルに関連付けられています。

カメラにコイン型リチウム電池 **CR 2032** が入っていると、最大で **14 日間**、日付と時刻が保持されます。カメラに電源を入れたときに、この電池は充電されます。このバッテリーの電気がなくなった場合は、バッテリーを交換して時刻と日付を再設定する必要があります。



1. [ツール] タブの [時刻 / 日付] を選択します。時刻を変更するときは [時刻]、日付を変更するときは [日付] を選択します。
2. [時刻] を選択した場合は、5 方向コントロールの右側または左側を押して、時間、分、および秒を選択します。5 方向コントロールの上または下を押して値を変更します。
[日付] を選択した場合は、5 方向コントロールの右側または左側を押して、年、月、および日を選択します。5 方向コントロールの上または下を押して値を変更します。
3. OK ボタンを押します。

縦位置シャッターボタン

カメラの縦位置シャッター ボタンをロックまたはロック解除できます。または [オート] に設定することもできます

【 オート 】— 縦位置シャッター ボタンはカメラがポートレート撮影位置 (時計回りにまたは半時計回りに **90°** 回転) になったときに動作します。

【 ロック解除 】— 縦位置シャッター ボタンはカメラが任意の撮影位置になったときに動作します。

【 ロック 】— 縦位置シャッター ボタンは動作しません。

1. [ツール] メニューから [縦位置シャッター] を選択して、[オート]、[ロック] または [ロック解除] を選択します。
2. OK ボタンを押します。



長時間露光モード

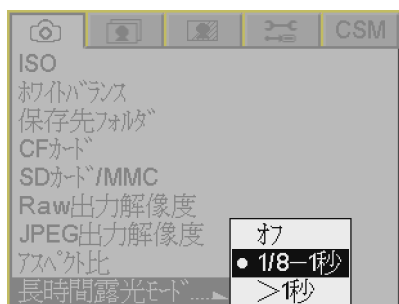
長時間露光機能をカメラで有効または無効にできます。この機能を有効にすると、長時間露光のノイズが低減されます。

以下のいずれかを選択できます。

【オフ】 この機能をオフにした状態で長いシャッター速度を使用して撮影すると、機能を有効にすることを推奨するメッセージが表示されます。

【1/8 - 1 秒】 最大 1/2 秒までの露光にお勧めします。

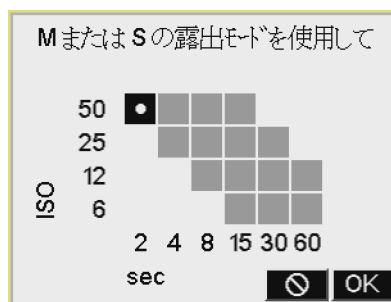
【以上 1 秒】 これを選択すると、ISO およびシャッター速度設定を指定することにより、より長時間の露光中に高画質の画像を撮影できます。【以上 1 秒】は、【手動】または【シャッタースピード優先 AE】露光モードとともに使用してください。



1. 【撮影】メニューから【長時間露光モード】を選択します。
2. 【オフ】、【1/8 - 1 秒】、【以上 1 秒】のいずれかを選択します。
3. OK ボタンを押します。

【オフ】または【1/8 - 1 秒】を選択した場合、設定が変更されます。

【以上 1 秒】を選択した場合、以下の画面が表示されます。



- a. 5 方向コントロールの上または下を押して ISO 設定を変更します。5 方向コントロールスイッチの右または左を押して、露光を変更します（上記の例では、ISO は 50 に設定され、露光は 2 秒に設定されます）。

備考：【以上 1 秒】が有効な場合は、その露光設定が既存の露光設定よりも優先されます。カメラの制御機構を使用して、露光モード、シャッター速度、または ISO 設定を変更しないでください。

- b. OK ボタンを押します。

カメラの測光システムが有効になります。絞りを設定する場合は、ファインダーの露光計を参考にしてください。

インターバル撮影

インターバル撮影は、指定した時間内に指定した間隔で連続したイメージを自動的に撮影する機能です。つぼみの開花の撮影や無人での観察には、インターバル撮影を使用できます。

指定した時間が過ぎると、指定した数のイメージが撮影できていなくてもインターバル撮影は無効になります。たとえば、1秒間隔で60回露光するようにインターバル撮影を設定した場合に、結果的にバッファがいっぱいになり、カメラが1秒間隔での撮影を続けられなくなったとします。この場合、カメラは15枚撮影できていなくても、60秒(60 x 1秒)経過すると撮影を終了します。

インターバル撮影では以下の項目を設定することができます。

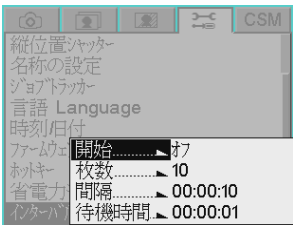
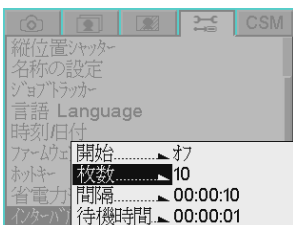
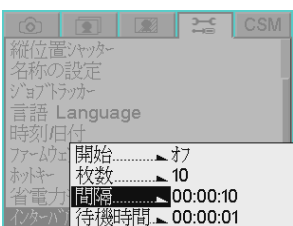
開始 — インターバル撮影を有効または無効にします。

枚数 — 指定した時間内に撮影するイメージの数


間隔 — 露光の間隔

待機時間 — インターバル撮影機能の開始

インターバル撮影の設定

オプション	メニュー	手順	範囲	初期値
開始		<ol style="list-style-type: none"> 1. [ツール]メニューから[インターバル撮影]を選択して、[オン]または[オフ]を反転表示します。 2. OK ボタンを押します。 		
枚数		<ol style="list-style-type: none"> 1. [ツール]メニューから[インターバル撮影]を選択して、[枚数]を反転表示します。 現在設定されている枚数が表示され、1 桁目が反転表示されます。 2. 5 方向コントロールの上または下を押して、1 桁目を変更します。 3. 5 方向コントロールの左右を押して変更する桁を反転表示して、上下で数値を変更します。 4. OK ボタンを押します。 	1 - 9999	10
間隔		<ol style="list-style-type: none"> 1. [ツール]メニューから[インターバル撮影]を選択して、[間隔]を選択します。 2. 5 方向コントロールの右または左を押して、時間、分、および秒を選択します。5 方向コントロールの上または下を押して数値を変更します。 3. OK ボタンを押します。 	3 秒～ 23:59:59 (時:分:秒)	10 秒

カメラのセットアップ

オプション	メニュー	手順	範囲	初期値
待機時間		<ol style="list-style-type: none"> 1. [ツール]メニューから[インターバル撮影]を選択して、[待機時間]を選択します。 2. 5方向コントロールの左または右を押して、時間、分、および秒を選択します。5方向コントロールの上または下を押して数値を変更します。 3. OKボタンを押します。 	1 秒～ 23:59:59 (時:分:秒)	1 秒

ISO

ISO 感度は、カメラのイメージャーの光に対する感度を設定します。ISO を上げると感度は高くなり、下げると低くなります。ISO の範囲は 160 ～ 1600 です。

ISO は、1/3 ずつ変更できます。

画像表示パネルのメニューまたはカメラのダイヤルで、ISO を設定できます。

画像表示パネルでの ISO 設定



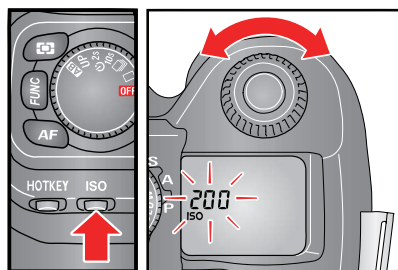
1. [撮影] メニューから [ISO] を選択して、希望する設定を選択します。
2. OK ボタンを押します。

ショートカット

- デジタル表示パネルのショートカットを使用して、この機能にアクセスすることもできます。



カメラのダイヤルによる ISO 設定



1. ISO ボタンを押しながら、C-ダイヤルを回転して ISO 値を選択します。希望する値が表示されたらボタンを離します。
2. ISO 設定を確認するには、ISO ボタンを押します。

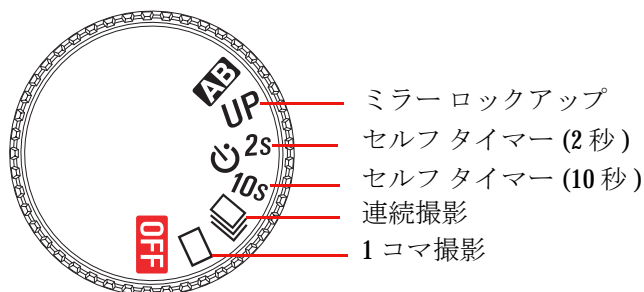
ISO アイコンおよび現在の ISO 設定が、上部表示パネルに表示されます。

備考：通常、ISO 設定を低くすると、画像のデジタルノイズが少なくなります (ISO 設定を高くした画像と比較した場合です)。ただし、ISO 設定を低くして撮影すると、シャッタースピードが遅くなる、絞りが広くなる、明るくなる、またはこれらのいくつかが組み合わせが発生します。ISO 設定を高くすると、写真感度が大きくなります。これは、ほの暗いところで撮影する場合に役に立ちますが、画像のノイズが増えます。ISO 設定を選択する場合のシーンや目的の結果を解析する必要があります。

ドライブ モード

D- ダイアルのドライブ領域

D- ダイアルのドライブ領域を使用して、ミラー ロックアップ、セルフタイマー、連続撮影、1 コマ撮影機能にアクセスします。




1 コマ撮影

1 コマ撮影モードでシャッター ボタンを押すと、画像が1つだけ撮影されます。そのため、撮影するたびにシャッター ボタンを押す必要があります。



- D- ダイアルを回して  に合わせます。

連続撮影

連続撮影モードでシャッター ボタンを完全に押すと、1.7 コマ / 秒で連続して撮影されます (ただし、カメラのメモリが空いている場合です)。

- D- ダialを回して  に合わせます。

連続撮影ドライブ モードに関する注意

- AF モードが AF  (シングル AF モード) モードに設定されていて、ファインダーのフォーカス インジケータがオンになっている場合、フォーカス距離と露光値は最初の画像の設定で固定されます。被写体が動く場合、またはシーンの明るさが変わる場合、レンズフォーカスおよびカメラの露光が 2 つめ以降の画像に合わなくなることがあります。AF モードが AF  モード (連続 AF モード) に設定されている場合、連続して被写体にフォーカスされます。ただし、オートフォーカス機能が完了していない場合でもシャッター ボタンを放すことができます。そのため、画像はフォーカスから外れることがあります。
- 連続撮影モードをアクセサリ シューの外部フラッシュで使用する場合、カメラのフレーム レートが遅くなることがあります。これは、フラッシュの再充電中にカメラは撮影しないからです。
- 素早く連続して撮影された画像は、まずカメラの内部メモリバッファに格納されます。このため、CF カードに画像が書き込まれるまで待機することなく連続して撮影できます。内部メモリ バッファは、約 20 枚の画像を格納できます (Raw 13.5 MP 出力解像度の場合)。メモリ バッファが一杯になると、いくつかの画像が CF カードに転送されるまで、シャッターが使用できなくなります。

備考： カメラが撮影可能なときを示す電子音を設定できます。バッファが一杯になった場合は、データが書き込まれるまで待つ必要があります。電子音を有効にすると、撮影に必要な容量が解放されたときにカメラのピープ音が鳴ります。電子音のカスタム設定表 (5-3 ページ) を参照してください。

セルフタイマー

自分を撮影する場合、またはカメラのブレをなくす場合に、セルフタイマーを使用します。セルフタイマーを使用する前に、三脚を使用するかカメラを平らな面に置きます。

セルフタイマーを **[10 秒]** に設定した場合、シャッター ボタンを完全に押してから **10 秒**後にシャッターがリリースされます。

セルフタイマーを **[2 秒]** に設定した場合、シャッター ボタンを完全に押してから **2 秒**後にシャッターがリリースされます。

画像の構成を決めたら、シャッター ボタンを軽く押して、フォーカスを調整します。シャッター ボタンを完全に押し込むと、ファインダーの表示が消え、セルフタイマーが起動します。セルフタイマーのカウントダウン中は、電子音のビーブが聞こえ、最後の **2 秒**間は短い間隔で鳴ります。上部表示パネルに、残り時間のカウントダウンが表示されます。

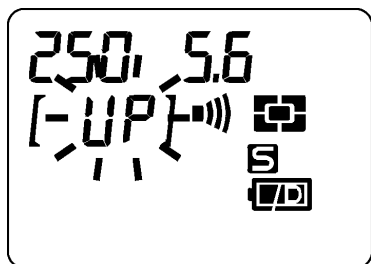
1. **D-** ダIALを回して、**2 秒**または **10 秒**に合わせます。
2. **M** (マニュアル) 以外の露光モードでセルフタイマー撮影を行う場合は、シャッター ボタンを押す前に手または付属のファインダー キャップ ([2-22 ページ](#)を参照) で接眼部を覆ってください。こうすると逆光に邪魔されずに露光が補正されます。
3. 構図を決め、シャッター ボタンを半押ししてピントを合わせた後、シャッター ボタンを押し込みます。

備考：セルフタイマーが起動すると、シャッターは **2 秒**または **10 秒**以内にリリースされます。セルフタイマー操作中は、電子音オプションをオフに設定している場合でも、電子音が鳴ります。

セルフタイマーの取り消し

- **D-** ダIALを回して別の位置に合わせます。

ミラー ロックアップ



ミラー ロックアップ ファンクションはミラーを上げますが、一定時間後までシャッターの始動を延期します。クローズアップで撮影する場合、または長い望遠レンズを使用する場合、ミラー ロックアップを使用します。

1. D- ダイアルを回して **UP** に合わせます。
2. シャッター ボタンを軽く押し、オート フォーカスおよび露光を設定します。
3. シャッター ボタンを完全に押します。
ミラーが上がり、露光値が固定されます。
4. シャッター ボタンを放します。

一定時間後に、画像が撮影され、ミラーが元の位置に戻ります。ミラーアップ撮影機能の間隔の設定については、[5-3 ページ](#)を参照してください。

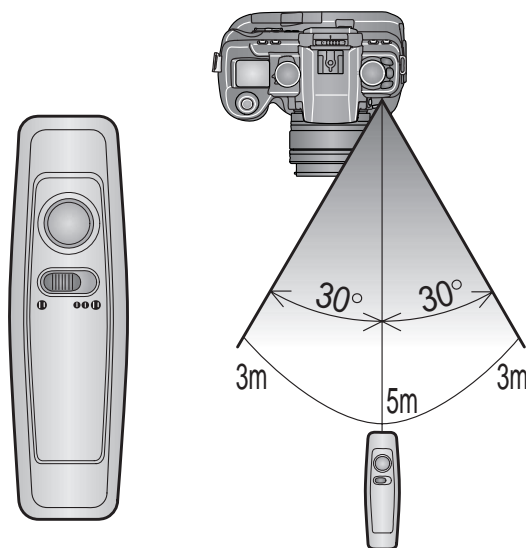
備考

- リモート コントローラでミラー ロックアップを使用することができます
([5-24 ページ](#)を参照)。

リモート コントローラ

この組み込みアクセサリ機能を使用すると、カメラの前から **16 ft (5 m)**、または左右両側 **30 度** の最大 **9.8 ft (3 m)** 離れた場所よりカメラのシャッターをリリースすることができます (カメラの左側から使用する場合、レンズにより制限があることもあります)。

備考： リモート コントローラを使用する前に、ファインダー接眼窓をファインダー キャップで覆い、ファインダーに逆光が入るのを防いでください ([2-22 ページ](#)を参照)。リモート コントローラにはバッテリーを取り付け済みです。



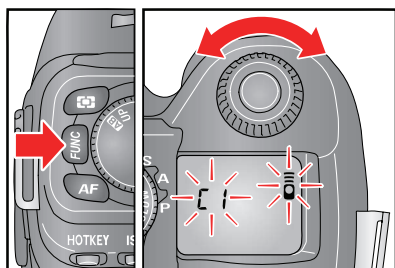
リモート コントローラの設定



リモート コントローラで以下のようにします。

1. 遅延時間を選択します。
 - を選択すると、転送ボタンを押した直後にシャッターがリリースされます。
 - を選択すると、転送ボタンを押してから **3 秒**後にシャッターがリリースされます。**3 秒**のカウントダウン中は電子音が鳴ります。
2. リモート コントローラの横にあるスイッチをスライドさせて、チャンネル **1**、**2**、または **3** を選択します。

カメラをリモートコントロールモードに設定する

リモート コントローラを使用する場合は、**AF** またはマニュアルフォーカスを使用してシーンに対してピントを設定してから、レンズを **MF** の位置に切り替えます。レンズが **AF** のままになっている場合、カメラがリモート コントローラから信号を受信するとオートフォーカスが実行され、正しいフォーカスを確認できなくなります。



1. **FUNC** ボタンを押したままにします。
上部表示パネルに  マークが表示されます。
2. **FUNC** ボタンを押し続け、**C**-ダイヤルを回してチャンネル (リモート コントローラなどのチャンネル) を選択します。**FUNC** ボタンを放します。
チャンネルを設定すると、 マークが上部表示パネルに表示されます。
3. 被写体がフレーム内に収まっているか確認します。
4. シャッター ボタンを軽く押してフォーカスを設定して、次にレンズ スイッチを **MF** に設定します。
5. 転送ダイオードをカメラに向け、転送ボタンを押します。

備考

- リモート コントローラは、連続撮影モードでは使用できません。**D**-ダイヤルが連続撮影に設定されている場合、カメラは、リモート コントローラにより起動されるたびに1つの画像のみを撮影します。
- 強い直射日光がカメラのリモート コントロール センサーに当たっている場合、リモート コントローラが正しく機能しないことがあります。
- リモート コントロール モードが有効な場合、カメラの半押しタイマーは5分間固定に変わります。カメラを再起動するには、シャッター ボタンを軽く押します。
- 撮影したら、手順1および2 (上記) を繰り返し、-- を選択してリモート コントロール機能を取り消します。

リモートコントロールモードの取り消し

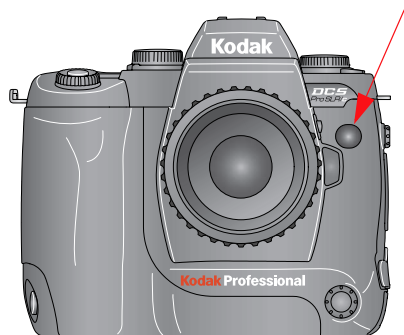
カメラのセットアップ

リモート コントローラでミラー ロックアップを使用する

リモート コントローラでミラー ロックアップ モードを使用する場合は、**AF** またはマニュアルフォーカスを使用してシーンに対してピントを設定してから、レンズを **MF** の位置に切り替えます。レンズが **AF** のままになっている場合、カメラがリモート コントローラから信号を受信するとオートフォーカスが実行され、正しいフォーカスを確認できなくなります。

1. **D-** ダIALを回して **UP** に合わせます。
2. カメラをリモート コントロール モードに設定します。
3. シャッター ボタンを軽く押してフォーカスを設定して、次にレンズ スイッチを **MF** に設定します。
4. リモート コントローラをカメラのリモート コントロール センサーに向け、転送ボタンを押します。

一定時間後に、画像が撮影され、ミラーが元の位置に戻ります。ミラーアップ撮影機能の間隔の設定については、[5-3 ページ](#)を参照してください。



リモート コントローラ電池の交換

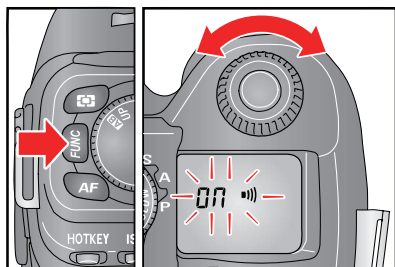
CR 1220 3V コイン型リチウム電池を2つ使用します。


1. ドライバを使って、底面カバーのネジを外します。
2. 底面カバーを開け、電池を交換します。
3. 再びカバーをして、ネジを締めます。締め過ぎに注意してください。

電池を交換したら、リモート コントローラ操作を確認します。

電子音の設定

さまざまな機能に対してカメラでビープ音を鳴らすことができます。ここでは、フォーカスの確認のビープの設定を説明します。その他の機能の情報については、電子音カスタム設定表 (5-3 ページを参照) に記載されています。




1. FUNC ボタンを 2 回押します (2 回目はボタンを押したままにします)。上部表示パネルに  マークが表示されます。
2. 上部表示パネルに **On** と表示されるまで、FUNC ボタンを押しながら C-ダイヤルを回します。

フォーカスの確認の電子音を取り消すには、「--」を選択します。

備考：電子音のオン/オフを切り替えたり、電子音カスタム設定を使用してビープ音の回数を指定することもできます (5-3 ページを参照)。

備考：フォーカスが確認されると (ファインダーのフォーカスインジケータが点灯すると)、カメラからビープ音が鳴ります。

ヒント

- 上部表示パネルに  が表示されている場合、フォーカスの確認の電子音はオンです。
- セルフタイマーまたはリモート コントローラを 3 秒の待機時間で使用している場合は、電子音をオフにすることはできません。

6 カード、フォルダ、ファイルの設定

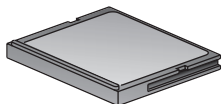
コダック プロフェッショナル DCS Pro Pro SLR/c デジタルカメラ (DCS Pro SLR/c) には、2 個のメモリ カードのスロットがあります。メモリ カードに画像を保存する前に、次のように操作します。

- 画像を保存するフォルダを選択します。
- 画像を保存するフォルダを作成し、名前を付けます。
- この後に撮影する画像のファイル形式、および画像の特性などを決定します。

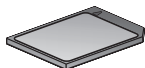
メモリ カード

カードは、1 枚または 2 枚を同時に挿入できます。一方のスロットには CF (COMPACTFLASH) カードを挿入し、もう一方のスロットには SD (SECURE DIGITAL) カードまたは MMC (MULTIMEDIA) カードを挿入します。カードが 2 枚の場合は、両方のカードに画像を取り込みながらバックアップをとるか、片方のカードをもう片方のカードが一杯になるまでの予備として指定します。

CF カード



SD カード /MMC

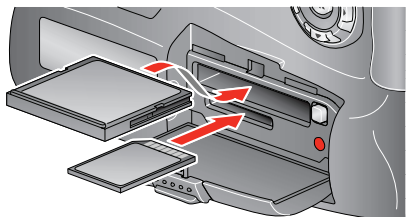


COMPACTFLASH (CF) カード — ソリッドステートまたは IBM MicroDrive COMPACTFLASH+ Type II カード

SECURE DIGITAL (SD) カード — 書き込み保護ロックを備えたメモリカード

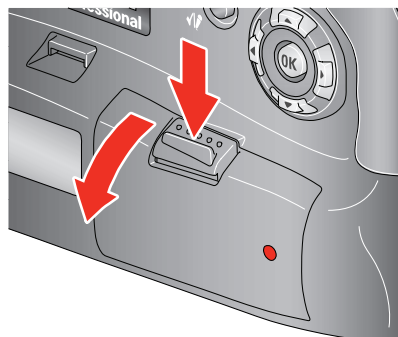
MULTIMEDIA (MMC) カード — SD カードと同じサイズで、書き込み保護ロックを備えていない

カードの挿入

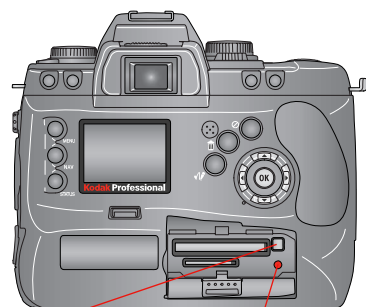


1. メディア ドアを開きます。
2. CF カードを使用する場合は、ラベル面を上にして、上のスロットにカードを入れます
SD カードまたは MMC カードを使用する場合は、ラベル面を下にして、下のスロットにカードを入れます
カードを 2 枚使用する場合は、どちらのカードを最初に挿入してもかまいません。
3. メディア ドアを閉じます。

カードの取り出し



カードアイコン



CF カード取り出しボタン カード ビジーランプ

1. メディア ドアを開きます。

⚠ 注意：

カメラがカードにアクセスしているときは、カード ビジー ランプと背面表示パネルのカードアイコンが点滅します。カード ビジー ランプが点滅しているときはカードを取り出さないでください。カードを取り出すと、記録されている画像ファイルがすべて壊れる可能性があります。

2. CF カードを取り出すには、取り出しボタンを押します。SD カードまたは MMC を取り出すには、カードの端を押してから取り出します。
カードを 2 枚取り出す場合は、どちらのカードを最初に取り出してもかまいません。
3. メディア ドアを閉じます。

画像フォーマット

ご使用のカメラは画像を **Raw** ファイルまたは **JPEG** ファイルとして保存できます。

Raw (.dcr) ファイルは、コダック プロフェッショナル **DCS Photo Desk** によって開くことができます。**Raw** データは画像情報を劣化させることなく調整や保存が可能で、「デジタル ネガ」と考えることができます。画像の全情報を保存するため、**DCS Photo Desk** で使用できる **DCS** 固有の画像強調を適用できます。

JPEG (.jpg) ファイルは、サイズが小さく、あらゆる画像編集ソフトウェアで直接開くことができます。**ERI (Extended Range Imaging) JPEG**、または標準 **JPEG** が選べます。

備考： 同じ **JPEG** 画像を繰り返し保存すると、画質が劣化します。

カードに書き込まれる画像フォーマットの選択

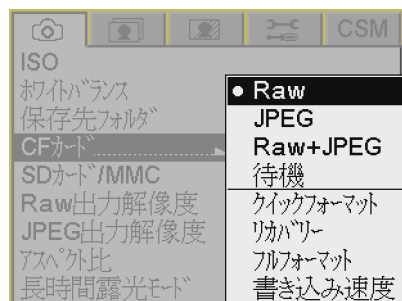
メモリ カードを 1 枚使用する場合は、撮影した画像を **Raw**、**JPEG**、または **Raw+JPEG** としてカードに保存するように指定できます (**Raw+JPEG** 形式では、両方の形式がカードに書き込まれます)。

メモリ カードを 2 枚使用する場合は、1 枚のカードを予備とするか、あるいは撮影した画像を **Raw**、**JPEG**、または **Raw+JPEG** として両方のカードに保存するように指定できます。カード 1 枚を予備として設定すると、もう一方のカードが一杯になるまでそのカードに画像は書き込まれません。片方のカードの容量がなくなると、撮影した画像が同じ形式で予備カードへ書き込まれます。どちらのカードも予備でない場合は、撮影した画像が両方のカードに書き込まれます (両方のカードに画像を保存する場合、それぞれのカードに同じ形式で保存することも、異なった形式を保存することもできます)。 **JPEG** 画像フォーマットも選択できます。

次の表に保存方法の例を示します。

	CF カード	SD カード /MMC
カードが 1 枚の場合	JPEG Raw	待機 待機
カードが 2 枚で保存形式が異なる場合	Raw	JPEG
カードが 2 枚で保存形式が同じ場合	Raw Raw+JPEG	Raw Raw+JPEG

カード、フォルダ、ファイルの設定



1. カードが1枚の場合は、[撮影]メニューから適切なカード([CFカード]または[SDカード/MMC])を選択し、[Raw]、[JPEG]、または[Raw+JPEG]を選択します。

カードが2枚の場合は、[撮影]タブで[CFカード]、[SDカード/MMC]から設定するカードを選択します。それぞれのカードに保存する画像の形式を[Raw]、[JPEG]、[Raw+JPEG]から指定します。片方のカードに画像を保存しない場合は、そのカードの種類を選択して[待機]を指定します。

2. OKボタンを押します。
3. カードが2枚の場合は、両方のカードに関して保存形式を指定します。

備考：予備にできるカードは1枚だけです。

ショートカット

- デジタル表示パネルのショートカットを使用して、この機能にアクセスすることもできます。



JPEG 画像フォーマットの選択

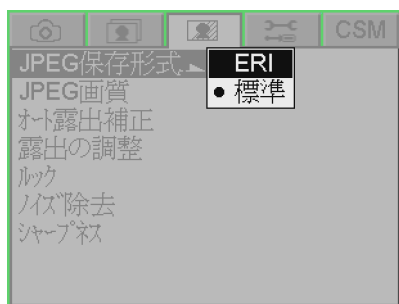
JPEG ファイルをカードに書き込む場合、さらにそのファイルを ERI (Extended Range Imaging) JPEG、または 標準 JPEG に指定できます。

- **ERI JPEG** ファイルは画像編集機能が向上しています。付属の コダック プロフェッショナル DCS ERI File Format Module を使用すると Photoshop に取り込む前に DCS 固有の画像強調の多くを適用できます。

ERI JPEG ファイル形式について詳しくは、

<http://www.kodak.com/go/dcs> の「Extended Range Imaging Technology (ERI)」へアクセスします。

- **標準 JPEG** ファイルは ERI JPEG よりやや容量が小さく、ERI JPEG ファイルが持つ撮影後の DCS 固有の画像強調機能はありません。
- [画像] メニューから [JPEG 保存形式] を選び、次に [ERI] または [標準] を選びます。



カードのフォーマット

カードが正しくフォーマットされていない、またはカードのデータが壊れた場合は、カードをフォーマットする必要があります。カードを数回のセッション (24 または 36 など) で使用した場合は、カードの全容量を使用するために、使用するカメラでカードをフォーマットすることもできます (画像を削除してもカードの全容量を元に戻すことはできません)。

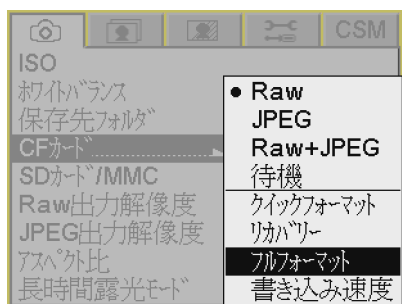
カードをフォーマットする方法には、次の 2 種類があります。

クイックフォーマット — ディレクトリ構造を削除しますが、データは消去しません。クイック フォーマットは比較的短時間で終了します。ファイルが上書きされていない場合は、クイックフォーマット後に画像ファイルを復元 ([リカバリー機能]) することができます。

フルフォーマット — 全情報を消去し、カードを「クリーンアップ」します。フルフォーマットは時間がかかります。フルフォーマットの後は、ファイルを復元できません。

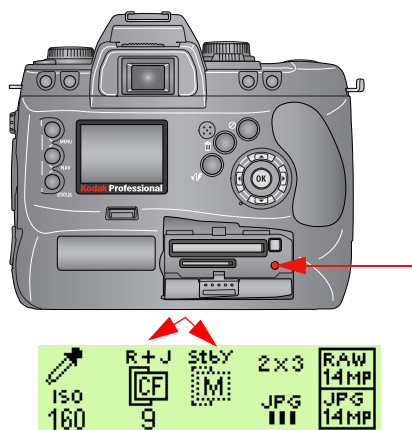
備考: カードは PC DOS フォーマットでフォーマットされます。

1. [撮影] メニューから [CF カード] または [SD カード/MMC] を選択し、[クイックフォーマット] または [フルフォーマット] を反転表示します。



2. OK ボタンを押してカードをフォーマットし、確認画面を終了します (取消ボタンを押すと、カードがフォーマットされずに確認画面が終了します)。

フォーマット中は、カードビジー ランプと背面表示パネルの該当するカードアイコンが点滅します。点滅が止まると、フォーマットは完了です。



削除したファイルのリカバリー

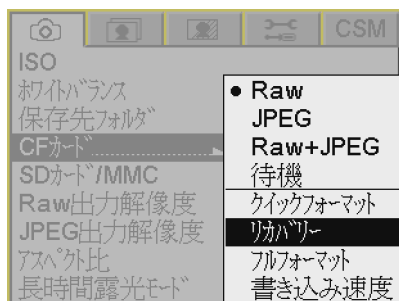
リカバリー機能を使用すると、メモリカードから直前に削除した画像ファイルを復元できます。次のような場合に画像を復元することができます。

- DCS カメラを使用してカードがフォーマットされた場合
- ファイルが上書きされていない場合

ファイルをリカバリーすると、「**Recover**」という名前のフォルダが作成され、リカバリーされたファイルはその中に保存されます。

備考：「**Recover**」フォルダに画像を取り込むことはできません。

1. [撮影]メニューから[CFカード]または[SDカード]を選択し、[リカバリー]を反転表示します。



2. OK ボタンを押します。

「画像の復元中」というメッセージの後に「画像の復元が完了しました。」というメッセージが表示されます。

3. OK ボタンを押します。



書き込み速度の決定

カメラがデータを CF カードへ書き込む速度を選択できます。書き込み速度の単位はメガバイト / 毎秒です。

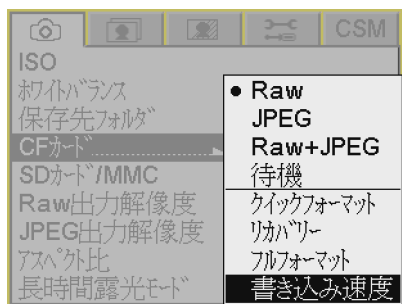
備考：撮影中、画像表示をオフにすると、書き込み速度は向上します。

書き込み速度を最も正確に測定する方法

1. SD または MMC カードが挿入されている場合、そのカードを予備として設定し、カードを取り外します。
2. CF カードをカメラに挿入します。
3. Raw フォーマットを選択します。
4. Raw 出力解像度を 13.5 に設定します。
5. 1 コマ表示モードを選択します。
6. 画像表示をオフにします。
7. 1 枚以上画像を撮影します。
8. 画像表示パネルをオンにし、[撮影] メニューから [書き込み速度] を選択します。

最後に画像を保存したときの書き込み速度が表示されます。

備考：読み込みの結果は書き込みごとに若干変わるため、手順 6 ～ 8 を少なくとも 3 回繰り返して、得られた結果の平均を取ります。



撮影した画像のフォルダ

撮影した画像を保存するフォルダは選択できます。新しいフォルダを作成して名前を付けることもできます。

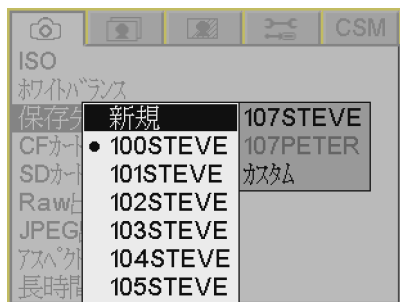
重要： フォルダを選択または作成しているときにカメラでカードを2枚使用している場合は、両方のカードに同じフォルダが選択または作成されます。

撮影フォルダの選択



1. [撮影] メニューから [フォルダ] を選択し、フォルダを反転表示します。
2. OK ボタンを押します。

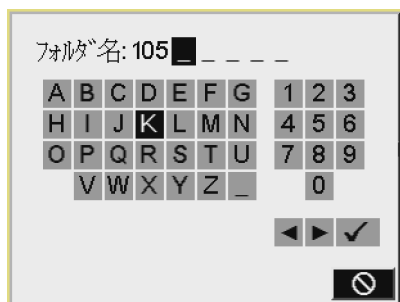
新規フォルダの作成



1. [撮影] メニューから [フォルダ] を選択し、[新規] を選択し、次のいずれかを選択します。

- 現在の命名方式に関連付けられた新規フォルダの名前
- デフォルトの命名方式に関連付けられた新規フォルダの名前
- 新しい命名方式を作成するためのカスタム オプション

備考： 名前の付け方は常に DCF (Digital Camera File) 規格に基づいています。



OKボタンで文字を決定し、✓で終了します

2. [カスタム] を選択すると、この画面が表示され、ここでフォルダに名前を付けることができます。

名前は、3 文字の数字の後に 5 文字の英数字を続ける構成にする必要があります (数字は変更できません)。

- a. 文字を入力するには、5 方向コントロール スイッチの左右で文字を反転表示して、OK ボタンを押して決定します。
- b. 文字を変更するには、> または < を選択し OK ボタンを押して変更する文字を反転表示し、上書きする文字を選択して OK ボタンを押します。
- c. 終了したら、[終了] を反転表示して OK ボタンを押します。

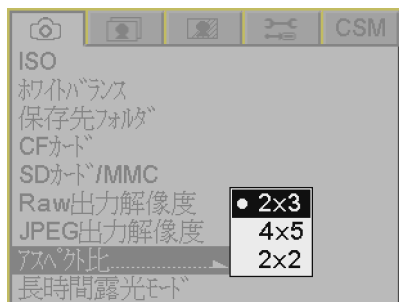
3. OK ボタンを押します。

画像ファイル

撮影した画像を **Raw** 形式、**JPEG** 形式、または **Raw+JPEG** 形式で保存することができます。また、出力解像度、クロップアスペクト比、画質などの画像強調も指定できます。

クロップアスペクト比の設定

クロップアスペクト比を選択して **JPEG** 画像に適用できます。クロップアスペクト比は、カメラの **Raw** 画像には適用されません。ただし、画像が **DCS PhotoDesk** ソフトウェアで処理されるときに情報が保存されて適用されます (**DCS Photo Desk** ソフトウェアでも設定を変更することができます)。



1. [撮影] タブの [アスペクト比] から [2 x 3]、[4 x 5]、または [2 x 2] を選択します。
2. OK ボタンを押します。

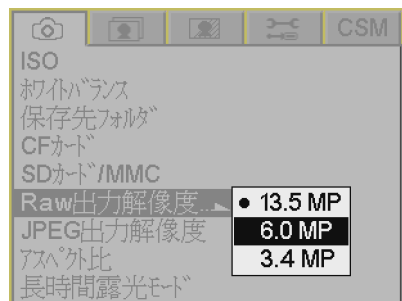
[4 x 5] または [2 x 2] を選択すると、サムネイルにトリミング範囲が表示されます (カメラの画像表示モードと **DCS Photo Desk** ソフトウェア)。

ショートカット

- デジタルステータス **LCD** ショートカットを使用して、この機能にアクセスすることもできます。



Raw 出力解像度の設定



Raw ファイルに使用できる解像度は次の 3 種類です。

[13.5 MP] — フル解像度 Raw データ (4500 x 3000)

[6.0 MP] — 1/2 解像度 Raw データ (3000 x 2000)

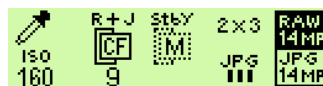
[3.4 MP] — 1/4 解像度 Raw データ (2250 x 1500)

1. [撮影] メニューから [Raw 出力解像度] を選択し、解像度を反転表示します。
2. OK ボタンを押します。

備考：画素数は、アスペクト比に応じて変わります。

ショートカット

- デジタル表示パネルのショートカットを使用して、この機能にアクセスすることもできます。



備考：高い ISO を選択した場合は、解像度を一部使用できません。

JPEG 出力解像度の設定



JPEG ファイルに使用できる出力解像度は次の 4 種類です。

[13.5 MP] — フル解像度 JPEG データ (4500 x 3000)

[6.0 MP] — 1/2 解像度 JPEG データ (3000 x 2000)

[3.4 MP] — 1/4 解像度 JPEG データ (2250 x 1500)

[0.8 MP] — 0.8 解像度 JPEG データ (1125 x 750)

備考：画素数は、アスペクト比に応じて変わります。

1. [撮影] メニューから [JPEG 出力解像度] を選択し、解像度を反転表示します。
2. OK ボタンを押します。

ショートカット

- デジタル表示パネルのショートカットを使用して、この機能にアクセスすることもできます。



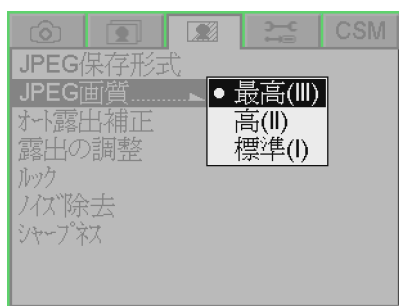
JPEG 画質の設定

JPEG ファイルに適用される圧縮レベルを指定できます。

[最高 (III)] — 圧縮率が最低、ファイルサイズが大きく、画質が最高の画像

[高 (II)] — 圧縮率が適度、ファイルサイズが小さく、画質が適度の画像

[標準 (I)] — 圧縮率が最高、ファイルサイズが最小、画質が最低の画像

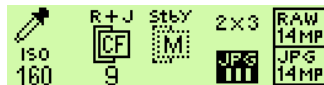


1. [画像] メニューから [JPEG 画質] を選択し、[最高 (III)]、[高 (II)]、または [標準 (I)] を反転表示します。

2. OK ボタンを押します。

ショートカット

- デジタル表示パネルのショートカットを使用して、この機能にアクセスすることもできます。



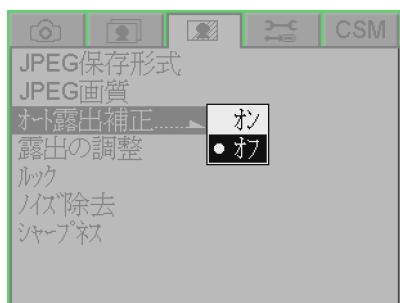
オート露出補正

オート露出補正を使用して露出を調整します。

この機能を使用してエラーを訂正できますが、適切な露出設定 (シャッター速度、絞り、ISO) の代わりとはなりません。

備考： オート露出補正と露出を修正する露出補正を混同しないでください。

オート露出補正は、カメラの **JPEG** 画像に適用されます。カメラの **Raw** 画像には適用されません。ただし、画像が **DCS PhotoDesk** ソフトウェアで処理されるときに情報が保存されて適用されます (**DCS Photo Desk** ソフトウェアでも設定を変更することができます)。



1. [画像] メニューから [オート露出補正] を選択し、[オフ] または [オン] を反転表示します。
2. OK ボタンを押します。

露出の調整の設定

スタジオで複数のコダック プロフェッショナル **DCS Pro SLR/c** デジタルカメラを使用する場合は、すべてのカメラで同じ出力が得られるように露出を調整できます。露出の調整は $1/10$ ずつ -0.5 ～ $+0.5$ の間で設定できます。露出の調整は、カメラの **JPEG** 画像に適用されます。カメラの **Raw** 画像には適用されません。ただし、画像がコダック プロフェッショナル **DCS PhotoDesk** ソフトウェアで処理されるときに情報が保存されて適用されます



1. ベーシック メニューから [露出の調整] を選択し、該当する設定を反転表示します。
2. OK ボタンを押します。

ルックの設定

ルックは、JPEG 画像にトーン スケール調整を適用し、DCS Photo Desk ソフトウェアで調整するために Raw 画像にタグ付けします。ルックは、カメラの JPEG 画像に適用されます。カメラの Raw 画像には適用されません。ただし、画像が DCS PhotoDesk ソフトウェアで処理されるときに情報が保存されて適用されます (DCS Photo Desk ソフトウェアでも設定を変更することができます)。

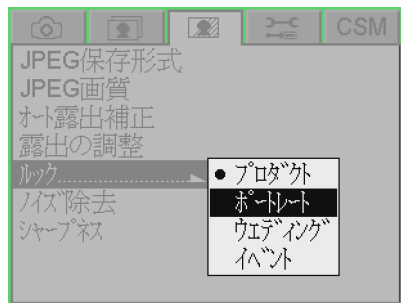
【ポートレート】— コントラストを下げ、ハイライトとシャドウでディテールを表します。

【プロダクト】— コントラストを上げ、彩度を高くします。

【ウエディング】— グレーの影があるプロダクト

【イベント】— 肌の色合いを最適化する高彩度

1. [画像]メニューから[ルック]を選択し、[ポートレート]、[プロダクト]、[ウエディング]、または[イベント]を反転表示します。
2. OK ボタンを押します。



ノイズ除去の設定

ノイズ除去は、高い ISO 設定で撮影した場合に発生するノイズを除去します。

ノイズ除去は、カメラの JPEG 画像に適用されます。カメラの Raw 画像には適用されません。ただし、画像が DCS PhotoDesk ソフトウェアで処理されるときに情報が保存されて適用されます (DCS Photo Desk ソフトウェアでも設定を変更することができます)。

1. [画像] タブの [ノイズ除去] から [標準] または [強] を選択します。
2. OK ボタンを押します。



シャープネス

撮影する画像に適用するシャープネスのレベルを設定できます。シャープネスは、カメラの **JPEG** 画像に適用されます。カメラの **Raw** 画像には適用されません。ただし、画像が **DCS PhotoDesk** ソフトウェアで処理されるときに情報が保存されて適用されます (**DCS Photo Desk** ソフトウェアでも設定を変更することができます)。

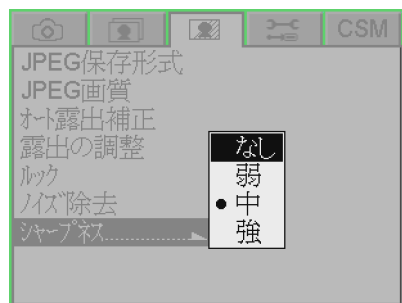
[なし] — シャープネスは適用されません。

[弱] — 最小限のシャープネスが適用されます。

[中] — 適度なシャープネスが適用されます。

[強] — かなりのシャープネスが適用されます。

1. [画像] メニューから [シャープネス] を選択し、[なし]、[弱]、[中]、または [強] を反転表示します。
2. OK ボタンを押します。



7 露出の制御

ホワイト バランス

ホワイト バランス 設定は、照明に合わせて選択し、画像が正確な色を再現するように調整します。コダック プロフェッショナル DCS Pro SLR/c デジタル カメラ (DCS Pro SLR/c) には、プリセットとクリックの 2 種類のホワイト バランスがあります。プリセットまたはクリック WB オプションを指定すると、それ以降に撮影される画像にその設定が適用されます。

プリセット オプションには、オート、デイライト、タングステン、蛍光灯、およびフラッシュがあります。

クリック WB では、以下のことができます。

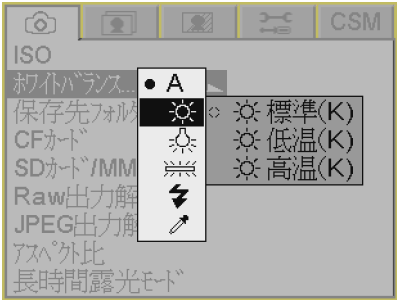
- 現在選択している画像上の領域を指定し、それ以降に撮影される画像のカラー バランスにこの領域の RGB 値を使用する
- 以前に保存した設定を使用する
- クリック WB 設定を保存する
- クリック WB 設定をカードから読み込む
- クリック WB 設定をカメラから削除する

ショートカット

- デジタル表示パネルのショートカットを使用して、この機能にアクセスすることもできます。



プリセット ホワイト バランス



- [撮影] メニューから [ホワイトバランス] を選択し、プリセット オプションのいずれかを選択し、設定を選択します。

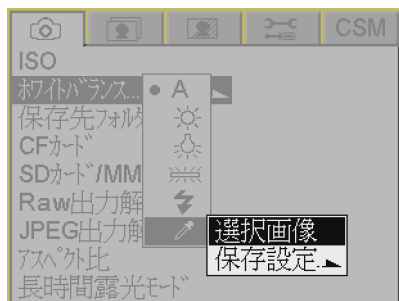
	プリセット カテゴリ	プリセット オプション
	オート	• 完全オート
	デイライト	• 標準のデイライト • 暖かいデイライト • 冷たいデイライト
	タングステン	• 標準のタングステン • 暖かいタングステン • 冷たいタングステン
	蛍光灯	• 標準の蛍光灯 • クール ホワイト
	フラッシュ	• 標準のフラッシュ • 暖かいフラッシュ • 冷たいフラッシュ • スタジオフラッシュ
	クリック WB	7-3 ページを参照してください。


選択したホワイト バランス設定の対応する色温度 (K: ケルビン) が、背面表示パネルに表示されます。

クリック WB

現在の画像で設定したホワイトバランス、あるいはすでに保存されているホワイトバランス、読み込んだホワイトバランスを、撮影する画像に適用できます。

現在の画像をクリック WB に使用



1. 画像を選択します。
2. [撮影] メニューから [ホワイトバランス] を選択し、スポイトツール  を選択して画像を反転表示し、OK ボタンを押します。

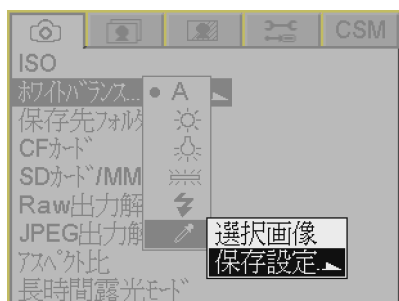
選択した画像が表示されます。




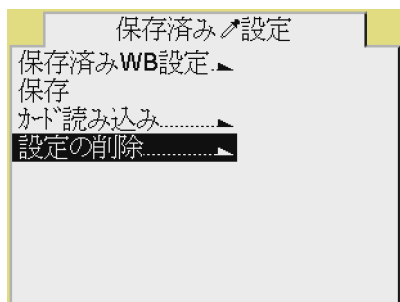
3. 5 方向コントロールの任意の方向を押し、画像のグレーの領域の上にスポイトを移動します。
4. OK ボタンを押します。

スポイトの下の領域のピクセル値がサンプルとして抽出されます。

[保存済み WB 設定] メニューの表示



1. [撮影] タブの [ホワイトバランス] からスポイトツール  を選択し、[WB 設定] を反転表示します。



2. [OK] ボタンを押して [保存済み WB 設定] メニューを表示します。

保存済み WB 設定の使用

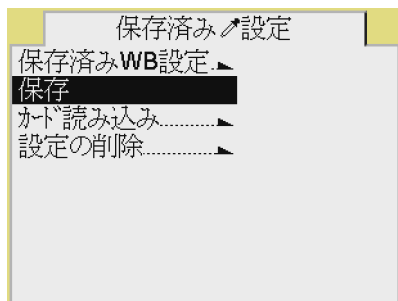
ホワイトバランスを保存するには、最初に次のいずれかを行う必要があります。

- カメラに設定を保存する
- コダック プロフェッショナル DCS Photo Desk ソフトウェアでカードにホワイトバランス設定を保存し、カードからその設定を取り込む

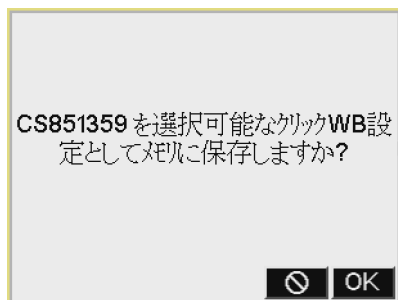


1. [保存済みWB設定] メニューから [保存済み WB 設定] を選択し、設定を反転表示します。
2. OK ボタンを押します。

カメラへの設定の保存



1. 画像を選択します。
2. [保存済みWB設定]メニューから [<画像 #>の保存]を選択し、[OK] ボタンを押します。



3. [OK] ボタンを押して設定を保存し、確認画面を閉じます。

カードからの設定の読み込み

DCS Photo Desk ソフトウェアを使用すると、カードのルートディレクトリに設定を保存できます (これらのファイル名の拡張子は .WB です)。

重要: カメラに設定を取り込むには、ルートディレクトリに設定を保存する必要があります。

カメラにカードを挿入して、カードに保存されている設定をカメラメモリに読み込むことができます。ホワイトバランスの設定は最大 10 個まで読み込むことができます。

1. [保存済み WB 設定] メニューから [カード読み込み] を選択し、カードを選択し (カードが 2 枚挿入されている場合は)、設定を反転表示します。
2. [OK] ボタンを押して設定を読み込みます。



設定の削除

カメラ内に保存してあるホワイトバランスで、必要のないものを削除することができます。

1. [保存済み WB 設定] メニューから [設定の削除] を選択し、設定を反転表示します。
2. [OK] ボタンを押して、確認画面を閉じます。

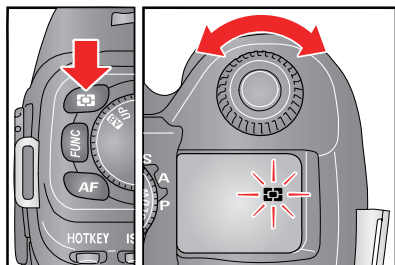


露出

露出測光モード

3種類の露出測光モードを選択できます。被写体の照明や目的の露出効果に最も合ったモードを選択します。

測光モードの選択



- 測光モードボタンを押したままの状態、C-ダイヤルを回し、測光モードを設定します。

	8分割測光 カメラは、8つの領域をそれぞれ記録し、領域輝度を測定します。次にデータを分析し、主要な被写体に対して適正な露出を設定します。 背後の照明が強かったり、照明が複雑であっても、カメラは適正な露出を選び出します。
	中央領域測光 カメラはファインダーの円内でのみ、領域輝度を測定します。このモードは、小さな領域に基づいて露出を決め、照明やその他の領域を考慮しない場合に適しています。
	平均測光 カメラは領域の中央に特に重点を置いて平均輝度を測定します。次に、平均輝度の最高露出を計算します。

露出モード

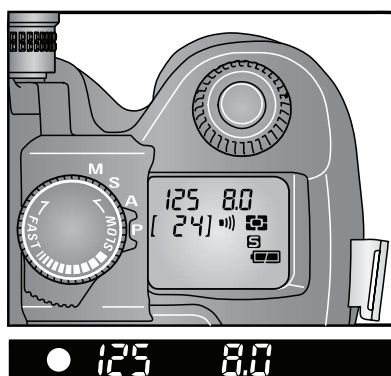
露出モードを選択する際に、シャッター速度とレンズ絞りの両方または片方を自動またはマニュアルで設定するかどうかを選択できます。

このカメラには以下の4つの露出モードがあります。

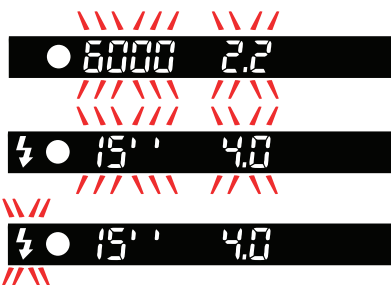
- プログラム自動露出 (**P**)
- 絞り優先 AE (**A**)
- シャッター スピード優先 AE (**S**)
- マニュアル (**M**)

プログラム自動露出モード

プログラム AE モードで、カメラは自動的に適切なシャッタースピードと絞り値を選択します。シャッタースピードと絞り値の組み合わせは、選択した露出測光モード、シーンの明るさ、ISO 設定などのさまざまな要因に基づいて決定されます。



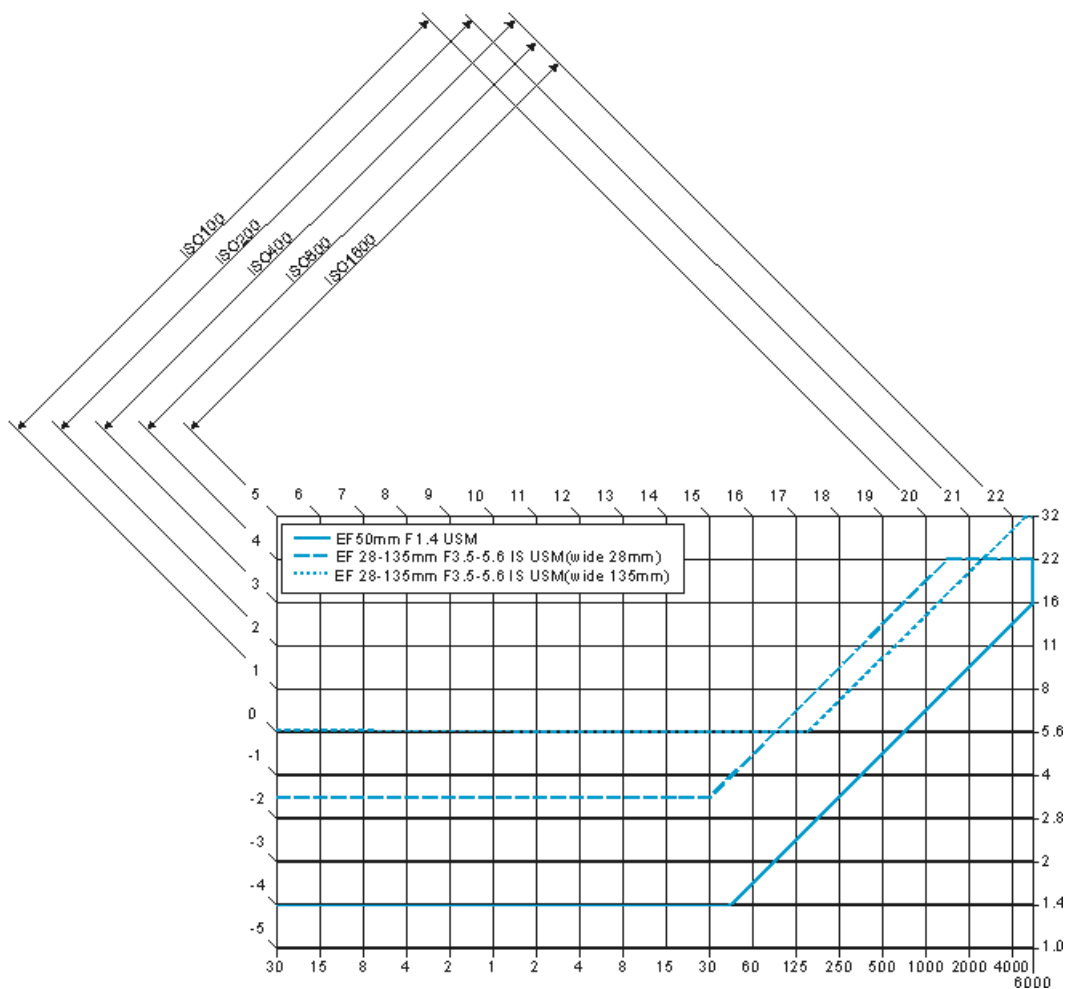
1. D-ダイヤルをドライブ領域の希望する設定へ回します。
2. モードセクターレバーを「P」に設定します。
3. シャッター ボタンを半押しして、ファインダーでピントと露出の表示を確認します。



被写体が明るすぎる、または暗すぎる場合、シャッタースピードと絞り値のインジケータが点滅し、限界値を知らせます。この設定で撮影した場合、画像は露出オーバーまたは露出アンダーとなります。

⚡ が点滅した際には、シャッタースピードが遅くなり、画像がぼやける可能性があります。この場合は、ISO を上げるか、フラッシュを使用してください。

次のグラフはプログラム自動露出モードでの露出制御を示しています。

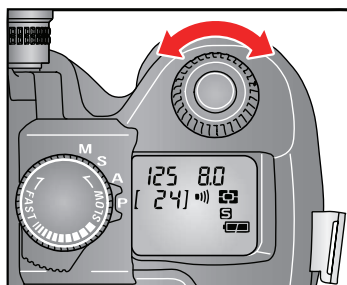


プログラム シフト

カメラが選択したシャッター スピードと絞り値を、それに相当する露出組み合わせに変更することができます。プログラム シフトは、撮影後取り消されます。

- C- ダIALを回して、ファインダーでシャッター スピードと絞り値の表示が変わるのを確認します。

備考： フラッシュを使っている間は、プログラム シフトを利用できません。

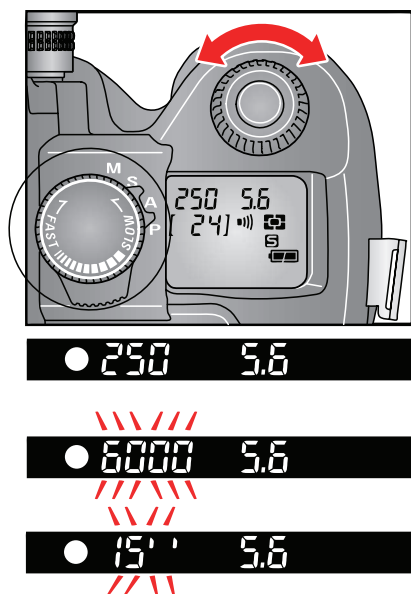


●	500	4.0
●	250	5.6
●	125	8.0
●	60	11
●	30	16

絞り優先自動露出モード

絞り優先 AE モードでは、絞りを変更することで被写界深度を制御します。絞りの設定後、カメラは適切なシャッター スピードを決定します。

より小さい絞り（より大きい f 値）を選択すると、被写界深度が大きくなります。これは、風景写真などに適しています。絞りを大きくするほど被写界深度が小さくなり、背景がぼやける傾向があります。これは、ポートレート写真に適しています。

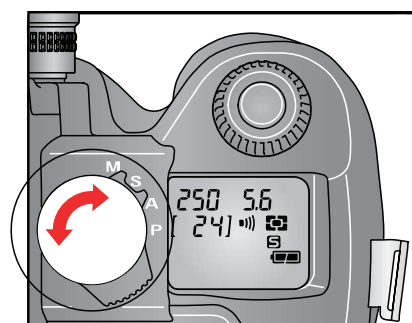


1. D-ダイヤルをドライブ領域の希望する設定へ回します。
2. モードセクターレバーを「A」に設定します。
3. シャッター ボタンを半押しし、フォーカスを確認し、C-ダイヤルを回して希望の絞りを選択します。
4. ファインダーで設定を確認します。

被写体が明るい、または暗すぎるため、適切なシャッター スピードを自動で設定できない場合、シャッター スピードのインジケータが点滅します。被写体が明るすぎる場合、絞り値を小さく（F 値を大きく）してください。被写体が暗すぎる場合、インジケータが点滅しなくなるまで、絞り値を大きく（F 値を小さく）してください。ISO 設定を調整することもできます。調整すると、露出値が変更されます。

シャッター スピード優先 AE モード

シャッター スピード優先 AE モードで希望のシャッター スピードを設定すると、カメラは適正な露出のための適切な絞り値を選択します。高速シャッター スピードを選択すると、動きをストップさせる効果が味わえ、低速シャッター スピードを選択すると、動いている被写体のスピード感を捕らえることができます。

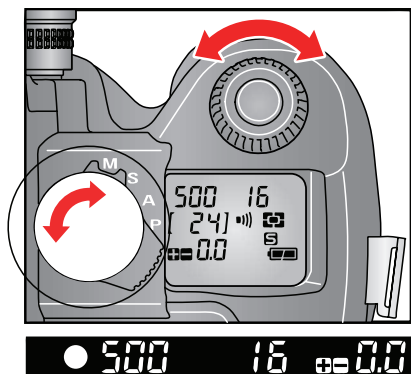


1. D-ダイヤルをドライブ領域の希望する設定へ回します。
2. モードセクター レバーを「S」に設定します。
3. シャッター ボタンを半押しし、焦点を確認し、ダイヤルを回してシャッター スピードを設定します。
4. ファインダーで設定を確認します。

被写体が明るい、または暗すぎるため、適正な絞り値が使用のレンズに合っていない場合、絞り値のインジケータが点滅します。被写体が明るすぎる場合、シャッター スピードをさらに速いスピードに設定してください。被写体が暗すぎる場合、インジケータが点滅しなくなるまで、シャッター スピードを大きくしてください。ISO 設定を調整することもできます。調整すると、露出値が変更されます。

マニュアル露出モード

ファインダーの露出計を使用すると、シーンの照明に合ったシャッタースピードと絞り値の両方を設定する場合に役立ちます。






1. D-ダイヤルをドライブ領域の希望する設定へ回します。
2. モードセレクターレバーを「**M**」に設定します。
3. シャッターボタンを半押しして、焦点を確認します。C-ダイヤルを回して、希望の絞り値を選択し、S-ダイヤルを回して、シャッタースピードを設定します。
4. ファインダーで設定を確認します。

露出の制御

カメラの露出計を使用して、露出値を決定する

モードセクター レバーを回して「**M**」に設定します。シャッター ボタンを半押しすると、シャッター スピードと絞り値はファインダーに表示され、ファインダーの露出計に選択された露出と適正な露出の差が表示されます。たとえば、次のように表示されます。

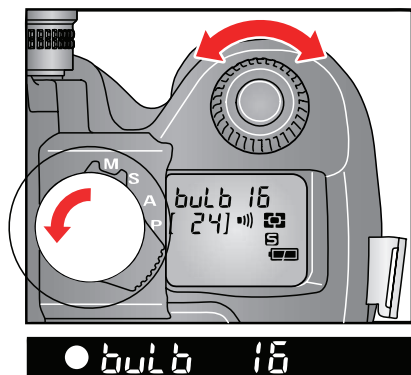
 1.7	1.7 目盛り下 (露出アンダー)
 0.0	適正な露出
 3.0	3.0 目盛り上 (露出オーバー)

露出計には、適正な露出から露出エラーを -3 から +3 までの範囲で 1/3 ずつ表示できます。露出エラーが 3 目盛り以上なら、露出計が点滅します。

バルブ設定

バルブ設定は、夜景や非常に暗い被写体に対して長時間露出が必要な場合に使用します。バルブ設定には撮影の際、三脚を使用してください。

備考：バルブを使用する場合は、[1/8-1秒]または[長時間露光]の設定を選択します。2秒を超える時間が必要な場合は[>1秒]を選択します(5-15 ページを参照)。

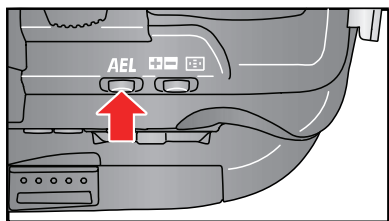


1. D-ダイヤルを(1コマ撮影)にします。
2. モードセレクターレバーを「M」に設定します。
3. 上部表示パネルに「bulb」と表示されるまで、S-ダイヤルを半時計回りに回します。C-ダイヤルを回し、絞り値を設定します。
4. シャッターボタンを押したまま、シャッターを開きます。シャッターボタンを離すまで、シャッターは開いたままになります。

AE ロック

AE ロックは、被写体上または被写体から外れた位置上にカメラの露出値をロックする場合に使用します。この機能は、中央領域測光モードと共に使用することをお勧めします。

1. 露出測光モードを中央領域測光に設定します
(7-7 ページを参照)。
2. 被写体をファインダーの中央に配置し、シャッター ボタンを半押しします。



3. シャッター ボタンを半押しし続け、AEL ボタンを押したままにします。

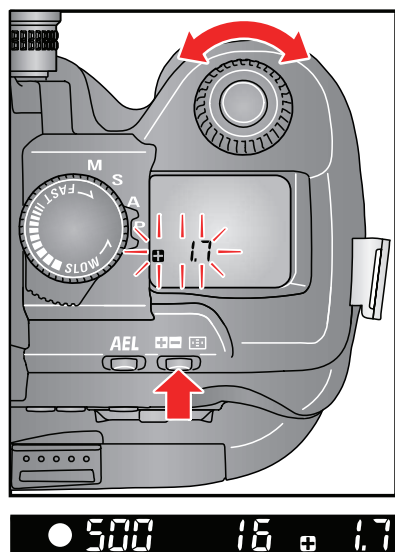
AE ロック中は、ファインダーのシャッター スピードと絞り値の表示がロックされ、「AEL」と表示されます。

4. 写真の構成中はAE ロック ボタンを押し続けます。シャッター ボタンを押し、撮影します。

備考： AE ロックが作動中、被写体のピントがずれた場合、シャッター ボタンからいったん手を離し、もう一度新しいAFを実行してください。



露出補正



意図的に画像を露出オーバーまたは露出アンダーにするには、露出補正を使用します。

- 露出補正ボタンを押したままの状態、C-ダイヤルを回し、希望の補正値を設定します。

初めて露出補正ボタンを押すと、上部表示パネルに **0.0** と表示されます。最終的な設定 **0.0** は露出オーバー補正を示し、**-3.0** は露出アンダー補正を示します。

露出補正は、+3.0 から -3.0 の間で 1/3 ずつ設定できます。

たとえば、絞り優先 AE モードの場合、露出補正を +1.0 に設定すると、シャッタースピードが 1 段遅くなります。シャッタースピード優先 AE モードでは、絞りが 1 段大きく (F 値が小さく) になります。プログラム AE モードでは、シャッタースピードと絞りの両方の値の変更は、合計 +1.0 目盛りになります。

備考： 露出補正機能はマニュアル露出モードと同時に使用できません。

露出補正の取り消し

露出補正は、取り消すまで有効です。

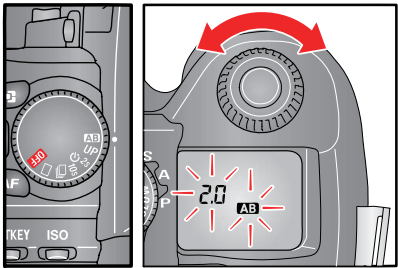
- 露出補正ボタンを押したまま、上部表示パネルに **0.0** が表示されるまで、C-ダイヤルを回します。

備考： カメラのアクセサリシューに認定フラッシュが取り付けられている場合は、露出補正の設定によってフラッシュの出力が変わります。さらに、露出補正の設定には、フラッシュ側のフラッシュ露出補正の設定が合計されます。たとえば、露出補正が +1.0、フラッシュ露出補正が -0.7 に設定されている場合、補正値の合計は +0.3 になります。




オートブラケティング

オートブラケティングは、適切な露出を決定するのが難しい場合に便利です。この機能を利用すると、同じ被写体の連続した画像を、適正な露出、露出不足、露出オーバーです。
オートブラケティングは、4つの露出モードで使用できます。次の表は各モードでのオートブラケティングの効果を示しています。

モード	オートブラケティングによる変更
Pモード	シャッター スピードと絞り値
Aモード	シャッター スピード
Sモード	絞り値
Mモード	シャッター スピード



1. D-ダイヤルを回して、**AB**.
2. C-ダイヤルを回し、ブラケティングの量を設定します。
ブラケティングは最大±3EVで1/3EVずつ変更できます。オートブラケティング機能は、量を0に設定するまで有効です。
3. D-ダイヤルを回して目的のドライブ モードに合わせます。
カメラは3つの画像を適正な露出、露出不足、露出オーバーです。たとえば、ブラケティングを2.0に設定した場合、ファインダーには、次の表のようにインジケータが表示されます。

	P、A、S、 モード	Mモード
第1 フレーム	 0.0	* 測定値
第2 フレーム	 2.0	測定値から -2.0 EV の偏差
第3 フレーム	 2.0	測定値から +2.0 EV の偏差

* 測定値は、カメラに適した露出値と実際の設定値の差異のことです。

備考： オートブラケティングの順番の初期値は、適正な露出、露出不足、露出オーバーです。この順序は、[ブラケティング順序] カスタム設定を使用して変更できます。
[5-3 ページ](#)を参照してください。

備考

- 第1フレームでは、上部表示パネルに常に **AB** マークが表示されます。第2フレームでは、**AB** マークがゆっくり点滅します。第3フレームでは、速く点滅します。
- セルフタイマーモードでは、カメラは自動的に3つの連続した画像を撮影します。
- オートブラケティングの作動中にドライブモードを変更できません。
- フラッシュ撮影にはオートブラケティングモードを使用できません。オートブラケティングはフラッシュの発光レベルには影響を及ぼしません。

オートブラケティングの取り消し

- D-ダイヤルを回して、**AB** .
- C-ダイヤルを回し、ブラケティングを **0.0** に設定します。
- D-ダイヤルを回してドライブ領域に合わせます。

オートブラケティングを露出補正と共に使用する

オートブラケティングと露出補正モードの両方を設定して撮影できます。露出補正とオートブラケティングを組み合わせた値がファインダーに表示されます。たとえば、露出補正を **+1.0**、オートブラケティングを **0.7** に設定した場合、ファインダーには、次の表に示す値が表示されます。

第1 フレーム	■1.0	露出補正 +1.0 で値の変化は 0.0
第2 フレーム	■0.3	露出補正 +1.0 で値の変化は -0.7
第3 フレーム	■1.7	露出補正 +1.0 で値の変化は +0.7

備考： 上の表には、ブラケティングの露出の順序（適切な露出、露出アンダー、露出オーバー）が示されています。この順序は、[ブラケティング順序] カスタム設定を使用して変更できます（[5-3 ページ](#)を参照）。

8 ピント合わせ

自動的にピントを合わせるようにコダック プロフェッショナル DCS Pro SLR/c デジタル カメラ (DCS Pro SLR/c) を設定したり (下記を参照)、オートフォーカスやフォーカス ロックが効果的でない場合には、マニュアルでピントを合わせることができます (8-4 ページを参照)。

オートフォーカス

オートフォーカスでは、適切なピント合わせに必要な作業の多くをカメラが行います。

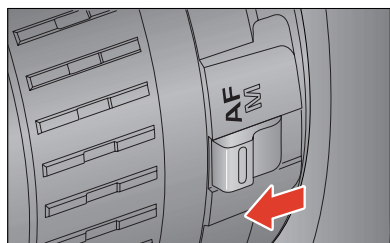
備考： AF レンズにはオートフォーカスのみ使用できます。ミラー レンズや特別レンズには、マニュアルフォーカスモードを使用してください。

オートフォーカスのモード

カメラには次の 2 つのオートフォーカス モードがあります。
フォーカス優先のシングル AF — シャッター ボタンを軽く半押しすると、被写体が静止するまでフォーカス トラッキングが行われます。ピントを合わせてロックすると、ファインダーにフォーカス インジケータが表示されます。ピント表示が点灯すると、シャッターをきることができます。

レリーズ優先のコンティニュアス AF — シャッター ボタンを軽く半押しすると、シャッター ボタンを放すまでフォーカス トラッキングが行われます。

オートフォーカス設定



1. レンズのフォーカス モードを AF に設定します。
2. シャッター ボタンを半押しすると、オートフォーカスが開始されます。オートフォーカスが完了したら、フォーカス スクリーンで被写体の鮮明さを確認します。

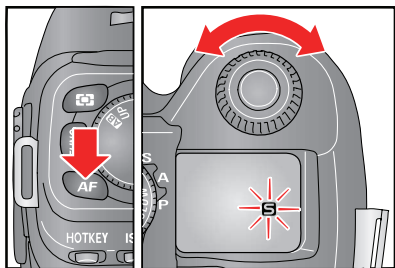
シングル AF モード (8-3 ページを参照) では、AF 電子音が有効な場合 (5-27 ページを参照)、電子音で正しいフォーカスを確認します。

オートフォーカスが上手く機能しない場合

カメラには高精度の AF システムが搭載されていますが、オートフォーカスが上手く機能しない場合があります。

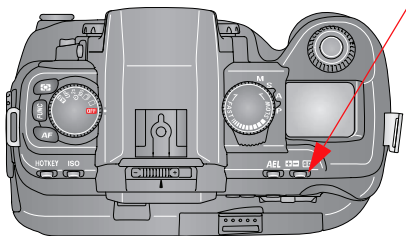
- 背後が空色や白だったり、被写体の色が背景と同じ色の場合のように明暗が低い被写体の場合
 - 被写体が超微光環境にある場合
 - フェンス越しの動物などのように、近くの物体と離れた物体が重なっている場合
 - 高速で動いている被写体
 - ビルの窓のように同じパターンが繰り返されている被写体
- 以上のような状況の場合、次のフォーカス方法のいずれかを使用ください。
- フォーカス ロック (8-4 ページを参照) を使用し、カメラから被写体とほぼ同じ距離にある別の物体にピントを合わせます。
 - レンズを **M** モードに設定し、手動で焦点を合わせます。

オートフォーカス モードの選択



- AF モード ボタンを押して **C**-ダイヤルを回し、上部表示パネルの **S** (シングル AF モード)、または **C** (コンティニュアス AF モード) アイコンのいずれかを選択します。

オートフォーカス ゾーンを選択



アクティブなオートフォーカスゾーンを設定できます。

1. シャッター ボタンを半押しして、カメラを起動します。
2. 露出補正 /AF ゾーン ボタンをすばやく 2 回押します。2 回目に押した後はボタンを押し続けます。
ファインダーのフォーカススクリーンで、現在アクティブな AF ゾーンブラケットが点灯します。
3. **C**-ダイヤルを時計回りに回転して、目的のゾーン (中央、右、左、上、下、または領域) を選択して、露出補正 /AF ゾーン ボタンを離します。
4. シャッター ボタンを半押し、選択したゾーンを有効にして AF ゾーンを選択を終了します。

シングル AF モードでの撮影

シングル AF モードは的からずれたメイン被写体を配置し直すときに便利です。

1. シャッター ボタンを半押したままの状態にし、オートフォーカスを作動させます。
2. 被写体のピントが合うまでシャッター ボタンを半押しした状態を保ちます (フォーカス優先)。

被写体のピントが合った場合、ファインダーにフォーカスインジケータ表示され、ピントがロックされます。

カメラが被写体のピントを合わせられない場合、フォーカスインジケータが点滅します。シャッター ボタンから手を離し、もう一度半押ししてください。

3. シャッター ボタンをしっかりと押し、撮影します。

備考： カメラと被写体の距離を変更した場合、もう一度ピントを合わせる必要があります。

コンティニュアス AF モードでの撮影

コンティニュアス AF モードは、動く被写体を撮影する場合に便利で、被写体にピントが合う前でも撮影できます。

1. シャッター ボタンを半押しし、オートフォーカスを作動させます。

被写体が動いている場合、カメラは常にピントを合わせます。

ファインダーにフォーカスインジケータは表示されず、フォーカスロックは機能しません。

2. 正確に被写体のピントが合っていない場合でも、シャッター ボタンを押すと撮影できます。

備考： 動いている被写体の速度、方角、レンズ、シャッター速度などの状況によっては、写真のピントがずれる場合があります。

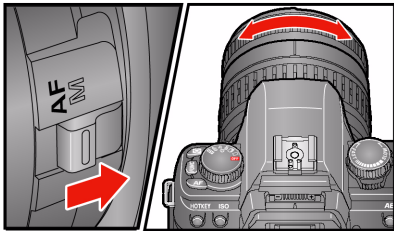
フォーカスのロック

フォーカス探知範囲外の被写体の画像を撮影するには、フォーカスロックを使用します。この機能は **S** (シングル AF モード) でのみ利用できます。

1. ファインダーの中央に被写体を置き、シャッター ボタンを半押しします。
2. 写真を配置している間はシャッター ボタンを半押しし続けます。シャッター ボタンを完全に押し、撮影します。

マニュアル フォーカス

オートフォーカス、またはフォーカスロックが有効でない場合、手動でピントを合わせることができます。



1. レンズのフォーカス モードスイッチを「**M**」に設定します。上部表示パネルから **AF** モードアイコンが消えます。
2. ファインダーからのぞきながら、被写体をはっきりと鮮明に見えるまでレンズのピントリングを回します。

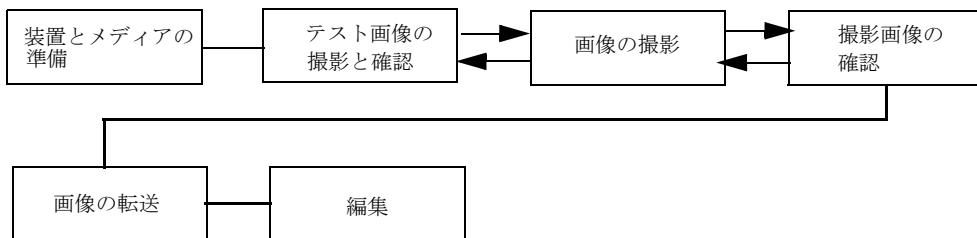
備考： 最大絞りが **F5.6** またはそれ以上の高速シャッターのレンズを使う場合、ピントが合っていればファインダーのフォーカス インジケータが表示されます。

9 撮影ワークフロー

この章では、コダック プロフェッショナル DCS Pro SLR/c (DCS Pro SLR/c) デジタルカメラを使った 2 種類のワークフローを紹介します。これらのワークフローは、スタジオでの撮影セッションや野外での撮影活動の種類によって異なる可能性があります。次の 2 つのワークフローについて説明します。

- カメラがコンピュータに接続されていない場合の撮影
- カメラがコンピュータに接続されている場合の撮影

カメラがコンピュータに接続されていない場合の撮影ワークフロー



装置と媒体の準備

- 付属のソフトウェアをインストールします。
- モニタとプリンタを定期的に、たとえば1週間ごとにキャリブレートします。
- 1つまたは複数のバッテリーを充電します。カメラにバッテリーを入れます。
- 必要な場合は、時刻と日付を設定します。
- 露出モードを設定します。
- 露出測光モードを選択します。
- 露出モードを設定します。
- これまでに複数の (24 または 36) セッションでメモリカードを使用している場合は、使用するカメラでカードをフォーマットして、カードの全容量を使用可能にして、「画像のリカバリー」機能を有効化した方が良い場合があります。
- 使用するそれぞれのメモリカードを挿入し、背面ステータス LCD をチェックして各カードに十分なスペースがあるかどうか確認します。必要に応じて画像を消去します。
- コンピュータのフォルダと画像フォーマットを選択します。
- 自然光に基づいて ISO を設定します。
- ホワイトバランスを設定します。

カメラでクリック WB を設定する場合、マクベスチャートまたはグレーカードを撮影し、その画像のニュートラル (中間) グレー部分をスポイトツールでクリックします。

コダック プロフェッショナル DCS Photo Desk ソフトウェアでホワイトバランスを設定する場合、マクベスチャートまたはグレーカードを撮影します。撮影終了後、その画像をソフトウェアで開いて、ホワイトバランスをとり、他の画像にも適用させます。

- 必要な場合は、ジョブトラッカーを設定します。

テスト画像の撮影および評価

本番の撮影開始前、あるいは撮影中に、撮影した画像を分析し、照明や絞り、シャッター速度、さらにはデジタル部の設定が適切かどうか確認する必要があります。

画像属性	DCS Pro SLR/c のツール	推奨アクション
露出	画像表示パネルの画像の外見	画像を見て、ツールが提供する情報を解釈します。カメラ設定 (絞り、シャッター速度、ISO) および照明を調節します。必要な場合は、撮影をやり直します。
	ヒストグラム画像モードは、全体的な画像の露出情報を提供します。	
	照度計は、画像内の特定領域の露出情報を提供します。照度計は、画像表示パネルの十字線より下における、ピクセルの輝度チャネルの彩度を示します。	
フォーカス	ズーム画像モード	画像をピクセル等倍 (1:1) で表示し、ハイコントラスト部分 (目など) のシャープネスとエッジ解像力を分析します。ピントの調節、および、被写界深度のチェックと調節を行います。
色	クリック WB は、連続して撮影する場合の色ずれを解消します。	照明の状態が変わるたびに、必要に応じて繰り返し実行します。
シーンの内容と構成	画像表示パネルの画像の外見	目をつぶっているなど、望ましくないディテールがないか探します。必要な場合は、撮影をやり直します。
	ズーム画像モード	

撮影

必要に応じて、次のいずれかの設定を行います。

- 縦位置レリーズ
- インターバル撮影
- ジョブトラッカー
- セルフタイマー

シャッターボタン (または縦位置シャッターボタン) を押して、画像を撮影します。

時々の確認

最高の撮影画像を得るために、撮影途中に光の条件を変えながらテスト撮影を行い、画像を確認します。また、頻繁に画像表示パネルをチェックして画像が正しく撮影・保存されているか確認してください。

撮影現場にいる間に、顧客に画像を検討してもらった方が良いでしょう。次のいずれかの手段で画像を表示します。

- 複数の画像モードの1つを使用する画像表示パネル
- 接続されているビデオ モニタ (ビデオ モニタ使用時には画像表示パネルは使用不可)
- カメラからメモリ カードを取り外し、ノート型コンピュータに挿入する。画像は、コダック プロフェッショナル **DCS Photo Desk** ソフトウェアを使用して表示します。

画像の転送

撮影セッションが完了したら、コンピュータに接続されたカードリーダーにメモリ カードを挿入します。**DCS Photo Desk** ソフトウェアを使用して、画像を開き、調整します。

- 画像をコンピュータのハードディスクに保存するため、フォルダを作成します。画像を見つけやすいように、意味のある名前を使用してください。
- **CD** または **Zip** ディスクに、オリジナル画像のバックアップを取ります。

画像の編集

画像を **JPEG** としてカメラに保存すると、どの画像編集アプリケーションでも画像を開いて編集することができます。

カメラには、2つの編集アプリケーションが付属しています。これらのアプリケーションを使用すると、**DCS** 固有の画像編集機能を拡張できます。各アプリケーションに関連付けられているヘルプを参照してください。

コダック プロフェッショナル DCS Photo Desk — Raw (.dcr) や JPEG (.jpg) ファイルを開き、DCS 固有の画像編集を実行して、画像を各種の形式で保存することができます。

コダック プロフェッショナル ERI File Format Module — ERI JPEG ファイルを開くことができます。拡張ダイナミック レンジ/カラー全域の画像を再構成し、プレビューを表示します。DCS Photo Desk と同様の調整を適用できます。

**コダック プロフェッショナル DCS
Photo Desk**

プラットフォーム : WINDOWS 版 /MACINTOSH 版

DCS Photo Desk で Raw データに対して次の処理を適用できます。

- クロップおよび回転
- カラー バランス
- シャープ
- ノイズ除去
- カメラ設定のチェック
- IPTC データの作成
- 印刷
- カラー モアレの除去
- 露出補正の実行
- カラー管理

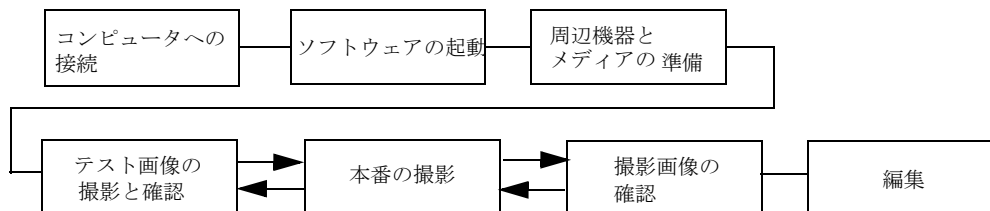
**コダック プロフェッショナル ERI
File Format Module**

プラットフォーム : WINDOWS 版 /MACINTOSH 版

ERI File Format Module では展開した ERI JPEG データに対して次の処理が適用できます。

- 回転
- カラー バランス
- 露出補正の実行
- カラー管理

カメラがコンピュータに接続されている場合の撮影ワークフロー



コンピュータおよび電源への接続

DCS Pro SLR/c をコンピュータおよび電源に接続します。

付属の AC アダプタを電源として使用します (バッテリーも使用できますが、AC アダプタの供給する電源は制限されません)。

撮影ソフトウェアの起動

カメラには、コダック プロフェッショナル DCS Camera Manager が付属しています。カメラをコンピュータに接続したら、このソフトウェアを起動して画像撮影に使用します。ソフトウェアに関連付けられているヘルプを参照してください。

装置と媒体の準備

- 付属のソフトウェアをインストールします。
- モニタとプリンタを定期的に、たとえば 1 週間ごとにキャリブレーションします。
- 撮影時に画像を保持するためのフォルダをコンピュータ上に設定します。撮影した場所、時間がわかるようにフォルダの名前を付けます。

テスト画像の撮影および評価

画像を表示および評価して、次の手段で必要な調整を行います。

- 付属ソフトウェア
- カメラ ツール

撮影

画像の保存形式を、[Raw]、[JPEG]、または [Raw+JPEG] のの中から指定します (画像ファイルを編集したい場合は [Raw] または [Raw+JPEG] を選択することをお勧めします。Raw ファイルは「デジタルのネガ」のようなものだと考えてください)。

画像撮影の手順は、DCS Camera Manager のヘルプを参照してください。

時々の確認

DCS Photo Desk の実行中は、撮影した画像がコンピュータのモニタに表示されます。

画像の編集

[9-4 ページ](#)を参照してください。

10 フラッシュ撮影

ここでは、コダック プロフェッショナル DCS Pro SLR/c デジタルカメラ (DCS Pro SLR/c) でフラッシュ撮影を行うときの一般的な情報について説明します。フラッシュの動作は、ここで説明する内容とは異なる場合があります。詳細については、フラッシュの取扱説明書を参照してください。

互換性のあるフラッシュユニット

DCS Pro SLR/c は、次のフラッシュのモデルと互換性があります。

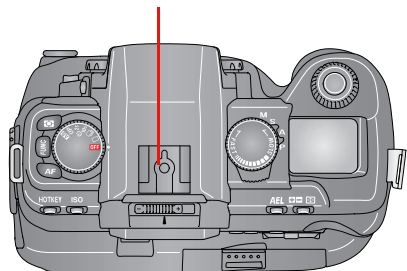
SIGMA Electronic Flash	EF-500 DG SUPER
CANON EOS スピード ライト	220EX
	420EX
	550EX
CANON	マクロリングライ ト MR-14EX
	マクロツインライ ト MT-24EX
	ST-E2 E-TTL トランス ミッター

注意：

トリガ回路電圧が高すぎるフラッシュはカメラを損傷する恐れがあります。シンクロ電圧が 250V 以上のものは使用できません。

アクセサリ シュー フラッシュの取り付け

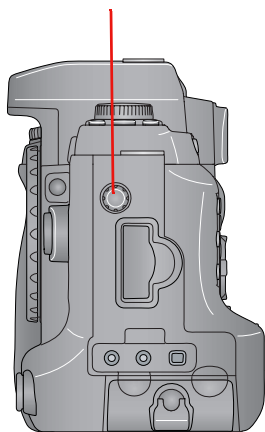
アクセサリ シュー



- 別売りの **CANON EX** シリーズ スピードライトや **SIGMA EF-500 DG Super** フラッシュをアクセサリ シューに取り付けます。取り付けについては、ストロボの説明書を参照してください。

スタジオ フラッシュの接続

PC ストロボ端子



- スタジオストロボシステムをケーブルで **PC ストロボ端子** に接続します。確実に接続するため、端末には溝が付いています。

備考： **PC ストロボ端子** を使用する場合、上部表示パネルに「**SYc**」と表示されるまで **S** ダイアルを回すと、最速の **1/180** 秒のフラッシュ同期速度を利用できます。この設定を利用するには、マニュアルまたはシャッター スピード優先露出モードでなければなりません。

備考： フラッシュシンクロコードの中央のプラグは、正の端子である必要があります。

使用できる機能

DCS Pro SLR/c と互換性のあるフラッシュユニットを使用しているときに利用できる機能を以下に示します。

- E-TTL 自動フラッシュ
- ハイスピード同期 (10-4 ページを参照)
- フラッシュ露出ロック (10-4 ページを参照)
- フラッシュ露出補正 (10-4 ページを参照)
- フラッシュ露出ブラケティング (10-4 ページを参照)
- 複数フラッシュユニットの E-TTL ワイヤレス自動フラッシュ (10-5 ページを参照)

備考： 最高のフラッシュ シンクロ速度は、シャッター スピードが 1/180 秒の場合です。アクセサリ シューに取り付けたフラッシュを使用してフラッシュ撮影をする際、上部表示パネルに 200 という値が表示されている場合、実際のシャッター スピードは 1/180 秒です。

E-TTL 自動フラッシュ

E-TTL (Evaluative Through the Lens) 自動フラッシュを使用すると、正しいフラッシュ露出が DCS Pro SLR/c によって決定されます。E-TTL 自動フラッシュはどの AE モードでも有効です。ただし、低速同期が設定されている場合は、三脚を使用してカメラのブレを避けることをお勧めします。すべてのフラッシュユニットの標準シャッター スピード範囲は、30 秒～ 1/180 秒です。

1. 以下のいずれかを選択します。

プログラム AE モード (7-8 ページを参照)
絞り優先 AE モード (7-11 ページを参照)
シャッター スピード優先 AE モード (7-12 ページを参照)
マニュアルモード (7-13 ページを参照)

2. フラッシュの電源を入れ、フラッシュが充電されていて、いつでもライトを点灯できることを確認します。フラッシュの説明書の指示に従って、E-TTL モードにします。

ファインダーのフラッシュ インジケーターは、点滅ではなく点灯している必要があります。

3. プログラム AE モードの場合は、次の操作を行います。

- 被写体にピントを合わせます。

絞り優先 AE、シャッター スピード優先 AE、またはマニュアルモードの場合は、次の操作を行います。

- シャッター ボタンを軽く押し、設定を確認します。

4. シャッター ボタンをしっかりと押し、撮影します。

ハイスピード同期モード

ハイスピード同期モード (**FP** フラッシュ) は、**1/180** 秒より高速なシャッター スピードが必要な場合に使用します。たとえば、太陽光でこのモードを使用すると、より大きい絞りを使用して背景をぼかしたり、被写体の目にキャッチライトを入れたり、被写体の顔の影をなくしたりすることができます。

1. フラッシュをハイスピード同期モードに設定します。
2. 露出モードを **S** または **M** に設定して、目的のシャッター スピードを設定します。

フラッシュ露出ロック

フラッシュ露出ロック (**FE Lock**) は、シーンの中の特定領域の露出を制御するために使用します。

1. フラッシュで標準またはハイスピード同期モードを選択します。
2. フラッシュの電源を入れ、フラッシュが充電されていて、いつでもライトを点灯できることを確認します。
3. 被写体にピントを合わせます。
4. フラッシュ露出をロックするシーンの領域が、ファインダーの中央測光領域の円内に入るように、カメラを合わせます。
5. カメラの **AEL** ボタンを押します。
6. シーンを構成し、撮影します。

フラッシュ露出補正

フラッシュ露出補正を使用して、フラッシュの発光を調整できます。一般的に、補正設定は、ゼロに設定し直すまで有効な状態のままです。増加または総量は、フラッシュ側の機能です。フラッシュの取扱説明書を参照してください。互換性のあるフラッシュが取り付けられている場合は、カメラの露出補正機能を使用してフラッシュの発光を調整することもできます。

フラッシュ露出ブラケットिंग

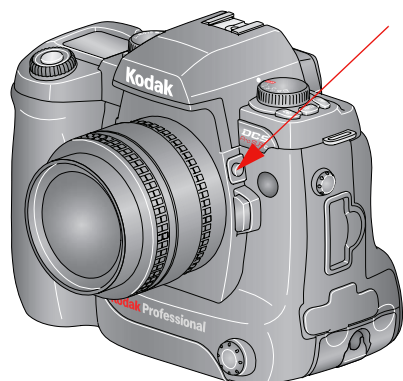
フラッシュ露出ブラケットिंगを使用すると、同じ被写体のブラケットिंग画像を **3** 種類の異なるフラッシュ露出レベルで撮影できます。ブラケットिंग画像の順序、ブラケットिंगの合計範囲、およびブラケットिंगの増加量は、フラッシュで制御されます。

フラッシュに付属の説明書を参照してください。

フラッシュ結果のプレビュー

カメラの被写界深度プレビュー ボタンを使用して、フラッシュ設定の効果をプレビューできます。

1. カメラおよびフラッシュをフラッシュ撮影用に設定します。
2. 被写界深度プレビュー ボタンを押し、ファインダーをのぞいて、シーンのフラッシュ ライトの効果を決めます。



1 つ以上のフラッシュ ユニットのあるワイヤレス フラッシュ

CANON 550EX スピードライトなどの一部のフラッシュ ユニットでは、複数のワイヤレス フラッシュ ユニットを設定できます。詳細については、フラッシュの説明書を参照してください。

11 カメラ上の画像の操作

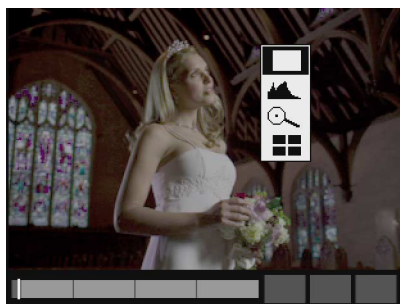
画像の表示

画像表示パネルに画像を表示するには、以下の操作を行います。

1. 画像表示モードを選択します。
2. 表示フォルダを選択します (11-6 ページを参照)。
3. 画像をブラウズします (11-7 ページを参照)。

画像表示モードの選択

- 1 コマ画像
- ヒストグラム
- ズーム
- 複数画像



1. 画像表示パネルがオフになっている場合は、OK ボタンを押して画像表示パネルを画像表示モードでオンにします。

画像表示パネルがオンになっている場合は、メニュー ボタンを押して画像表示モードに切り替えます。

最後にアクセスした画像表示モードが表示されます。

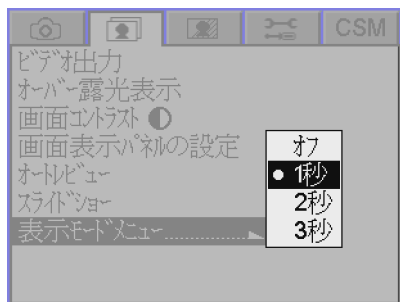
2. 5 方向コントロール スイッチの上下を押すと、1 コマ画像、ヒストグラム、ズーム、複数画像の順序で画像モードを切り替えることができます。

画像表示モードメニューが一瞬表示されます。このメニューには 4 つの画像表示モードが含まれ、選択したモードは反転表示されます。

カメラ上の画像の操作

画像表示モード メニューの表示時間の変更

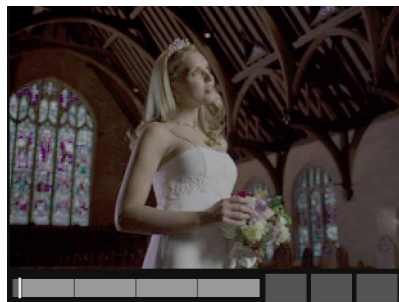
画像表示モードメニューを選択すると、画像表示モードメニューが1秒間表示されます。表示時間を変更したり、画像表示モードをオフにしたりできます。



1. [レビュー]メニューから[表示モードメニュー]を選択します。画像表示モードメニューの表示時間を、[1秒]、[2秒]、または[3秒]から選択し、メニューを表示させないときは[オフ]を選択します。

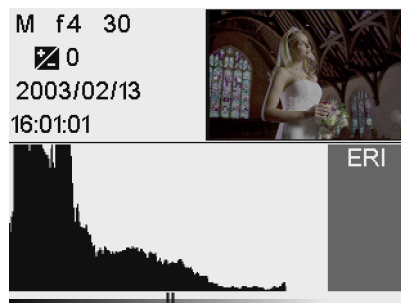
2. OKボタンを押します。

1 コマ画像モード



選択した画像が表示されます。

ヒストグラム モード



ヒストグラムモードが有効になっているときは、選択画面とそのヒストグラム、さらに次の情報が表示されます。

- 露出モード
- 絞り
- シャッター スピード
- 露出補正 (適用時)
- 撮影日時
- タグアイコン (画像にタグが付けられている場合)
- サウンドアイコン (サウンド ファイルが録音されている場合)

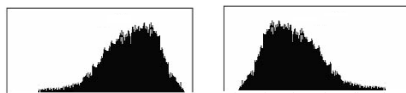
備考： 通常の処理では、選択したデータがヒストグラムの「ERI」ゾーンに表示されます。**ERI** データは、コダック プロフェッショナル **DCS Photodesk** ソフトウェアの露出 / トーンを使用して復元します。

ヒストグラムの解釈



露出オーバー

露出アンダー



ハイ キー

ロー キー

- 左側の図は露出オーバーを、右側の図は露出アンダーを示しています。
- 山が右に寄っているヒストグラムは、暗い色調の少ないハイ キーの画像です。山が左に寄っているヒストグラムは、明るい色調の少ないロー キーの画像です。

ズーム表示モード



ズーム表示モードでは、選択した画像を拡大して表示することができます。ズーム対象領域には、ズームインしたときに表示される画像領域が含まれます。

ズーム対象領域の有効化または無効化

- OK ボタンを押すと、ズーム対象領域が有効になります。
ズーム対象領域が有効になっているときは、パンおよびズームが可能です。
- 取消ボタンを押すと、ズーム対象領域が無効になります。
ズーム対象領域が無効になっているときは、別の画像に移動することができます。

ズーム

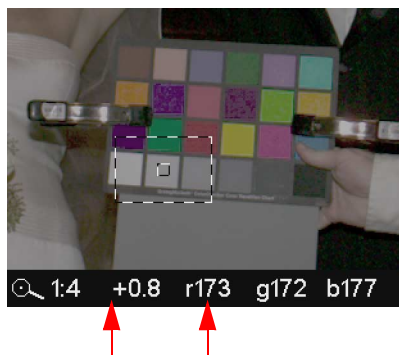
- ズーム対象領域を有効にして、OK ボタンを押します。
ズーム レベルには、1:16 (初期状態、画像の 16 ピクセルを表示パネルの 1 ピクセルで表示)、1:4 (画像の 4 ピクセルを表示パネルの 1 ピクセルで表示)、1:1 (画像の 1 ピクセルを表示パネルの 1 ピクセルで表示) の 3 種類があり、OK ボタンで切り替わります。

備考：ピクセル等倍の拡大率では、ズーム対象領域は表示されず、十字ポインタのみ表示されます。この状態でも、表示部分の移動は可能です。この状態でも、パンすることは可能です。

パン

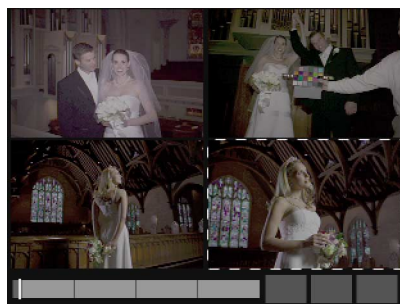
- ズーム対象領域を有効にして、5 方向コントロールスイッチの左または右を押します。
サムネイル画像の端まで到達したら、画像は反対方向に移動します。

照度計



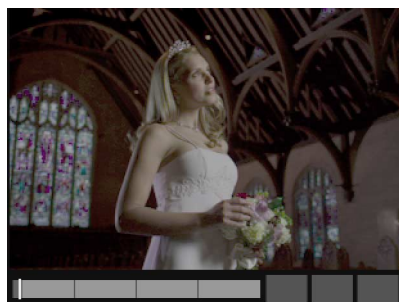
ズーム表示モードでズーム対象領域が有効になっているときに表示される中央の四角は、十字ポインタの中心より下のピクセルの輝度チャネルの彩度を示します。輝度は、EV 値 (-3 ~ 3.25) と反射率 (%) で表されます。

複数画像モード



4つの画像のサムネイルと、画面下部にステータスバーが表示されます。選択されている画像が反転表示されます。

ステータスバー



1コマ画像モードおよび複数画像モードのときは、画像表示パネル下部にステータスバーが表示されます。タグが付いた画像ではタグのアイコン、音声ファイルではマイクロフォンのアイコンが表示されます。

表示フォルダの選択

Nav+ ボタンは、フォルダ間およびフォルダ内の画像間をすばやく移動するためのショートカットです。



備考： カメラにカードが 2 枚入っている場合、Nav+ ボタンを使用して現在有効になっているカード内のフォルダを切り替えることができます。



1. Nav+ ボタンを押します。

画像表示パネルがオフになっている場合は、オンになります。最後にアクセスした画像表示モードが、Nav+ オーバーレイで表示されます。Nav+ オーバーレイには、選択されているフォルダが反転表示され、ロケーションバーには現在選択されている画像の位置が示されます。

2. Nav+ ボタンを押したまま 5 方向コントロールスイッチの上または下を押すと、メモリカードの他のフォルダが反転表示されます。

画像のブラウズ

- 5 方向コントロール スイッチの左右を押して、選択したフォルダ内の画像をブラウズします。

備考：ズーム表示モードで、ズーム対象領域が有効になっている場合は、最初に取消ボタンを押してズーム対象領域を無効にします。

5 方向コントロール スイッチの右を押すと、フォルダ内のより大きい番号の画像に「進み」、左を押すと「戻り」ます。フォルダの最後の画像を表示した後でさらに次へと「進む」と、最初の画像が表示されます。フォルダの最初の画像を表示した後でさらに次へと「戻る」と、最後の画像が表示されます（表示が循環していることを示すために、最初の画像と最後の画像との間には空白画面が表示されます）。

Nav+ ボタンを使用した画像のブラウズ

- Nav+ ボタンを押したまま 5 方向コントロール スイッチの左右を押すと、10 コマ前または後の画像を表示することができます。

ロケーション バー



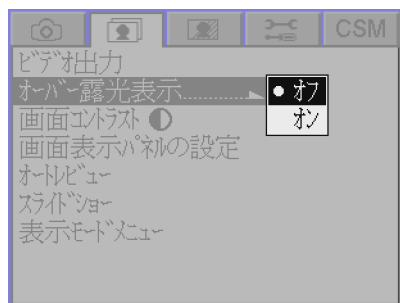
ズーム対象領域が無効になっているときは、1 コマ画像モード、複数画像モード、またはズーム表示モードで、画像表示パネルの下部にロケーションバーが表示されます。ロケーションバーは、現在の画像の位置を、選択したフォルダ内の他の画像との関係で表します。

画像の選択

複数画像モードで画像を次々に表示しているときは、一度に 1 つの画像だけが反転表示されます。希望する画像が反転表示されたら、5 方向コントロール スイッチを放します。

他の画像表示モードに変更すると、5 方向コントロール スイッチを放したときに表示されていた画像が選択されます。

オーバー露光表示

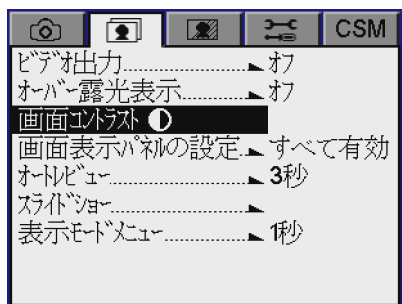


1 コマ画像表示モードまたは複数画像表示モードでは、画像内の露出オーバー部分を点滅表示することができます。

- 1 コマ画像モードまたは複数画像モードを選択します。
2. [表示] メニューから [オーバー露光表示] を選択し、[オフ] または [オン] を反転表示します。
3. OK ボタンを押します。

オーバー露光表示をオンにした場合は、オーバー露光領域が点滅表示されます。

画面コントラストおよび輝度の変更



コントラストを変更して、画像表示パネルに表示される画像を明るくしたり暗くしたりすることができます。

備考： コントラストの変更は画像表示パネルの画像表示にのみ影響し、保存された画像には影響しません。

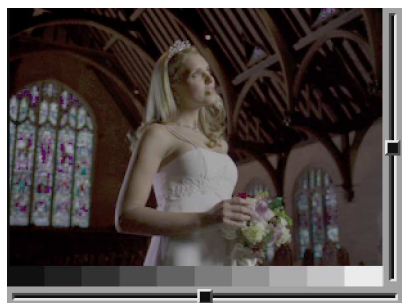
- 1 コマ画像モードを選択します。
2. [表示] メニューから [画面コントラスト] を選択します。

3. OK ボタンを押します。

2 つのスライダー バーとグレー スケール バーが表示されます。

4. 5 方向コントロール スイッチの上または下を押して、画像を明るくしたり、暗くしたりします。
5. 5 方向コントロール スイッチの右または左を押して、コントラストを調整します。

グレー スケール バーを目安にしてコントラストを調整します。



オート レビュー

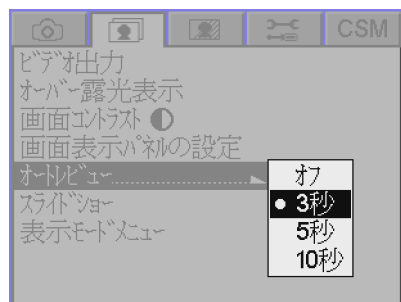
オートレビュー機能を有効にすると、画像を撮影したときに画像表示パネルがオンになり、指定した時間の長さだけ画像が表示されます。指定した時間を超えると、画像表示パネルはオフになります。

画像が表示されている間にシャッター ボタンを軽く半押しすると、画像表示パネルがオフになります。

画像が表示されている間にいずれかのデジタル ボタンを操作すると、画像表示パネルはオンのまま、押したデジタル ボタンに応じて表示が変更されます。

備考： 画像を撮影するときに画像表示パネルがオンになっている場合、オートレビュー機能は無効です。

1. [表示] メニューから [オートレビュー] を選択して、[オフ]、[3秒]、[5秒]、[10秒] を反転表示します。
2. OK ボタンを押します。



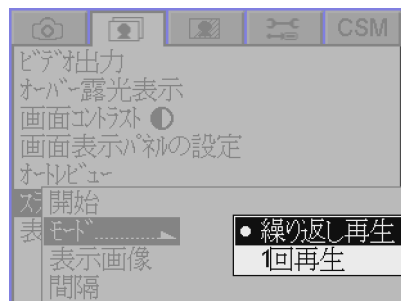
スライド ショー

画像表示パネルおよびビデオ モニタ、または画像表示パネルだけにカメラ画像のスライドショーを表示することができます。

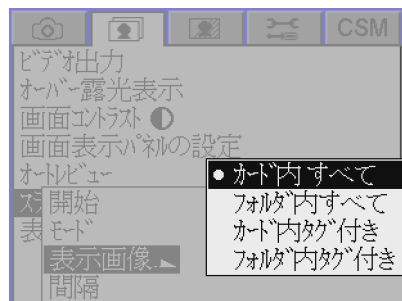
1. ビデオ モニタにスライドショーを表示したい場合は、外部 モニタを接続して有効にしてください (12-1 ページを参照)。
2. モードを選択するには、[表示] メニューから [スライドショー] を選択し、[オフ]、[繰り返し再生]、または [1 回再生] を反転表示します。

繰り返し再生モードにすると、指定したすべての画像が表示され、取消ボタンを押すまで画像が同じ順序で繰り返し表示されます。

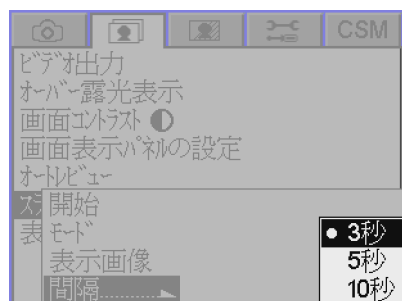
1 回再生モードでは、スライドショーは、選択したすべての画像が 1 回表示されるか、または取消ボタンを押すまで続きます。



カメラ上の画像の操作

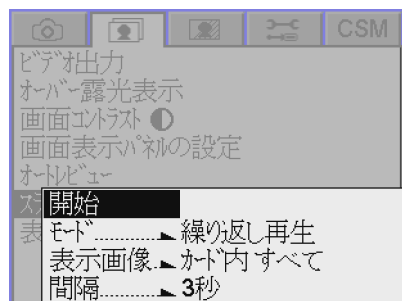


3. スライドショーで表示する画像を選択するには、[表示] メニューから [スライドショー] を選択し、[カード内すべて]、[フォルダ内すべて]、[カード内タグ付き] または [フォルダ内タグ付き] を反転表示します。



4. 各画像の表示時間を選択するには、[表示] メニューから [スライドショー] を選択して、[3 秒]、[5 秒]、[10 秒] のいずれかを反転表示します。

スライドショーの開始 / 停止



- ショーを開始するには、[表示] メニューから [スライドショー] を選択して、[開始] を反転表示します。
- ショーを停止するには、取消ボタンを押します。

画像の削除

1 コマの画像、フォルダまたはカード内のすべての画像、またはタグの付いていない画像というように、対象となる画像を選択して削除できます。関連する音声ファイルも削除されます。

重要： 1 枚または 2 枚のカードに JPEG 画像、Raw 画像、または Raw+JPEG 画像を撮影する場合、画像のコピーは 4 枚まで保存できます。画像を削除すると、コピーはすべて削除されます。画像のバックアップコピーを保存するには、画像を削除する前に 2 枚目のカードを取り出してください。

1. 画像表示パネルがオフになっている場合は、OK ボタンを押して画像表示パネルを画像表示モードでオンにします。

画像表示パネルがメニュー モードになっている場合は、メニュー ボタンを 1 回または複数回押して、画像表示モードに切り替えます。

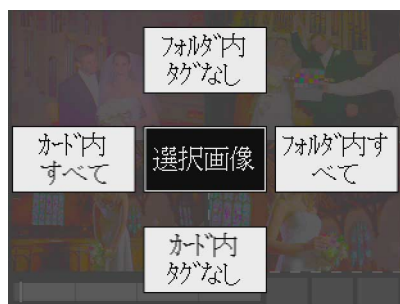
2. フォルダ内の画像をすべて削除する場合は、表示フォルダを選択します。単一の画像を削除する場合は、その画像を選択します。
3. 削除ボタンを押します。

4. 5 方向コントロール スイッチの上下左右のいずれかを押して、希望するオプションを反転表示します。

5. 5 方向コントロール スイッチを放すと、単一の画像が削除されます。複数の画像を削除する場合には、確認画面が表示されます。

6. OK ボタンを押して変更を受け入れ、確認画面を閉じます。

備考： 削除した画像は、その画像が上書きされない限り復元することができます。



画像にタグを付ける

1つまたは複数の画像にタグを付けて、さまざまな操作で 사용할 ことができます。

- カメラ上で、タグ付き画像を削除しないように指定することができます。
- コダック プロフェッショナル **DCS Photo Desk** ソフトウェアで、さまざまな操作の選択にタグを使用できます。
- **DPOF (Digital Print Order File)** 規格に対応しているプリンタは、印刷用のタグ付き画像を認識して印刷します。カメラは **DPOF** 規格に従って、メモリ カードのファイルを印刷します。**DPOF** 機能は **JPEG** 画像のみに適用されます。このオプションは **Raw** 画像に対しては無効です。

重要： 1枚または2枚のカードに **JPEG** 画像、**Raw** 画像、または **Raw+JPEG** 画像を撮影する場合、画像のコピーは4枚まで保存できます。画像にタグを付けると、すべてのコピーにタグが付けられます。

1. 画像表示パネルがオフになっている場合は、**OK** ボタンを押して画像表示パネルを画像表示モードでオンにします。
画面表示パネルがオンでメニューが表示されている場合は、メニュー ボタンを1回以上押して画像モードを変更します。
2. 画像を選択します。
3. タグ/録音ボタンを押して(1秒以内) 放すと、タグ オプションが表示されます。

画像にこれらのオプション用のタグが付けられていない場合は、そのオプションの隣にチェック マーク (✓) が表示されます。画像にすでにこれらのオプション用のタグが付けられている場合は、チェック マークを取り消す形で斜線が表示されます。

備考： タグ/録音ボタンを1秒以上押し続けると、録音オプションが表示されます。

4. 5 方向コントロール スイッチの上下左右のいずれかを押して、希望するオプションを反転表示します。
5. 5 方向コントロール スイッチを放すと、画像にタグが付けられるか、または画像が全画面表示されます。

タグがついた画像のステータス バーにはチェック マーク (✓) が表示されます。チェック マークは、ヒストグラム表示モードのときも表示されます。



音声ファイルの記録

画像を撮影してすぐに、または後で画像を表示する際に、音声ファイルを記録して選択画像に付けることができます。カメラの制御機構を使用して画像を削除したり、**DCS Photo Desk** ソフトウェアを使用して画像をコピーまたは削除する場合には、音声ファイルも同様にコピーまたは削除する必要があります。**DCS Photo Desk** ソフトウェアを使用せずに画像をコピーまたは削除する場合も、音声 (.WAV) ファイルをコピーまたは削除する必要があります。

1. 画像表示パネルがオフになっている場合は、**OK** ボタンを押して画像表示パネルを画像表示モードでオンにします。

画像表示パネルがメニューモードになっている場合は、メニュー ボタンを 1 回または複数回押して、画像表示モードに切り替えます。

2. 画像を選択します。

3. タグ / 録音ボタンを少しの間押し続けます (1 秒以上)。

備考： タグ / 録音ボタンを 1 秒以内に放すと、タグ オプションが表示されます。

デジタル表示パネルにマイクログフォンのアイコンが表示されます。



4. マイクログフォンに向かってメッセージを録音します。

5. タグ / 録音ボタンを放します。

デジタル表示パネルからマイクログフォンのアイコンが消えます。

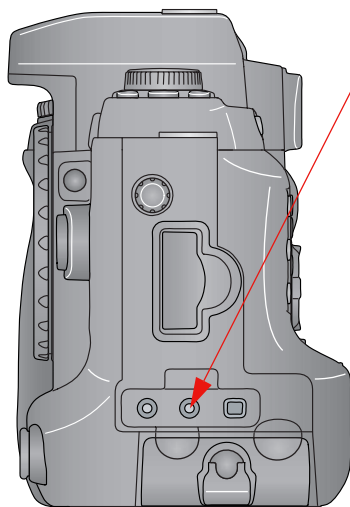
12 外部ビデオ表示

画像表示パネルの画像やメニューを外部ビデオ モニタに表示することができます。

撮影を行うと、接続されているビデオ モニタに自動的に画像が表示されます。このビデオ モニタ上で画像を確認して、カメラの調整が必要かどうかを判断できます。

備考： ビデオ出力形式が正しく設定されているかどうかをチェックしてください。

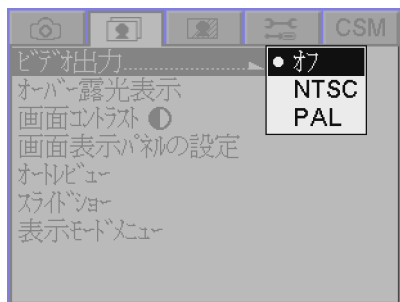
接続



1. 2.5mm フォンプラグの付いたビデオ ケーブルをビデオ ポートに接続します (このケーブルは付属品に含まれません)。
2. ビデオ ケーブルのもう一方の端をビデオ モニタに接続します。

備考： 互換性のあるコダック ビデオ ケーブル (カタログ番号 1817774) は、お近くの販売店でお買い求めになれます。

外部ビデオの有効化



1. [表示] メニューから [ビデオ出力] を選択します。
2. [NTSC] または [PAL] を選択して、ビデオ ポートを有効にします。ポートを無効にするには [オフ] を選択します。
3. OK ボタンを押します。

備考： [NTSC] または [PAL] は、ビデオ モニタの機能と設定に合わせて選択する必要があります。

13 コンピュータへの接続

コダック プロフェッショナル DCS Pro SLR/c デジタルカメラ (DCS Pro SLR/c) の画像にコンピュータからアクセスするには、次の 2 つの方法があります。

- **IEEE 1394** ケーブルを使用してカメラをコンピュータに接続し、コダック プロフェッショナル **DCS Camera Manager** ソフトウェアを使用して、画像をコンピュータのハードディスクに転送します。撮影プレビューモードを使用すると、カメラで撮影しながら、撮った画像をコンピュータに映し出すことができます。**DCS Camera Manager** でコンピュータに転送した画像は、コダック プロフェッショナル **DCS Photo Desk** ソフトウェアを使用して開いたり、調整、処理することができます。
- カメラで画像をメモリカードに保存してから、カードを取り出してコンピュータのカードリーダーに挿入し、**DCS Photo Desk** を使用して画像を開きます。

IEEE 1394 接続の利点

- 画像を撮影して数秒以内にコンピュータに表示できます。

カードリーダーの利点

- カメラが手元になくてもコンピュータの画像にアクセスできます。
- ノート型コンピュータの中には **IEEE 1394** ポートが備わっていないものもありますが、**PC** カードスロットは必ず搭載しています。カードに画像を保存した場合、多くのパソコンで画像を表示することができます。
- コンピュータに接続しなくても、画像を撮影することができます。

コンピュータのカメラへの接続



注意：

カメラを接続するときには、**IEEE 1394** リピータを使用しないでください。カメラに損傷を与える恐れがあります。

IEEE 1394 ケーブルを使用して、カメラをコンピュータに接続します。このケーブルは、カメラの画像をコンピュータに高速に転送するために必要です。**IEEE 1394** ケーブルをカメラとコンピュータに接続するとき、または切断するとき、コンピュータまたはカメラの電源を切る必要はありません。

コンピュータで **IEEE 1394** 接続を利用できる必要があります。

1. バッテリーもしくはパワー モジュールでカメラに電源を供給します。

備考： バッテリーは、充電が切れてカメラへの電源の供給が突然止まり、データが失われる恐れがあります。パワーモジュールを使用して電源を供給されることをお勧めします。

2. Macintosh または Windows 対応のコダック プロフェッショナル DCS ホスト ソフトウェアがまだインストールされていない場合は、インストールします。
3. ケーブルの 6 ピン側をコンピュータの **IEEE 1394** ポートに差し込みます (コンピュータの **IEEE 1394** ポートが 4 ピンの場合は、両端が 4 ピンの **IEEE 1394** ケーブルをご使用ください)。



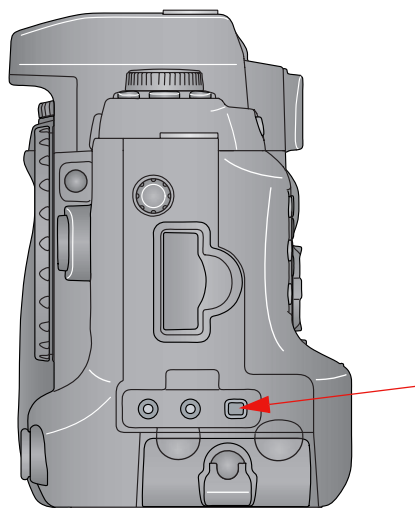
注意：

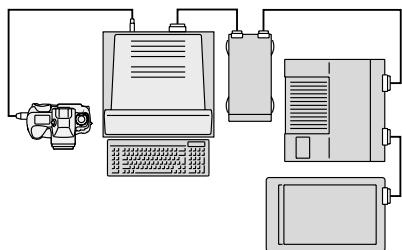
IEEE 1394 ケーブルをコンピュータに接続するとき、プラグを差し込む向きを確認してから差し込んでください。方向が間違っていると、カメラやコンピュータが破損する恐れがあります。コンピュータに接続するときは、6 ピンプラグの先がコンピュータ ポートの先にきちんと合っていないとなりません。

備考： アダプターカードには複数のポートがある場合があります。

4. **IEEE 1394** ケーブルの 4 ピン側をカメラの **IEEE 1394** ポートに差し込みます。

備考： 電源がオンになっているコンピュータに **IEEE 1394** でカメラが接続されている場合、カメラは省電力モードの状態になりません。**IEEE 1394** で接続されている限り、カメラは動作状態を保ち、コダック プロフェッショナル DCS **Camera Manager** がコンピュータで実行されているかどうかを確認します。





ループ接続にしない限り、**IEEE 1394** インターフェース カードには複数のカメラまたは他の **IEEE 1394** デバイスを接続できます（右の図は、許容される構成を示します）。

カメラの **IEEE 1394** ポートにパススルー コネクタを接続することはできません。このカメラは「デジチェーン」の最後のデバイスとなるようにしてください。

これで、コンピュータからカメラへのアクセスが可能になりました。カメラに付属の **DCS** ホスト ソフトウェア **CD** に収録されている、**DCS** ホスト ソフトウェア用のヘルプを参照してください。

終了 – コンピュータからの切断

カメラとコンピュータを使う処理が終了したら、次のステップを実行します。カメラまたはコンピュータの電源を切らずに、カメラとの接続、切断を行うことができます。

備考： **WINDOWS OS** のみ：コダック プロフェッショナル **DCS Camera Manager** が起動しているときには、コンピュータとカメラとの接続を切断しないでください。切断すると、カメラがハングアップすることがあります。

⚠ 注意：

カメラからコンピュータへ画像を転送中は、コンピュータとカメラとの接続を切断しないでください。切断すると、コンピュータの画像が破壊することがあります。

1. コダック プロフェッショナル **DCS Camera Manager** ソフトウェアが実行されている場合は終了します。
2. コンピュータからカメラを切断します。

カード リーダーの使用

お使いのコンピュータにカードリーダーが搭載されている場合は、カメラの画像を記録したメモリ カードをカードリーダーに挿入すると、画像にアクセスできます。新しいカードリーダーを購入した場合は、付属の説明書に従ってカードリーダーを取り付けてください。

1. メモリ カードをカメラから取り出します。
2. コンピュータのカードリーダーにメモリ カードを挿入します。

⚠ 注意：

コダック プロフェッショナル **DCS Photo Desk** が起動しているときは、カードリーダーからカードを取り出さないでください。**DCS Photo Desk** でカードの画像を開いているときにカードを取り出すと、データが失われる可能性があります。

14 カメラの手入れ

取り扱い

以下の取り扱いに関する注意をよくお読みになって、大切に扱っていただければ、コダック プロフェッショナル DCS Pro SLR/c (DCS Pro SLR/c) デジタルカメラは今後何年にもわたって最高品質の画像を提供することができます。

- カメラは落としたり衝撃を与えないようにしてください (このカメラは耐久性が高い設計になっていますが、精密機器なので取り扱いには注意が必要です)。
- カメラに塩水がかからないようにし、過度の水分から保護してください。海岸で使用的場合は、使用後に乾いた布で十分に拭いてください。
- 極度に高温の場所にはカメラを置かないでください。
- カメラの電子接点を指で触れないようにしてください。接点に触れると、腐食が発生してカメラが正しく動作しなくなる場合があります。
- レンズをカメラから取り外したら、レンズマウントの電子接点が損傷しないようにすぐにキャップを付けてください。
- 冷たくなったカメラを暖かい場所に持ち込んだ場合、結露の問題が生じます。オートフォーカスレンズが曇ると、正確に機能しなくなる可能性があります。暖かい場所に入る前にカメラをビニール袋に入れてください。そうすれば、結露はビニール袋の外側に生じます。
- スプレー式のブロアーを使用してレンズをクリーニングすると、光学ガラスを損傷する可能性があります。損傷させないように、ノズルをレンズ面から **30 cm** 以上離してブロアーを垂直に持ち、空気の流れが **1 点** に集中しないようにノズルを動かしながらスプレーしてください。

クリーニング



注意：

クリーニングの前にカメラからレンズを取り外してください。

1. カメラの電源を切ります。
2. AC アダプタおよびコンピュータとカメラとの接続をはずします。
3. 湿らせた布を使って、カメラ本体の外側、上部表示パネル、背面ステータス LCD、画像表示パネルだけを拭きます。

備考： カメラの外側に液体クリーナやエアゾールクリーナは使用しないでください。

4. 柔らかいきれいな布でファインダーアイピースを拭きます。アルコールは使用しないでください。
5. ミラーやフォーカス スクリーンから埃を取り除くには、市販のブロアを使って埃をやさしく吹き飛ばしてください。これらの部品の表面には直接触れないようにしてください。
6. レンズ面をブロア ブラシでクリーニングします。ごみや汚れを取り除くには、レンズをカメラから取り外し、柔らかいきれいな綿布、またはレンズクリーナを染み込ませたレンズティッシュで拭きます。中心から外縁に向かって円を描くように拭きます。拭き跡を残さないように、また、その他のレンズ部品には触れないようにしてください。

備考： カメラ、レンズ、またはレンズ接点に油をささないでください。

イメージャー

カメラのシャッターが開くと、撮影するシーンからの光をイメージャーが捕らえます。この光がイメージャーによってデジタルイメージに変換されます。イメージャーのカバー ガラスが汚れると、画像の品質が落ちます。

イメージャーの汚れの調べ方

イメージャーはカメラの内部にありますが、汚れることがあります。クリーニングが必要かどうかを調べる方法は、以下の 2 つです。

- テスト イメージを見て、イメージャーの汚れを示す欠陥がないかを調べます。
- イメージャーに汚れがついていないかを目で見えて調べます。

テスト イメージでの調査

1. レンズ絞りを最高の絞り値に設定して、被写界深度が最大限になるようにします。
2. 平らで白い物 (きれいな白い壁など) を撮影します。
3. コダック プロフェッショナル **DCS Photo Desk** ソフトウェアで画像を確認します。暗い色のかたまりや筋などの欠陥がイメージにあれば、イメージャーが汚れている可能性があります。

クリーニング手順



注意：

イメージャーはとても繊細です。イメージャーのクリーニングの際には、次の手順に従ってください。手順に従わない場合、カメラが破損する恐れがあります。

1. カメラの電源を切ります。
2. カメラからレンズを取り外します。
3. 充電したバッテリーを使ってカメラの電源をオンにします。



注意：

クリーニング中にバッテリーがなくなったり、カメラの電源がオフになった場合、シャッターが閉まり、カメラを破損する恐れがあります。

4. カメラをマニュアル露出モード「M」にします。[7-13 ページ](#)を参照してください。
5. [ツール] メニューの [CMOS クリーニング] から [開く] を選択します。
6. OK ボタンを押します。
ミラーが上がり、シャッターが開きます。
7. www.kodak.com/go/dcs に掲載されている TIB の手順に従って、イメージャーを調べます。
8. [ツール] メニューの [CMOS クリーニング] から [閉じる] を選択します。
9. OK ボタンを押します。
シャッターが閉まり、ミラーが元の位置に戻ります。
10. カメラの電源を切ります。
11. 再度撮影する場合は、レンズを取り付けます。



保管

長期間カメラを使わずに保管していた場合、または重要な旅行や撮影の仕事の前には、カメラの動作を念入りにチェックしてください。

- カメラを保管する場合は、きれいな柔らかい布で包み、風通しがよく、涼しく、乾燥していて、ほこりが少ない場所に置いてください。
- 直射日光の当たる場所や高温の場所にカメラを保管しないでください。
- 防虫剤などの化学薬品が使われている場所には置かないでください。
- 腐食を防止するには、化学薬品が使われている場所（現像所など）にカメラを保管しないでください。
- 引出しなどの風通しの悪い場所ではカメラを保管しないでください。
- カメラを数日以上使用する予定がない場合は、バッテリーを取り外してください。
- とくときカメラを取り出してシャッター ボタンを押し、カメラが正しく動作することを確認してください。
- 湿気の多い環境では、乾燥剤を入れたビニール袋にカメラを入れて、ほこり、湿気、塩分が入らないように保管してください。

重要： カメラの電源をオフにしても、微量のバッテリー電力が使用されます。したがって、数日間保管したカメラはバッテリー残量が減少しています。

上部表示パネルと画像表示パネル

温度が **0° C (32° F)** 以下になると、液晶の応答がやや遅くなることがあります。温度が約 **60° C (140° F)** になると、液晶が暗くなることもあります。常温に戻ると、**LCD** パネルの動作は正常に戻ります。

15 シリアルデータ収集とグローバル ポジショニング システム (GPS)

シリアルポートは、他のさまざまなデジタル製品とデータを交換する場合に使用します。

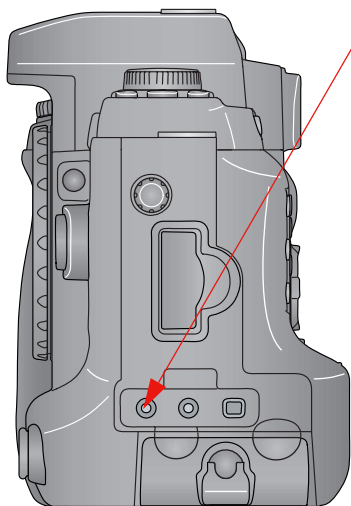
次のシリアルポート設定を利用できます。

- データ入力
- データ出力
- 速度 (baud)

備考：シリアルポートのすべての設定は、カメラの電源を切っても保存されます。

シリアル データ収集

シリアルポートに装置を
接続する



GPS ユニット以外のすべてのデバイスを接続するには、シリアルポートを使用します。GPS ユニットの接続方法と使い方については、[15-6 ページ](#)を参照してください。

1. シリアルケーブルの正しい側をカメラのシリアルポートに接続します。
2. ケーブルのもう一方の端を装置に接続します。

備考：互換性のあるコダックシリアルケーブル(カタログ番号 1157619)は、お近くの販売店でお買い求めになれます。

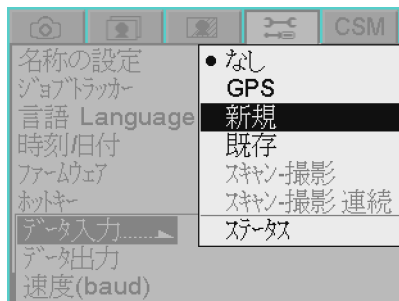
データ入力モード

データ入力モードを使用すると、カメラは外部接続装置からテキスト文字列を受信します。その情報は、指定した画像ヘッダーに追加されます。

データ入力とデータ出力モードは同時に機能します。

備考：[スキャン - 撮影] と [スキャン - 撮影 連続] の機能を使用して、シリアル バーコード スキャナーを接続できます。ご利用については、コダック製品取り扱い店までお問合せください。

1. [ツール] メニューから [シリアルポート] を選択して、[データ入力] を選択します。
2. 次に記載されている [データ入力] のオプションを選択します。


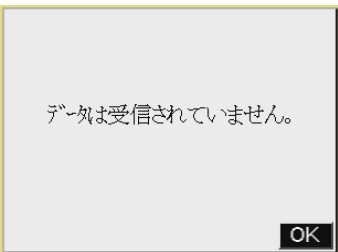


メニュー 選択	動作	コメント
[なし]	データは転送されません。	シリアル ポートを利用できません。
[GPS]	接続された GPS 装置からのテキスト文字列は、撮影直後の画像のヘッダーに書き込まれます。	TRIMBLE GPS カードがカメラに挿入されている場合、シリアル ポート GPS 機能は無効になります。
[新規]	接続された装置からのテキスト文字列は、以降の画像のヘッダーに書き込まれます。	テキスト文字列は 250 文字以下の有効な文字である必要があります。有効な文字は、 ASCII 文字、改行、および行終端で構成されます。
[既存]	接続された装置のテキスト文字列は、以前に撮影した画像のヘッダーに書き込まれます。	[新規] または [既存] を選択すると、[データ入力] の [ステータス] オプションが利用可能になります。
[スキャン - 撮影]	スキャンされたバーコード値は、画像ヘッダーに書き込まれます。	ファイルタイプは RAW である必要があります。 [スキャン - 撮影] を選択してバーコードをスキャンし、画像を撮影します。

メニュー 選択	動作	コメント
[スキャン - 撮影連続]	スキャンされた最大 8 つのバーコード値が画像ヘッダーに書き込まれます。	ファイルタイプは RAW である必要があります。 [スキャン - 撮影連続] を選択して最大 8 つのバーコードをスキャンし、画像を撮影します。
[ステータス]	このオプションは、 [新規] または [既存] を選択した場合に表示されます。	15-4 ページ を参照してください。

データ入力ステータス

[データ入力]メニューから[新規]または[既存]を選択した場合、[データ入力]の[ステータス]オプションが利用可能になります。[ステータス]を選択すると、以下の2つの画面のいずれかが表示されます。

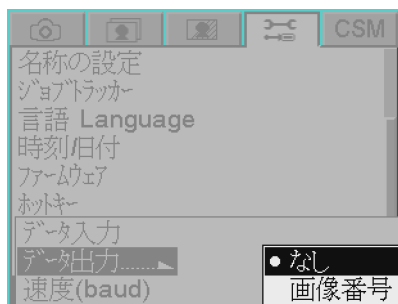
	接続された装置がデータを送信した場合、受信された最新のデータがメッセージに示されます。
	装置が接続されていないか、または接続された装置が現在データを送信していない場合、このメッセージが表示されます。

データ出力モード

シリアルポートがデータ出力モードの場合、カメラはデータを外部接続装置へ送信します。

備考： データ入力とデータ出力モードは同時に機能します。

1. [ツール]メニューから[シリアルポート]を選択して、[データ出力]を選択します。



2. 次に記載されている [データ出力] のオプションを選択します。

メニュー選択	動作
[なし]	データは転送されません。
[画像番号]	撮影した画像番号が含まれるテキスト文字列が、接続された装置に送信されます。

ボーレートの設定

カメラと接続された装置の間でデータを送信する前に、デバイスに必要なボーレートを設定する必要があります。

備考： ボーレートについては、装置製造業者のアドバイスに従ってください。

1. [ツール] メニューから [シリアルポート] を選択して、[速度 (baud)] を選択します。
2. 必要なボーレートを選択します。



グローバル ポジショニング システム (GPS)

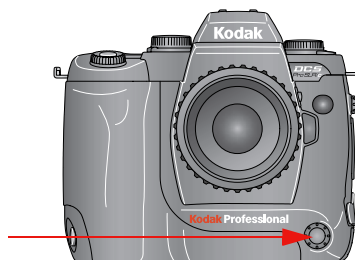
ご使用のカメラには、接続された GPS ユニットから GPS データを受信し、現在のカメラ位置に関する情報を画像ヘッダーに書き込むグローバル ポジショニング システム (GPS) 機能があります。

GPS 機能を使用するための要件

カメラの GPS 機能を使用するには、以下が必要です。

- 標準 NMEA データの送信をサポートする GPS ユニット
- GPS ユニットの製造元が提供する GPS シリアル ケーブル
- カメラ接続用の RS232 3.5 mm ケーブル

GPS 機能の使用



1. 適切な GPS シリアル ケーブルの末端をカメラのリリースポートに接続します。
2. ケーブルのもう一方の端を GPS ユニットに接続します。
3. GPS ユニット上で、NMEA の出力フォーマットを設定します。
4. GPS ユニット上で、ボーレートを確認します。
5. カメラのボーレートを、GPS ユニットに表示されるボーレートに設定します。
6. [ツール] メニューから [GPS] を選択します。



7. GPS 情報が表示されます。OK ボタンを押します。
GPS ユニットが接続されている間は、撮影した画像のヘッダーに GPS 情報が書き込まれます。



付録 A: 仕様

寸法	高さ : 136.5 mm (5.375 インチ) 幅 : 149.2 mm (5.875 インチ) 奥行き : 76.2 mm (3.0 インチ)
重量	895 g (1.97 ポンド) (レンズ、バッテリー、電源モジュール、記憶媒体を除く)
画像センサー	36 x 24 mm、12 ビット、RGB CMOS 撮像素子 総画素数 : 1385 万画素 有効画素数 : 1370 万画素
ISO 範囲	160 ~ 1600 (1/3 段ステップ)
レンズマウント	CANON EF レンズと CANON tilt / shift レンズ。 http://www.canoneos.com/ にアクセスしてください CANON マウント付 SIGMA レンズ。 http://www.signaphoto.com/ にアクセスしてください。
オートフォーカスシステム	TTL フェーズ探知システム
フォーカスポイント数	5
オートフォーカス感度 (ISO 100、f/1.4)	EV -1 ~ + 18
フォーカスロック	使用可能
シャッター	全シャッター速度範囲に適応する電子制御式の縦走行フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	30 ~ 1/600 秒 (1/3 段ステップ)、バルブモード、フラッシュ同期モード
最大フラッシュ同期速度	1/180 秒 1/6000 秒 / ハイスピードフラッシュ (FP フラッシュ)
測光システム	TTL 開放露出測光
測光モード	8 分割、平均、中央部

測光感度	-1 ～ 20 EV (ISO 100 / f/1.4)
露出補正	±3 段の範囲、1/3 段ステップで補正可能
AE ロック	可能
露出モード	プログラム AE (変換可能)、絞り優先 AE、シャッター スピード優先 AE、マニュアル
ファインダー	ペンタプリズム
ファインダー倍率 (50 mm レンズ、無限遠)	0.77X
視度調節	-3 ～ +1 dpt
ファインダー アイポイント	18 mm
ファインダー視野率	約 92% (縦横とも)。焦点距離倍率 : 1.0x
ファインダーの情報	中央領域測光、自動フォーカス フレーム、フラッシュ インジケータ、フォーカス インジケータ、シャッター スピード、AE ロック インジケータ、絞り値、露出計、自動ブラケティング
上部表示パネル	サウンド設定、シャッター スピード、フレーム カウント、自動ブラケティング、ISO、露出計、絞り値、測光モード、リモートコントロール、AF モード、バッテリー インジケータ
デジタル表示パネル (バックライト付き)	撮影情報 (対話式): ホワイトバランス、ISO、CF と SD/MMC カード、カードに残っているおおよその画像、クロップ アスペクト比、JPEG 品質、Raw および JPEG の出力解像度 参照情報 (表示のみ): 現在の画像番号、現在のフォルダ番号、クロップ アスペクト比、ホワイトバランス、解像度、ISO ツールチップ
画像表示パネル	1.8 インチ、13 万画素、低温ポリシリコン TFT 液晶
カスタム設定	ブラケティング順序 半押し AE ロック リモートコントローラー 電子音 自動電源オフ カメラリセット
AE ブラケティング	3EV、1/3 段ステップ (標準、アンダー、オーバー)
被写界深度プレビュー	可能

リモートコントロール	3チャンネル赤外線 (内蔵)
セルフタイマー	あり (2 または 10 秒)
電子式ストロボ	対応ストロボ付き E-TTL オートフラッシュ E-TTL 付属 PC ストロボ端子
標準、または ERI JPEG 画像解像度	約 1350 万画素 : 4500 x 3000、約 600 万画素 : 3000 x 2000、約 340 万画素 : 2250 x 1500、約 800 万画素 : 1125 x 750
Raw 出力解像度	約 1350 万画素 : 4500 x 3000、600 万画素 : 3000 x 2000、約 340 万画素 : 2250 x 1500
画像フォーマット	DCR (Raw アーカイブファイル)、ユーザーが選択可能な圧縮レベル (標準、または ERI JPEG)
バーストの速度	1.6 画像 / 秒
バーストの深さ	A-4 ページ を参照してください。
ホワイトバランス	オート、デイトライト、蛍光灯、タングステン、フラッシュ、クリック WB
ビデオ出力	NTSC または PAL を選択可能 (KODAK ケーブル (カタログ番号 1817774) をご利用ください)
ホストインターフェース	IEEE 1394 (シングル 4 ピン IEEE 1394 ポート、400 MB / 秒)
アクセサリインターフェース	レリーズケーブル GPS シリアルケーブル
リムーバブルメディア	CF カード (Type II CF+ にも対応) x 1、SD カード / MMC x 1
方向センサー	光軸を中心とする ±90° 回転を検出
ホストソフトウェア	コダック プロフェッショナル DCS Photo Desk、コダック プロフェッショナル DCS Camera Manager、コダック プロフェッショナル ERI File Format Module
PC ストロボ端子	スレッド、極性 (鈍)、最大同期速度 1/180 秒
ドライブモード	シングルまたはコンティニュース
日付と時刻	各画像ファイルに日付と時刻を関連付け。リセット可
電源	コダック プロフェッショナル DCS Pro バッテリー、またはコダック プロフェッショナル DCS Pro チャージャー / AC アダプター
露出計	シャッター ボタンを軽く半押しすると起動

仕様



バッテリー残量の確認	カメラがオンのときに上部表示パネルに表示
三脚マウント	1/4 インチ

バーストの深さ

バーストの深さ（バーストの画像の最大数）は画像解像度とファイル形式に応じて変わります。

次の表はバーストの深さを示しています。

解像度とファイル形式	画像の数
13.5 MP Raw	19
13.5 MP Raw + 13.5 MP JPEG	6
13.5 MP JPEG	12
6.0 MP Raw	19
3.4 MP Raw	20

付録 B: レンズの互換性

このカメラでは、CANON EF 互換のレンズ、または CANON EF マウントを使用する SIGMA レンズを使用します。

SIGMA レンズ

詳細については、<http://www.sigmaphoto.com/html/lenschart.htm> にアクセスしてください。

SIGMA レンズ
8mm F4 EX CIRCULAR FISHEYE
14mm F2.8 EX ASPHERICAL HSM
15mm F2.8 EX DIAGONAL FISHEYE
20mm F1.8 DG ASPHERICAL RF
24mm F1.8 EX DG ASPHERICAL MACRO
28mm F1.8 EX DG ASPHERICAL MACRO
MACRO 50mm F2.8 EX
MACRO 105mm F2.8 EX
APO MACRO 180mm F3.5 EX IF HSM
APO 300mm f2.8 EX HSM
APO 500mm f4.5 EX HSM
MIRROR 600mm F8
APO 800mm F5.6 EX HSM
15-30mm F3.5-4.5 EX DG ASPHERICAL
17-35mm F2.8-4 EX ASPHERICAL HSM
20-40mm F2.8 EX DG ASPHERICAL
24-70mm F2.8 EX DG ASPHERICAL DF


SIGMA レンズ
24-70mm F3.5-5.6 ASPHERICAL HF
28-70mm F2.8 EX ASPHERICAL DF
28-70mm F2.8-4 HIGH SPEED ZOOM
MINI ZOOM MACRO 28-80mm F3.5-5.6 ASPHERICAL HF
MINI ZOOM MACRO 28-80mm F3.5-5.6 II ASPHERICAL
28-105mm F2.8-4 ASPHERICAL
28-105mm F3.8-5.6 UC-III ASPHERICAL I
28-135mm F3.8-5.6 ASPHERICAL IF MACRO
COMPACT HYPERZOOM 28-200mm F3.5-5.6 ASPHERICAL MA
COMPACT HYPERZOOM 28-300mm F3.5-6.3 ASPHERICAL
APO 50-500mm F4-6.3 EX RF HSM
APO 70-200mm F2.8 EX HSM
APO MACRO SUPER II 70-300mm F4-F5.6
70-300mm F4-5.6 MACRO SUPER
APO 100-300mm F4 EX IF HSM
100-300mm F4.5-6.7 DL
APO 120-300mm F2.8 EX IF HSM
APO 135-400mm F4.5-5.6 ASPHERICAL RF
APO 170-500mm F5-6.3 ASPHERICAL RF
APO 300-800mm F5.6 EX IF HSM

CANON レンズ

詳細については、<http://www.usa.canon.com/eflenses/pdf/spec.pdf> にアクセスしてください。

CANON レンズ	
EF 14mm F2.8	EF 600mm F4L IS USM
EF 15mm F2.8L USM	EF 1200mm F5.6L USM
EF 20mm F2.8 USM	EF 400mm F5.6L USM
EF 24mm F1.4L USM	EF 500mm F4L IS USM
EF 24mm F2.8	EF 16-35mm F2.8L USM
EF 28mm F1.8 USM	EF 20-35mm F3.5-4.5 USM
EF 28mm F2.8	EF 24-85mm F3.5-4.5 USM
EF 35mm F1.4L USM	EF 28-70mm F2.8L USM
EF 35mm F2	EF 28-80mm F3.6-5.6 type-5 USM
EF 50mm F1.4 USM	EF 28-90mm F4-5.6 USM
EF 50mm F1.8 type-2	EF 28-105mm F3.5-4.5 type-2 USM
EF 50mm F2.5 MACRO	EF 28-135mm F3.5-5.6 IS USM
MP 65mm F2.8 1.5XMACRO	EF 28-200mm F3.5-5.6 USM
EF 85mm F1.2L USM	EF 35-350mm F3.5-5.6L USM
EF 85mm F1.8 USM	EF 70-200mm F2.8L IS USM
EF 100mm F2.8 MACRO USM	EF 70-200mm F2.8L USM
EF 135mm F2L USM	EF 70-200mm F4L USM
EF 135mm F2.8 SOFT	EF 75-300mm F4-5.6 IS USM
EF 180mm F3.5L MACRO USM	EF 75-300mm F4-5.6 type-3 USM
EF 200mm F1.8L USM	EF 100-300mm F4.5-5.6 USM
EF 200mm F2.8L type-2 USM	EF 100-400mm F4.5-5.6 IS USM
EF 300mm F2.8L IS USM	TS-E 24mm F3.5
EF 300mm F4L IS USM	TS-E 45mm F2.8

レンズの互換性



CANON レンズ	
EF 400mm F2.8L IS USM	TS-E 90mm F2.8
EF 400mm F4 DO IS USM	

付録 C: トラブルシューティング

問題、原因、対処

問題	原因	対処
カメラの電源がオンにならない		十分に充電したバッテリー、または電源モジュールを使用します。 カメラからメモリ カードを取り出し、カメラの電源をオンにしてみます。
電源モジュールの使用時にカメラの電源がオンにならない	電源モジュールが完全に挿入されていない可能性があります。	ケーブルが電源モジュールに完全に挿入されているか確認してください (3-2 ページ を参照)。 <ul style="list-style-type: none">• ケーブルを正しい場所に適切に挿入すると、「カチッ」という音と感触がします。• ケーブルを適切に「カチッ」と音がするまで押すには、かなり力を入れて押さなければならない場合があります。
上部表示パネルに何も表示されない	バッテリーがなくなっています。	バッテリーを交換します (3-4 ページ を参照)。
	バッテリーが正しく取り付けられていません。	バッテリーを正しく挿入します。
上部表示パネルにバッテリー アイコンの一部が表示されない	バッテリーが不足しています。	新しいバッテリーを用意します。
上部表示パネルでバッテリー アイコンが点滅する	バッテリーがなくなっています。	バッテリーを交換します (3-4 ページ を参照)。
	不明な理由によってバッテリーが機能していません。	一旦バッテリーを取り外し、もう一度挿入して、カメラの電源をオンにします。

問題	原因	対処
シャッターが解除されない	バッテリーがなくなっています。	バッテリーを交換します (3-4 ページを参照)。
	D- ダイヤルがドライブ領域外に設定されています。	D- ダイヤルをドライブ領域内のいずれかの設定に設定します (5-20 ページを参照)。
	シングル AF モードでカメラが的確にピントを合わせられません。	別の被写体にピントを合わせるか、またはマニュアルフォーカスを使用します (8-4 ページを参照)。
	メモリ カードが挿入されていないか、または正しく挿入されていません。	メモリ カードを正しく挿入します (6-2 ページを参照)。
	カメラがメモリ カードに書き込み中です。	カード ビジー ランプが消えるまで待ちます (6-2 ページを参照)。
	メモリ カードが一杯です。	新しいカードを挿入するか (6-2 ページを参照) または不要な画像を削除します (11-11 ページを参照)。
シャッターが解除されない カメラがロックされたような状態になっている カスタム設定画面を終了できない		初期値にリセットしてみます (5-13 ページを参照)。
カメラ背面のボタンが機能しない	省電力モードになっています。	シャッター ボタンを軽く半押しします。 省電力モード時間を変更します (5-2 ページを参照)。

問題	原因	対処
表示されない情報がカメラに保存されているようで、カードの容量が空いているはずの容量よりも少ない	WINDOWS 2000 を使用してカードから画像を削除した場合、容量の大きなカードには、非表示の「ごみ箱」フォルダが存在する可能性があります。 非表示の「ごみ箱」フォルダが存在すると、空いているはずの容量よりもカードの容量が少なく表示される可能性があります。	カメラのカードをフォーマットします (6-6 ページを参照)。
カメラがカメラ内のカードを認識しない	カードが正常に動作していない可能性があります。 ご使用のカードがこのカメラでは正しく動作しない可能性があります。	別のカードを試します。 画像表示パネルメニューにアクセスできる場合は、カメラ内のカードをフォーマットします (6-6 ページを参照)。
カード ビジー ランプとデジタル表示パネルのカードアイコンが点滅している	メモリ カードにデータを書き込み中です。	点滅が止まるまでカードを取り出さないでください。
画像を誤って削除した		リカバリー機能 (6-7 ページを参照) を使用すると、上書きされていない画像をすべて復元することができます。
削除した画像を復元できない		カードの画像をコンピュータにコピーし、クイック フォーマット (6-6 ページを参照) を実行してから、リカバリー機能 (6-7 ページを参照) を使用します。画像が上書きされていない場合は、その画像を復元できる可能性があります。
画像の色が正しくない		ライティングにあわせてホワイトバランスを変更します (7-2 ページを参照)。グレー カードを撮影してクリック WB を使用してみます (7-3 ページを参照)。

問題	原因	対処
画像のコントラストが低い		ヒストグラム (11-3 ページを参照) を使用して、ダイナミック レンジ全体を使用しているかどうかを確認します。ISO を変更するか (5-19 ページを参照)、フラッシュを使用してみます。
ピントが合っていない被写体がある		被写界深度 (2-20 ページを参照) を変更するか、または F 値を上げてみます。
画像がぼやけている	レンズのフォーカス モードスイッチを「M」に設定します。	レンズのフォーカス モードスイッチを「AF」 (8-1 ページを参照) に設定します。
	シャッターを押すときに、手が動いたり、カメラが揺れています。	シャッターボタンをやさしく押すか、リモート コントローラーまたは三脚を使用します。
ファインダーの画像がぼけている		視度調節を行います (2-19 ページを参照)。
カメラの画面に間違っ言葉が表示される		正しい言語を選択します (5-12 ページを参照)。
間違っ日付と時間が表示される	日付と時間の設定が正しくない可能性があります。	正しい日付と時間を入力します (5-13 ページを参照)。
画像表示パネルの画像のコントラストが適正ではない		[画面コントラスト] 機能を使用してコントラストを調整します (11-8 ページを参照)。
露出が適正ではない		画像のヒストグラム (11-3 ページを参照) とズーム表示モードの十字ポインタ (11-4 ページを参照) で RGB 値を確認し、露出を変更する必要があるか確認します。露出が適正ではない場合、絞り、シャッター速度、ISO を変更して調整してください。
上部表示パネルで露出計が点滅している	露出設定が範囲外です。	適正な露出値を選択します (7-7 ページを参照)。

問題	原因	対処
上部表示パネルでシャッター スピードアイコンに「Err」と表示される	レンズ絞りリセットスイッチが故障しています。	レンズを交換または修理します。
	カメラ ファームウェアでメインミラーの順序が不正になっています	カメラの電源をオフにし、再度オンにします。
上部表示パネルがオンにならない	バッテリーがなくなっています。	バッテリーを交換します (3-4 ページを参照)。
オートフォーカスが機能しない	レンズのフォーカス モードスイッチを「M」に設定します。	レンズのフォーカス モードスイッチを「AF」 (8-1 ページを参照) に設定します。
	レンズが正しく取り付けられていません。	レンズを正しく取り付けます (2-17 ページを参照)。
画像表示パネルの画像が見えにくい	画像表示パネルが汚れています。	画像表示パネルをクリーニングします (14-2 ページを参照)。
	画像表示パネルが劣化しています	お近くのカメラ販売店までお問い合わせください。
外部ビデオ モニタに画像が表示されない	ビデオケーブルが正しく接続されていません。	ビデオ ケーブルを正しく挿入します (12-1 ページを参照)。



付録 D: 保証について

カメラをご使用の前に、以下の保証規定をよくお読みください。
この規定に同意いただけない場合、カメラを未使用のまま、付属品とともに梱包してご返品ください。

コダック プロフェッショナル DCS Pro SLR/c デジタルカメラ

この保証内容は日本国内でのみ有効です。

保証期間内に使用説明書、本体ラベル等の注意書きにしたがって正しく使用されて故障した場合に、無償で修理させていただきます。保障期間は、本製品を購入された日から **1 年間**です。

保証期間中に本製品が、部品および生産工程における欠陥により、正常な動作をしない場合、コダックは本規定の条件、制限にしたがい、無償で修理、または部品の交換を行います。この無償修理には、それに伴う労力、交換部品の費用も含まれます。

本製品の部品交換を行う場合、交換部品として再生部品を使用することがあります。またシステム全体を交換する必要がある場合、再生されたシステムを使用することがあります。修理、交換後の保証期間は、製品引渡し日から **30 日間**です。これはもとの保証期間を延長するものではなく、交換部品およびそれにかわる労力にのみ適用されます。付属のバッテリー、ソフトウェアは保証の対象には含まれません。

保証の制限

保証期間内での無償での修理または部品交換は、本製品に対してコダックが負う唯一の義務です。

保証書にお買い上げ年月日、お名前、販売店名の記入がない場合、修理または部品交換を無償で受け付けることはできません。修理、部品交換のために本製品をお送りいただく場合、輸送中の紛失、損傷についてコダックは一切の責任を負いません。

しっかりと梱包し、お客様ご自身の責任でお送りください。

本製品をお送りいただく場合の梱包の不備による損傷に対してコダックは一切の責任を負いません。

- 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、および公害や異常電圧による故障、損傷
- コダックから販売されている専用アクセサリ以外を使用したことによる故障および損傷
- 不当な修理や改造
- 使用上の誤り
- ユーザーズガイドにしたがわない操作

製品性、特定の目的への適合性に対して保証はいたしません。
本製品の購入、使用、誤動作から生じる損害について一切の責任は負いません。またカメラの使用、誤動作による収益の損失、カメラ使用上の過失、代替機の準備にかかる費用、サービス費用、顧客からの損害請求などに対する責任も負いません。

日本国外での保証

本保証規定は日本国内のみで有効です。

お客様相談センター / 修理窓口

本製品に関するお問い合わせ、または修理のご依頼は、本製品をご購入された販売店までお問い合わせください。

コダック製品に関するお問い合わせは、コダックお客様相談センターまでお願いいたします。

コダックお客様相談センター：03 - 5540 - 9001

営業日：祝日を除く月～金 9：30～17：30

修理のときにカメラを送っていただくときには、購入したときと同じ状態で梱包してください。十分に注意して梱包してください。輸送の際の梱包における不備から生じた損傷に対してコダックは一切の責任を負いません。

コダックテクノサービス（株）東京ショップサービス：

〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町 2-9 ヤマコビル

TEL：03-5695-4945 FAX：03-5695-4396

営業日：祝日を除く月～金 9：00～17：30

修理のときにカメラを送っていただくときには、購入したときと同じ状態で梱包してください。十分に注意して梱包してください。

修理のときにカメラを送っていただくときには、購入したときと同じ状態で梱包してください。十分に注意して梱包してください。輸送の際の梱包における不備から生じた損傷に対してコダックは一切の責任を負いません。

ウェブサイト

コダック プロフェッショナルのウェブサイトでは、製品情報、サポート情報など多くの情報を手に入れることができます。また最新のソフトウェア、ファームウェアなどをダウンロードすることができます。

コダック プロフェッショナル ウェブサイト：

<http://www.kodak.co.jp/go/professional>

ダウンロードサービス：<http://www.kodak.co.jp/go/DCSsoftware>

登録サイト：<http://www.kodak.co.jp/go/DCSRegister>

用語集

AF (オート フォーカス)

AE (自動露出)

AE (自動露出) ロック

AF ロック

EV (露出値)

F 値

ISO

JPEG

LCD (液晶ディスプレイ)

NTSC

内臓のセンサーで、カメラは自動的にピントを合わせます。

カメラ内臓の露出計により、カメラはシャッター速度と / または絞り値の組み合わせである適切な絞り値を決定します。

カメラは自動露出ロックで露出値を決定し、記憶します。たとえば、被写体が中央にあり、コンポジションの露出値が決定している場合、コンポジションの変更があったり、被写体がスクリーンの中央から移動しても、背景の輝度は露出に影響を与えません (AE ロック ボタンを使用してください。)

AF モードで、中心となる被写体の焦点をロックできます。たとえば、ファインダーの中央にお好みの被写体を配置します。同じ設定で焦点がロックしている状態で、被写体を脇に配置しなおし、写真を撮影します。(この機能を使うにはシャッター ボタンを半押ししてください。)

一定の露出に対する光量を表す数値。これは写真の被写体の輝度と撮像素子の感度に左右されます。写真の被写体が明るい、露出値は大きくなり、被写体が暗いと露出値は小さくなります。2 倍の光量が撮像素子に届くと、露出値は +1 増え、半分の光量だと露出値は -1 ほど少なくなります。

レンズ絞りリングの番号のことで、レンズ絞り開口の口径を示します。

ISO は、フィルムの感度を表す国際標準です。数値が高くなると感度が大きくなり、その逆も同様です。たとえば、ISO 200 の感度は ISO 100 の 2 倍、ISO 400 の半分です。カメラの ISO 設定を変更する場合は、イメージャーの感度を対応するフィルムの感度と同じになるように調整します。

JPEG (Joint Photographic Experts Group) はデジタル画像の圧縮、伸長の標準方法を確立しました。圧縮率が高ければ、ファイルサイズは小さくなりますが、写真の質は落ちます。

液晶ディスプレイ：ご使用のカメラには次の 4 つの LCD が搭載されています。上部表示パネル、背面表示パネル、画像表示パネル、およびファインダー内の LCD。

NTSC (National Television Standards Committee) のビデオ形式は、主にアメリカ、日本、カナダなどで使用されています。NTSC はテレビ、

	ビデオの標準方式で、毎秒 30 フレーム (インターレース方式) の垂直走査周波数を持つ複合ビデオ信号です。各フレームは 525 本の走査線があり、 1600 万の異なった色を持てます。
PAL	PAL (Phase Alternating Line) のビデオ形式は、主にオーストラリアや一部の極東地域、フランスを除くヨーロッパで使用されています。 PAL は 635 本の走査線を持ち、毎秒 25 フレームで表示されます。
Raw 画像	Raw 画像フォーマットはカメラの画像センサーから直接送られるデータです。画像がコンピュータへ送信される前はカメラ内部の処理は行われません。
色温度	光源から作り出される光の明暗の数値。色温度の基準単位は、ケルビン温度 (K)。低い色温度は暖かく、黄色または赤系の光を表すのに対し、高い色温度は冷たく、青系の光を表します。タングステンの光の標準的な色温度は 3200 K 、パソコンは 9300 K です。
自動電源オフ	カメラの調整つまみを触らなければ、バッテリー節約のため自動的にカメラの電源が切れます。
絞り	レンズ内側のアイリス絞りのレンズ開口。画像センサーが捕らえる光量はアイリス絞りで調節されます。 F 値 (焦点距離・絞り直径) はこの開口サイズのことです。絞り値は大小のサイズがあります。大きいしぼり (F 値 が低い) は明度が高く、小さい絞り (F 値 が高い) は明度が低くなります。
シャッター速度	カメラのシャッターは画像要素に達する光量をコントロールするために一定の間開きます。光が画像センサーに届くようにシャッターが開いている一定の時間をシャッター速度といいます。
相補性金属酸化膜半導体 (CMOS)	相補性金属酸化膜半導体 (CMOS) はピクセル毎の信号増幅を可能にしました。切り替え操作の間のみ、多くの電流が流れます。つまり、 CMOS 画像センサーはデータを迅速にスキャンし、高速操作を維持、エネルギーを節約します。
被写界深度	被写体とその周り、前後のピントの合う範囲
ヒストグラム	画像ヒストグラムは画像の色調値の範囲と配分を示します。ヒストグラムの一番下にあるチェックマークは、出荷時設定 18% グレーレベルに比較した写真の絞りを表しています。絞りの範囲は、 +3 から -7 までです。複縦線のチェックマークは、 18% グレーに対応する露出値です。ダブルマークの右側のチェックマークは、 18% グレーより 1 絞りだけ明るいことを示し、左側のチェックマークは 18% グレーよりも 1 絞りだけ暗いことを示

ホワイト バランス

します。

人間の目と大脳は、光源の強度だけでなく、その色の特徴と
いった光の状況の変化に適応するので、物体の色は正常、また
は正確に見えるのです。たとえば、白い物体は太陽光線の下で
あれ、タングステン、または蛍光のイルミネーションの下あつ
ても、白く見えます。カメラを調節すれば、異なったタイプの
イルミネーションの下でも、色は正確に現れます。この調節は
ホワイト バランスと呼ばれます。

マイクロドライブ

IBM により開発されたマイクロドライブは CompactCard メモリ
スロットに取り付ける小さなハードディスクです。マイクロ
ドライブは Type II CompactFlash フォーム ファクタに組み込まれ
ています。

露出

撮像素子に届く光の量 露出は絞りとシャッター速度の組み合わ
せで制御されます。

露出補正

この機能で意図的に写真をオーバー露出にしたり、アンダー露
出にできます。

露出モード

プログラム オート: カメラは正確な露出のためシャッター速度
と絞りを設定します。

シャッター優先自動: シャッター速度を選択すると、カメラは
正しい露出のために適切な絞りを設定します。

絞り優先自動: 絞りを選択すると、カメラは正しい露出のため
に適切なシャッター速度を設定します。

マニュアル: 露出計の表示に従い、シャッター速度と絞りを選
択します。



索引

数字

4-way スイッチ、2-7

A

AE ロック、7-16

C

CF カード、6-1

COMPACTFLASH カード、6-1

CR 2032 コイン型リチウム電池、3-6

D

DCS Pro SLR/c

上面、2-2

前面、2-1

側面、2-3、2-4

底面、2-3

電源を入れる、2-6

背面、2-2

メディアドア、2-4

I

ISO、5-19

画像表示パネルを使用して設定する、5-19

カメラの制御機構を使用して設定する、5-19

ベーシックモードでの設定、4-4

J

JPEG

解像度、6-12

画質、6-13

L

LCD

低温下での応答時間、14-5

M

MMC カード、6-1

MULTIMEDIA カード、6-1

O

OK ボタン、2-8

S

SD カード、6-1

SECURE DIGITAL カード、6-1

V

VCCI、1-6

あ

安全上の注意、1-3

い

イメージャー

クリーニング、14-3

インターバル撮影、5-16

設定の変更、5-17

え

液晶モニター

画像表示パネル、2-10

上部表示パネル、2-10

背面表示パネル、2-13

お

オートフォーカス、8-1

オートフォーカスが上手く機能しない場合、8-2

オート露出補正、6-14

オーバー露光表示、11-8

ベーシックモードでのオンとオフ、4-9

音声ファイル、11-13

音声ファイルの記録、11-13

か

カードリーダー、13-3

解像度

JPEG、6-12

Raw、4-6、6-12
 ベーシックモードでの設定、4-6
外部ビデオ、12-1
 接続、12-1
 有効化、12-2
拡張端子、2-21
カスタム設定、5-3
カスタム設定表、5-3
画像
 削除、11-11
 タグを付ける、11-12
 表示、画像の表示を参照
画像にタグを付ける、11-12
画像の削除、11-11
画像のシャープネス、6-16
画像の選択、11-7
画像の表示、11-1
 外部ビデオ、12-1
 画像表示モードの選択、11-1
 ズーム表示モード、11-4
 照度計の十字ポインタ、11-5
 ズーム対象領域の有効化または無効化、11-4
 ヒストグラムモード、11-3
 複数画像モード、11-5
 ブラウズ、11-7
画像のブラウズ、11-7
画像表示パネル、2-10
 表示する、2-11
画像表示モードメニュー、表示時間の変更、11-2
画像、選択、11-7
カメラ
 クリーニング、14-2
 上面、2-2
 前面、2-1
 側面、2-3、2-4
 底面、2-3
 電源を入れる、2-6
 取り扱い、14-1
 背面、2-2
 保管、14-5
 メディアドア、2-4
カメラに電源を入れる、3-1
 コダック プロフェッショナル DCS Pro バッテリーを使用、3-2
 コダック プロフェッショナル DCS Pro パワーモジュールを使用、3-2
カメラの基本操作、4-15
カメラのクリーニング、14-2

カメラのセットアップ、5-1
カメラの手入れ、14-1
カメラの取り扱い、14-1
カメラの保管、14-5
画面コントラスト
 ベーシックモードでの変更、4-8
画面コントラスト、変更、11-8

き

キャンセルボタン、2-8

く

クリーニング、イメージャー、14-3
クリック WB、7-3
 カメラへの設定の保存、7-5
 現在の画像を使用、7-3
 保存された設定の削除、7-6
 [保存済み WB 設定] メニュー、7-3
 保存済み WB 設定の使用、7-4
 メモリカードからの設定の読み込み、7-6
クロップアスペクト比、6-11

け

警告、1-2
言語、選択、5-12

こ

コダック プロフェッショナル DCS Pro チャージャー兼アダプター、3-2
 使用してカメラに電源を入れる、3-2
 使用してバッテリーを充電する、3-2
コダック プロフェッショナル DCS Pro バッテリー、3-2
コダック プロフェッショナル DCS Pro パワーモジュール、3-2
コンピュータ
 接続、13-1、13-2
 切断、13-3
コンピュータへのカメラの接続、13-1

さ

撮影
 縦位置用、5-14

し

時刻 / 日付
 設定、5-13
 ベーシックモードでの設定、4-13

自動露出ブラケットイング、7-18
 視度調整、2-19
 絞り優先自動露出モード、7-11
 シャッター優先 AE モード、7-12
 仕様、A-1

上部表示パネル、2-10

ショートカット

背面表示パネル、2-15

ホットキー、2-16

初期設定、リセット、5-13

ジョブトラッカー、5-10

カメラのメモリからファイルを読み込む、5-12

コンピュータのファイルをメモリカードに保存する、5-10

ファイルをメモリカードから読み込む、5-11

シンクロ端子、2-21

す

ズーム、11-4

ズーム表示モードのズーム対象領域

有効化と無効化、11-4

ズーム表示モード、11-4

ステータスバー、11-5

ステータスボタン、2-9

ストラップ、2-23

そ

ソフトウェア

コダック プロフェッショナル DCS Camera
 Manager、9-6

コダック プロフェッショナル DCS ERI File Format
 Module、9-5

コダック プロフェッショナル DCS Photo
 Desk、9-5

た

タグ / 録音ボタン、2-9

縦位置シャッター

ロックとロック解除、5-14

ち

長時間露光モード、5-15

て

デジタル表示パネル

ベーシックモード、4-3

デジタル表示ボタン

ベーシックモードでのメニュー オプションへの
 ショートカット、4-3

デジタルボタン、2-7

デリートボタン、2-9

電源を入れる、2-6

電波障害、1-6

と

ドライブモード、5-20

トラッキング ジョブ、5-10

トラブルシューティング、C-1

な

ナビボタン、2-8

の

ノイズ除去、6-15

は

背面表示パネル、2-13

背面表示ボタン

メニューオプションへのショートカッ
 ト、2-15

バッテリー

CR 2032 コイン型リチウム電池、3-6

充電、3-2

状態のチェック、3-4

省電力時間、5-2

節約、3-5

挿入、3-4

廃棄、3-6

バッテリーの充電、3-2

バッテリーの挿入、3-4

バッテリーの取り外し、3-4

バッテリーの廃棄、3-6

パン、11-4

ひ

被写界深度プレビューボタン、2-20

ヒストグラム モード、11-3

ヒストグラム、解釈、11-3

ふ

ファームウェア

コンピュータにダウンロード、5-6

ベーシックモードでの更新、4-11

ファームウェアバージョン

チェック、5-5

ベーシック モードでの確認、4-10
ファイル
JPEG 出力解像度、6-12
RAW 出力解像度、4-6、6-12
削除後のリカバリー、6-7
フォーマット、6-3
フォーマットの選択、6-3
命名、5-8
ファイルのリカバリー、6-7
ファインダー、2-6
フォーカス、8-1
ロック、8-4
フォーカス モード、8-1、8-2
マニュアル、8-4
フォルダ
クロップ アスペクト比の設定、6-11
作成、6-10
撮影した画像の選択、6-9
命名、5-8
フォルダおよびファイルの命名、5-8
複数画像モード、11-5
ブラケットイング、7-18
フラッシュ撮影、10-1
プログラム自動露出モード、7-8

へ

ベーシック メニュー、使用法、4-2
ベーシック モード、4-1
ISO の設定、4-4
オーバー露光表示をオンまたはオフにする、4-9
カードのフォーマット、4-7
解像度の設定、4-6
画面コントラストの変更、4-8
時刻と日付の設定、4-13
設定、4-2
デジタル表示パネル、4-3
ファームウェア バージョンの確認、4-10
ファームウェアの更新、4-11
メニュー オプションへのホットキー ボタン
ショートカット、4-14
ユーザー モードの設定、4-13

ほ

保証、D-1
ホットキー、2-9
設定、5-9
メニューオプションへのショートカッ
ト、2-16

ホットキー ボタン
ベーシック モードでのメニュー オプションへ
のショートカット、4-14
ホットシュー、2-21
ホワイト バランス、7-1
クリック WB。クリック WB を参照
プリセット、7-2

ま

マニュアル フォーカス モード、8-4
マニュアル露出モード、7-13

め

メニュー、2-14
ナビゲート、2-14
メニューボタン、2-8
メモリ カード、6-1
挿入、6-2
取り外し、6-2
フォーマット、6-6
ベーシック モードでのフォーマット、4-7
メモリ カードのフォーマット、6-6

ゆ

ユーザー モード
設定、5-1
デジタルファンクションのベーシック モー
ド、4-1

よ

用語解説、1-1

り

リセット
初期設定、5-13

る

ルック
プロダクト、6-15
ポートレート、6-15

れ

レンズ、2-17
互換性、B-1
取り付ける、2-17
取り外す、2-18

ろ

- 露出、7-1
- 露出測光システム、7-7
 - 選択、7-7
- 露出補正、7-17
- 露出モード
 - 画像の撮影、7-7
 - 絞り優先自動、7-11
 - シャッター優先自動、7-12
 - プログラム自動、7-8
 - マニュアル、7-13
- ロック、フォーカス、8-4

わ

- ワークフロー、9-1
 - カメラがコンピュータに接続されていない場合、9-1
 - 画像の転送、9-4
 - 画像の編集、9-4
 - 撮影、9-3
 - 装置と媒体の準備、9-2
 - テスト画像の撮影および評価、9-3
 - 時々の確認、9-4
 - カメラがコンピュータに接続されている場合、9-6
 - 画像の転送、9-4
 - 画像の編集、9-6
 - コンピュータおよび電源への接続、9-6
 - 撮影、9-6
 - 撮影ソフトウェアの起動、9-6
 - 装置と媒体の準備、9-6
 - テスト画像の撮影および評価、9-6
 - 時々の確認、9-6



